

# 平成 28 年度

# 事業報告

## 目 次

I 組織運営	( 1 )
II 重点事業	( 5 )
III 各部署の事業報告	( 16 )
【経営管理課】	
総務係	( 16 )
白百合福祉作業所	( 28 )
かたくり福祉作業所	( 34 )
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	( 42 )
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	( 49 )
【地域福祉課】	
ボランティア・地域福祉推進センター	( 56 )
権利擁護センターほっとサポートねりま	( 66 )
練馬障害福祉人材育成・研修センター	( 74 )
生活サポートセンター	( 78 )
資料	( 82 )



## I. 組織運営

平成 28 年度は、区政改革を受け公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合を検討し、12 月の理事会・評議員会で「公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合に関する基本的方向性の合意について」、29 年 3 月の理事会・評議員会で「公益財団法人練馬区障害者就労促進協会の統合に関する合意について」を決議し、平成 30 年 4 月に統合することになった。

### 1. 法人運営

#### (1) 役員および評議員等（平成 29 年 3 月 31 日現在）

区分	理事	監事	評議員	相談役
定数	15 名	2 名	37 名	若干名
現員数	15 名	2 名	37 名	1 名

#### (2) 会議関係

##### ア. 理事会

年月日	内 容
H28. 5. 20	(1)平成 27 年度 事業報告について (2)平成 27 年度 収入支出決算について (3)平成 28 年度 収入支出補正予算について (4)規程の改定について (5)評議員の選任同意について
H28. 9. 12	(1)社会福祉法の改正に伴う定款の変更について (2)平成 28 年度 収入支出補正予算について (3)規程の改定について (4)練馬区と社会福祉法人練馬区社会福祉協議会との業務運営に関する協定について
H28. 12. 19	(1)公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合に関する基本的方向性の合意について (2)評議員選任・解任委員会の設置と選任同意について (3)規程の改定について (4)評議員の選任同意について
H29. 2. 21	(1)新評議員の推薦について (2)規程の改定について (3)評議員の選任同意について
H29. 3. 23	(1)公益財団法人 練馬区就労促進協会の統合に関する合意書について (2)平成 28 年度 収入支出補正予算について (3)平成 29 年度 事業計画について (4)平成 29 年度 収入支出予算について (5)規程の改定について (6)貸付金の償還免除について (7)施設長の任命について

##### イ. 評議員会

年月日	内 容
H28. 5. 20	(1)平成 27 年度 事業報告について (2)平成 27 年度 収入支出決算について (3)平成 28 年度 収入支出補正予算について (4)規程の改定について (5)理事の選任同意について
H28. 9. 12	(1)社会福祉法の改正に伴う定款の変更について (2)平成 28 年度 収入支出補正予算について (3)規程の改定について (4)練馬区と社会福祉法人練馬区社会福祉協議会との業務運営に関する協定について
H28. 12. 19	(1)公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合に関する基本的方向性の合意について (2)規程の改定について (3)理事の選任同意について
H29. 2. 21	(1)規程の改定について
H29. 3. 23	(1)公益財団法人 練馬区就労促進協会の統合に関する合意書について (2)平成 28 年度 収入支出補正予算について (3)平成 29 年度 事業計画について (4)平成 29 年度 収入支出予算について (5)規程の改定について (6)貸付金の償還免除について

##### ウ. 監事会

年月日	内 容
H28. 5. 16	(1)平成 27 年度事業報告について (2)平成 27 年度収入支出決算について

##### エ. 評議員選任・解任委員会

年月日	内 容
H29. 3. 7	(1)新評議員の選任について

## 2. 会員・会費・寄付等の状況

### (1) 会員・会費

※ ( ) 内は前年度との比較増減

区 分	対 象	件 数	金 額
正 会 員	個人 (年会費 500 円以上)	2,428 名 (22 名減)	2,171,860 円 (110,840 円減)
特別会員	個人 (年会費 3,000 円以上)	687 名 (41 名減)	2,305,500 円 (100,500 円減)
団体会員	町会自治会、施設団体等 (年会費 5,000 円以上)	293 件 (20 件増)	4,827,000 円 (3,665 円増)
計		3,408 件 (43 件減)	9,304,360 円 (207,675 円減)

### (2) 寄 付

※ ( ) 内は前年度との比較増減

区 分	件 数	金 額
一 般 寄 付	219 件 (44 件減)	4,932,849 円 (73,598,323 円減)
ボランティア・地域福祉推進センター 寄付	25 件 (5 件増)	505,433 円 (217,845 円増)
計	244 件 (39 件減)	5,438,282 円 (73,380,478 円減)

### (3) 積立金・基金

#### ア. 積立金

名 称	積立金額	目 的
財源調整積立金	306,384,731 円	予想できない大きな収入減、あるいは支出増に備え、年度間の財源を調整し、財源の安定を図る。
運用資金積立金	20,000,000 円	年度当初において、区の補助金等の収入が確保されるまでの間、法人運営に必要な資金に充てる。
退職給与引当金積立金	235,477,908 円	将来的な退職金の支出に備え、退職金の積立を行う。
計	561,862,639 円	

#### イ. 基 金

名 称	基金額	目 的
ボランティア基金 (昭和 61 年度設置)	209,389,352 円	地域福祉の向上を目指し、民間ボランティア活動の育成助成を目的とする。
福 祉 基 金 (平成元年度設置)	259,869,359 円	自主財源の確立により事業運営の安定を図るとともに、計画性ある活動の維持・推進を目的とする。
碓井ミヨシ基金 (平成 3 年度設置)	85,218,979 円	故・碓井ミヨシ氏の遺志により、高齢者福祉の向上に役立てることを目的とする。
長尾幸作基金 (平成 4 年度設置)	200,000,000 円	故・長尾幸作氏の遺志により、低所得者への修学育英資金と一時的な生活困窮者の救済のための法外援護緊急たすけあい事業を目的とする。
福祉の森の燈火基金 (平成 5 年度設置)	10,000,000 円	区民の福祉向上、特に高齢者の介護の質的・量的向上に対する助成および育成を目的とする。
計	764,477,690 円	

### 3. 第4次地域福祉活動計画の策定・推進

#### (1) 「地域福祉活動計画策定・推進評価委員会」の開催

第4次地域福祉活動計画の策定・推進を目的に委員会を設置し、平成28年度は3回開催した。第4次地域福祉活動計画では、さらなる地域福祉活動の推進を目指して、地域の福祉を進める人たちを地域福祉協働推進員（ネリーズ）と位置づけ、募集を行い、シンポジウムの開催と地域の課題や良いところを共有するための機会として「ネリーズ懇談会」を実施した。区政改革を受け公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合など、社協を取り巻く環境の変化を委員会で共有し、今後の小地域福祉活動の推進方策などについても検討を行った。

開催	年月日	内容
第1回	H28.6.24	1. 第4次地域福祉活動計画ユニバーサルデザイン版の作成 2. 練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画について 3. 第4次地域福祉活動計画の進捗状況 4. 地域福祉協働推進員（ネリーズ）の取り組み
第2回	H28.11.7	1. 第4次地域福祉活動計画の進捗状況 2. 練馬区の取り組みについて（平常時にゆるやかに見守りあえる地域づくりの見直しについて、区民協働交流センターの取り組み、就労促進協会と練馬区社会福祉協議会の統合について） 3. 今後の第4次地域福祉活動計画の推進方法について
第3回	H29.2.27	1. 第4次地域福祉活動計画の進捗状況 2. 地域福祉協働推進員（ネリーズ）の取り組み（勉強会、懇談会等） 3. 第4次地域福祉活動計画の今後の推進に向けて

#### (2) 「推進部会」

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会の事務局運営の役割を担い、地域福祉活動計画の推進と評価を行うため、社協の各部署職員で構成する部会。各部署、各委員会の地域福祉活動計画の取り組みの内容や進捗状況の把握を行った。全13回。

第4次地域福祉活動計画の2年目として、地域福祉コーディネーターと地域福祉協働推進員（ネリーズ）が協働し、小地域福祉活動のさらなる充実を図るため、シンポジウムの開催、懇談会や勉強会等の実施を通じて広く地域福祉活動の推進と地域福祉協働推進員（ネリーズ）の周知に努めた。また、情報の共有や新たなつながりの構築を目指して、ネリーズ登録者を対象に「ネリーズ通信」を5回発行した。

#### (3) 委員会活動

第4次地域福祉活動計画の推進にあたり、委員会を設置し推進を図った。

※詳細はP.5【委員会活動】参照

相談業務課題調整委員会、広報委員会、実習委員会、安全対策委員会、財源検討委員会、どんぐりの家（土支田の家）運営委員会への支援

#### (4) 活動計画推進の評価

第4次地域福祉活動計画の基本方針である、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」「課題に気づき支えあう地域力の向上」を目指して、日常的なつながりを深める「地域の気づきの視点」と今日的な地域課題に対応する「個別の育ちあいの視点」の2つの視点をもって、地域福祉コーディネーターが地域に出向き、地域福祉協働推進員（ネリーズ）の周知や活動を通じて小地域福祉活動の推進に取り組んだ。また、シンポジウムや勉強会を開催し、さらに各地域で実施された懇談会では、住民が主体的に地域づくりに関わっていくことの意義や必要性を共有することが出来た。

2月に開催した策定・推進評価委員会では、地域福祉協働推進員（ネリーズ）との協働や取り組みについてのワークショップ・意見交換を行い、第4次計画についてはこれまでの計画通り進めていくこと、また第5次計画においても継続して取り組んでいくことが確認された。

#### 4. 苦情解決制度

利用者・相談者からの苦情に対する体制を整え、利用者・相談者の権利を擁護するとともに、事業の改善と信頼確保を図るため、平成 15 年度から第三者委員による苦情解決制度を設けている。

平成 28 年度は、苦情受付担当者会議を年 4 回開催し、各部署で受けた苦情内容の情報共有を行うとともに、苦情傾向の分析を行った。また、「苦情解決第三者委員会・苦情受付担当者会議」を年 2 回開催し、苦情解決第三者委員に事業改善のための意見を求めた。また、苦情解決第三者委員による施設巡回を行い、施設利用者や家族からの相談を受けた。

##### (1) 事業実績

###### 苦情解決第三者委員会・苦情受付担当者会議

開催	年月日	内 容
第 1 回	H28. 6. 6	平成 27 年度下半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他
第 2 回	H28. 11. 25	平成 28 年度上半期苦情報告、第三者委員福祉施設巡回報告、情報交換 他

###### 苦情解決第三者委員による福祉施設巡回

白百合福祉作業所	利用者家族との懇談 1 回 (H28. 9. 5) 利用者との個別面談 1 回 (H29. 2. 24)
かたくり福祉作業所	利用者との個別面談 1 回 (H28. 9. 12) 利用者家族との懇談 1 回 (H29. 2. 10)
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	利用者との個別面談 1 回 (H28. 8. 27)
石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	利用者との個別面談 2 回 (H28. 7. 23、H29. 1. 28)

##### (2) 苦情等の内容分類

苦情	職員の接遇	11 件
	事業の進め方	26 件
	社協の事業内容	3 件
	制度	4 件
	被害・損害	0 件
	権利侵害	1 件
	その他	1 件
計		46 件

要望・意見	31 件
社協事業外	1 件

##### (3) 苦情対応状況分類

助言	0 件
謝罪	28 件
説明	16 件
紹介・伝達	0 件
申し立て他	0 件
その他	2 件
計	46 件

##### (4) 苦情分析結果

苦情の再定義を示した平成 25 年度以降は、定期的で開催する苦情解決担当者会議の中で、各部署での苦情を情報共有し、各々の部署がその後の取り組みに活かしている。また、各職員が、苦情等への迅速な対応および苦情内容や対応についての職員間の情報共有を意識して行っていることなども減少の要因になっていると考えられる。

「苦情」については、平成 28 年度は平成 27 年度に比べ 2 件の微増で、件数の大きな動きはなかった。苦情解決担当者会議を中心に行っている情報共有が、苦情解決の一つの方法として定着していることが認められる。今後も継続的に取り組み、苦情の減少に努めていく。

その反面、苦情内容の 57%が「事業の進め方」であり、苦情対応の 61%が「謝罪」、35%が「説明」と大きな割合を占めている。このことは職員が事業内容の理解を深め、より丁寧でわかりやすい事業説明および対応が求められていると言える。次年度以降は、この点に注力し、取り組みを図っていく。

「要望・意見」に関しては、数件の増加は見られるが、平成 26 年度以前と比べると減少傾向にあり、できる限り事業にも反映して取り組んでいることが結果となって表れていると思われる。今後とも、可能な限り事業等に取り入れながら、より良い事業推進に努めていく。

## II. 重点事業

### 【練馬区社協全体の取り組み】

平成 28 年度は、第 4 次地域福祉活動計画を踏まえ、以下の取り組みを重点事業として位置づけ、地域福祉の向上に取り組んだ。また、その年の災害等の状況に応じ柔軟な対応を図った。

#### 1. 第 4 次地域福祉活動計画の重点的な取り組み

27 年度に策定した第 4 次地域福祉活動計画では、理念として「ひとりの不幸も見逃さない～つながりのある地域をつくる～」を継続し、日常的なつながりを深める「地域の気づきの視点」と今日的な地域課題に対応する「個別の育ちあいの視点」の 2 つの視点を持ち計画を推進した。重点事業としては、住民が地域福祉向上に取り組む「地域福祉協働推進員」（通称 ネリーズ）の PR を行い、354 名（3 月 31 日現在）が登録し、計画期間内の目標の半数に達した。また、シンポジウムを開催し（1 回）、多くの参加者を得た。さらに、地域の関係者・ネリーズが集まる地域懇談会を定期的で開催し（7 回）、勉強会（1 回 3 日間）等で参加者の思いや活動内容などを共有し、小地域福祉活動の推進に努めた。

#### 2. 継続した重点的な取り組み事業・運営

「受託施設・受託事業の安定した運営」「区民本位のサービス提供と社会福祉協議会の知名度や好感度の向上」「相談業務の充実と職員のスキルアップ」に継続的に取り組んだ。また、労働安全衛生法の改正による「ストレスチェック」を全職員対象に実施し、労務環境の改善を図った。「情報セキュリティ対策」「特定個人情報（マイナンバー）」については、特定個人情報を取り扱う担当者しか使用できない管理区域を設ける等、管理を徹底した。

法人業務は、会計・人事・社会保険などを適切に行うため専門家と連携し、効率的に行った。

#### 3. 社会福祉法改正の対応と社会貢献（地域公益）事業への取り組み

前年度に引き続き、練馬区内に法人本部や事業所を設ける社会福祉法人 64 法人に声掛けを行い、「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた連絡会（今後は、ねりま社会福祉法人等のネットとなる）」で法改正に関する情報共有や施設同士の情報交換を行った（2 回）。また、大泉地区、関・立野地区の 2 地区においてモデル事業の実施等に取り組む、モデル地区以外の地域（練馬地区・光が丘地区・石神井地区）においても各法人・事業所の情報交換を行い、事業所の見学や今後の取り組みについて等、話し合いを行った。その結果、それぞれの地区で、就労体験の受け入れや、ねりま社会福祉法人等のネットでの迅速な情報共有のシステムなどの試みが始められた。

### 【委員会活動】

第 4 次地域福祉活動計画の推進にあたり、社協の各部署を越えて計画を推進する必要のある事業は、委員会を設置して推進を図った。

#### 1. 推進部会

※P. 3（2）参照

#### 2. 相談業務課題調整委員会

練馬区社協が効率的・包括的に相談を受け止め、解決していくために、組織内連携システムの構築を目指して下記の事業に取り組んだ。

##### （1）拡大ケース検討会の定期的開催

広く地域の福祉関係者に呼びかけてケース検討会を 2 回行い、具体的な事例を通して、関係機関との情報共有・連携の大切さ、課題の捉え方や解決に向けた支援のあり方等を学び、相談支援のスキルアップを図った。また、組織内連携のための取り組みを学びたいと他社協からの参加があった。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H28. 8. 4 18:00 ~ 20:50	「複雑な状況や背景が見えづらい、主訴がわかりづらい相談で、相談者を受け止め、支援に繋いでいくための相談技術やみんなの経験値を語り合う」（総務係）	練馬区社協職員、 他社協職員	石神井公園 区民交流センター 展示室兼集会室	51 名
H29. 2. 2 18:00 ~	「ニーズを把握しづらい方へ寄り添い、適切な支援の方法をさぐる」（豊玉障害	練馬区社協職員、 練馬区障害者	石神井公園 区民交流センター	58 名

20:50	者地域生活支援センターきらら)	就労促進協会、 他社協職員	展示室兼集会室	
-------	-----------------	------------------	---------	--

※スピーカー：神奈川県立保健福祉大学教授、東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎美貴子氏

## (2) 各部署の相談業務への側面支援

各部署の相談ケースを通じて組織内連携の方法を学ぶとともに、困難ケースに関する情報共有や意見交換を行った。

## (3) 相談解決に役立つ資源マニュアルの改訂版「練馬区社協職員向け相談解決ナビ」の作成

相談解決に役立つ資源マニュアルの改訂版「練馬区社協職員向け相談解決ナビ」の意義を改めて委員会内で確認し、内容を精査した上で、より実践の場で活用可能な内容に更新した。改訂版は平成29年3月に作成し4月配布した。

## 3. 広報委員会

社協の理念、事業への理解を拡充するために、社協の拠点を活かした積極的な広報活動を展開した。

### 活計

### (1) それぞれの地域拠点で地域住民とともに、キャラクターの活用・展開

ア. 地域住民とともにキャラクターの活用方法を検討し、様々に出た意見を「広報派遣担当評価シート」で共有した。シートで共有した来場者や派遣職員の意見を課題シートにまとめて話し合い、工夫や改善をしてキャラクターの活用や広報活動を行った。

イ. それぞれの地域拠点を中心に地区祭や地域の交流イベントへ積極的に参加し、社協の広報活動を行った。広報派遣イベント数：主催3回・地域イベント23回(地区祭7カ所、練馬ファミリーまつり、練馬まつり、練馬子ども笑店街、ねりまこぶしハーフマラソン等)。

ウ. 広報大使「ネリー」として、着ぐるみやネリーのロゴが入った文具、出版物等を継続的に安心して使用できるように、指定商品区分の6分類の商標登録を行った。

### (2) 地域住民やネリーズとともに、地域のつながりを意識した社協PRの充実

ア. 社協だよりの記事として使う写真を、地域に住む写真家にボランティアで協力してもらうなどボランティアやネリーズとともに、社協のPR活動を行った。

イ. 第4次地域福祉活動計画について地域住民に広く周知するため、活動計画冊子と連動した内容のタブロイド版社協だよりを新聞折り込みで3月に配布した(24.3万部)。効果を図る目的でイベントの際にアンケートを実施し、3割以上の区民が社協だよりを知っていると回答した。

### (3) 多くの人々に社協を知ってもらうための幅広い年齢層に応じた広報媒体の検討

ア. 幅広い年齢層に応じた広報媒体とし、SNSの活用や見やすく検索しやすいホームページにするため、社内アンケートを実施し様々な視点からの意見を集約し、検討を行った。

イ. ネリーのLINEスタンプやペーパークラフトを製作し幅広い年齢層に社協の広報大使ネリーを知ってもらう機会を作った。

## 4. 実習委員会

福祉の人材育成の一環として資格取得等を目指す学生を受け入れた。また、実習を効果的かつ円滑に遂行するための受け入れ体制の充実を図った。活計

### (1) 実習の効果を高めるための取り組み

ア. 実習開始前から学校との情報交換を丁寧に行い、実習生個別の状況・ニーズに合わせた実習内容の提案等を行った。

イ. 振り返りや面談の際にヒアリングを丁寧に行い、実習生の抱える不安や課題を委員会で検討し実習生に返すことで、不安の解消や課題の解決につながり、さらに学びを深めるための対応ができた。

ウ. 実習生が司法修習生とともに学ぶ機会を設け、目的や視点の違い・共通点等を共有することで、相互に学び合う環境を充実させた。

エ. 養成校の実習報告会(社会福祉士6校、精神保健福祉士2校)に参加し、学校との連携や情報共有を行った。

### (2) 職員研修等による実習受け入れ体制の強化

ア. 実習受け入れ担当者向けに面接スキルの研修を行い、実習の中で活用できるよう学んだ。

イ. 実習受け入れが決定した養成校に対し実習説明会を実施し、実習内容の周知・情報交換等を行い、学校との関係づくりに努めた。また、実習生の守秘義務の遂行について指導方法等を共有した。



ウ. 実習指導者講習会 1名受講

**(3) 実習生の受け入れ**

- ア. 社会福祉士資格取得 18名
- イ. 精神保健福祉士資格取得 4名
- ウ. 司法修習生 2名
- エ. 保育士資格取得 2名
- オ. 教員(介護等体験)免許取得 6名
- カ. 看護師・保健師(施設体験) 10名
- キ. 見学実習等 4校 7回 57名

**(4) 新任職員研修の企画・実施の協力**

練馬障害福祉人材育成・研修センターと連携し、各部署での新任研修を企画・実施した。  
(平成 28 年度：11 名)

**5. 安全対策委員会**

災害時の練馬区災害ボランティアセンター開設に向けた組織的な対応の検討や大規模災害対策対応マニュアルの整備及び社協内の情報共有を進めるため検討を行った。

**(1) 町会・自治会の訓練の参加や防災に関する学習会の開催など地域とのつながりを意識した取り組み**

避難拠点運営連絡会の定例会、町会や消防署主催の防災訓練、区職労主催のイベント等に参加や練馬高校の防災学習に協力し、災害ボランティアセンターの意義や役割について説明し、周知を行った。また、ボランティア・地域福祉推進センターと共催で災害シンポジウム「災害にどう備える!?～日頃からのつながりが地域を守る～」を開催した(11/23、参加者 88 名)。

**(2) 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練や各部署における避難訓練等の開催**

災害ボランティアセンター立ち上げ訓練では、これまでの訓練の検証をふまえ、開設および役割・運営手順の確認、役割・機能の周知等を目的により効果的な訓練(3/9)を練馬区と共催で行った(近隣町会自治会、障害者団体、ボーイスカウト、災害ボランティアコーディネーター育成講座受講生、他区社協職員等参加者 100 名)。事前に役割・運営手順を確認するためのプレ訓練を実施した(1/12)。参加者から感想、意見を集約し、課題を次年度の訓練に反映させることとする。また、各部署において BCP に基づいた「地震」「火事」「震災」のいずれかを想定した避難訓練を実施した。

**(3) 職員向け研修(参集訓練)の開催**

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H28. 7. 4 18:30~20:45	「災害ボランティアセンターのより良い運営のために」～障害当事者の参加から学ぶこと～ 講師:練馬区視覚障害者福祉協会会長の野碩郎氏、練馬区聴覚障害者協会理事 中島慎朗氏。	社協職員	ココネリ研修室	36 名
H28. 12. 16 11. 14、11. 24	大規模災害が発生した際の職員の参集状況を把握することを目的に 8 時半までに各部署へ公共交通機関以外での参集訓練を実施	社協職員	各部署	72 名

**(4) マニュアル・ミニマニュアルの整備と対応**

大規模災害対策対応マニュアル/練馬区災害ボランティアセンター立ち上げマニュアル<基礎編>については、「大規模災害対策対応マニュアル事業継続計画(BCP)編」へ、<実務編>については「大規模災害対策対応マニュアル災害ボランティアセンター運営編」に整理し、改訂した。白百合、かたくり、きらら、ういんぐの 4 部署は新たに一時避難場所へ指定された点を追記した。

**(5) 各部署の備品の確認と整備**

各部署で備蓄してある災害用備品リスト一覧を改訂し、災害時活用できる備品一覧を作成した。

**6. 財源検討委員会**

計画的・安定的に財源を確保していくための方策を検討し、社協全体が継続して財源獲得に向けた取り組みを強化していくために、職員の財源に対する意識の向上を図った。

**(1) 会員会費等の課題に対する取り組み**

- ア. H28 年から 5 年間、法人への寄付金税法上の優遇措置の認定を受けられることになったため、税額控除制度について勉強会を開いた。
- イ. 募金・会費・寄付の状況を把握し、全職員の意識向上につなげた。
- ウ. 募金箱設置場所マップを作成し、現状の把握と設置増加への取り組みに活用した。

**(2) 社協の財政状況の現状把握と会費加入強化月間の取り組みの推進**

ア. 職員の会員加入率 100%を継続し、安定的な自主財源確保に向けた「みなもとアクション」と

して、職員一人ひとりが地域福祉への理解の促進と社協賛同者を増やすための活動に取り組んだ。  
 イ. 新たな募金箱の設置場所の開拓や、継続した設置へ向けた良好な関係作りに努めた。

### (3) 「会員の集い」の開催

会員の方々へ日頃の感謝を伝えるとともに社協の事業を理解してもらう機会として「つながろう広げようココロのわ」を開催した。土曜日開催にすることで、ネリーズの登録が1名、社協会員新規加入39名と多数増えた。作業所自主製品の販売や抽選会も大盛況であった。参加者のアンケートで「とてもよかった」「心打たれた」などの声が多く寄せられた。

日時	内容	対象者	場所	参加人数
H29. 1. 21 14:00 ~ 16:30	社協会員の集い「つながろう広げようココロのわ ～笑いのチカラ～お笑い芸人闘病記」 漫才コンビ松本ハウスのトークショー/社協の事業紹介/ ネリーズ(地域福祉協働推進員)活動説明/抽選会/ネリー グッズや作業所自主製品販売会	社協 会員	Coconeri3階 区民ホール	237名

### (4) 職員向け情報誌「みなもと通信」の定期発行

「みなもと通信」を年3回発行し、写真の掲載など視覚的に効果的のある紙面作りに取り組んだ。みなもとアクションの取り組みを紹介するなど、練馬区社協の財政状況や課題などへの職員の意識向上を図った。

## 7. どんぐりの家(土支田の家)運営委員会への支援

寄付を受けた土支田地域の戸建て家屋「どんぐりの家」の建物を地域に貸出し、地域のつながりづくりの拠点となる活用方法と運営について協議・検討する運営委員会を地域住民(町会、民生・児童委員、青少年育成委員など)が作り、社協もメンバーに加わって側面的な支援を行った。 活計

### (1) 拠点を活用した活動の充実(サロン、子ども食堂等)

毎週水曜日(10:30~16:00)にサロンを開催し、5月からは月1回、サロンで食事を提供する「どんぐりおとな食堂」を始めた。サロンでは高齢者相談センター第3育秀苑支所に講師を依頼し、テーマを決めて勉強会を開催した。また、6月から月1回(第1土曜日)「どんぐり子ども食堂」を開始し、対象となる子どもを誘って同行していただく等、近隣の児童館や主任児童委員と連携して行った。

### (2) 広報活動の強化

地域住民への「どんぐりの家」の周知を目的に、5月28日(土)10:30~15:00「第3回 どんぐりの家祭り」、11月12日(土)10:30~15:00「第4回 どんぐりの家祭り」を開催した。町会や地域住民、地域の施設等の協力を得てバザーや喫茶、パンや生花、野菜等の販売を行い、近隣住民を中心に50名を超える来場者があった。今後も年2回をめぐりに開催していく。

土支田地区祭で「どんぐりの家」のチラシを配布、ねりまNPOニュースの取材・記事掲載やまちかどケアカフェ「こぶし」での活動紹介等、広報活動にも努めた。

### (3) 運営体制の整備と充実

運営委員会では、必要に応じて近隣の福祉関連施設の方にも参加いただきながら、活動状況を共有し、運営の課題を出し合って解決策を話し合う等、月1回定例で開催した。また、サロンや食堂の参加者に対する賠償責任保険への加入を検討した。

練馬区 やさしいまちづくり支援事業の活動助成に応募し、冷蔵庫や調理器具類の購入やのぼり旗、リーフレットの作成等に20万円の助成金を活用した。

## 【各部署の重点事業】

### 1. 総務係

第4次地域福祉活動計画に基づいた地域福祉活動推進に取り組み、社協の役割と機能を住民に分かりやすく伝える広報・情報提供の充実に努めた。また、法人経理業務や人事・労務の管理体制について見直しを図り、危機管理・安全対策や事業規模の拡大に対応した安定的な法人運営を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1) 社協事業への理解と賛同者を増やす取り組み	会費・寄付・募金等自主財源の安定的な確保に向けて、住民、民生・児童委員、町会・自治会、団体、施設、企業、関係者への積極的な働きかけを行い、社協事業への理解と賛同を広げる取り組みを推進した。 <span style="border: 1px solid black;">活計</span>	<p>①「会員の集い」を継続開催し、39名の新規入会者を得た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域イベントへの参加を増やし、地域団体との協働やキャラクターを活用した練馬区社協の周知活動を充実させた。</li> </ul> <p>②東京都民生・児童委員キャラクター「ミンジー」とネリーとのコラボで寄付つき商品(ピンバッジ、ぼち袋)を製作し、広報活動の充実、募金実績の増収を目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当助成事業の主旨に合致する事業へ効果的に配分していくため、審査の視点の明確化を図った。</li> </ul>
(2) 法人運営体制の強化	法人経理業務や人事・労務の管理体制について見直しを図るとともに、各部署と連携しながら、情報セキュリティ対策を徹底し、事務の効率化と危機管理体制の充実を進めた。	<p>①経理顧問の往査により各拠点の執行状況の確認を行った(月1回)。適切な管理に向け新たな様式として「月次報告書」を定め全拠点で運用を開始した。また、これまでの基金のあり方や原資、目的等について再確認し、次年度以降の運用に向け方向性を定めた。</p> <p>②職場環境の維持・向上のため、産業医および社会保険労務士を交えて検討する機会を設け、必要な改正を行った(産業医…年12回・社会保険労務士…年15回)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保険労務士の指導・助言の下、社会福祉法改正に伴う変更をはじめ、適切な人事・労務管理のために各規程の改定等を行うと共に、社会保険事務等の効率的な業務推進に努めた。</li> <li>・ストレスチェック制度に基づき、職員各自がストレス状況を把握する機会として、「こころの健康診断」を実施した。</li> </ul> <p>③職員が使用するパソコンのパスワード変更や個人情報取扱いのチェックシートの実施により、情報セキュリティ体制の強化に努めた。</p>
(3) 社会状況の変化に応じた事業展開	区内の社会福祉法人の社会貢献事業に取り組むとともに社会福祉法の改正に伴う法人運営体制の整備を行った。	<p>①社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークの推進に向けて、全体会の他に福祉事務所単位4地区ごとの地域別で連絡会(8回)を実施、二つの地域をモデル地区と選定し具体的な事業の実施に向けて取り組みをすすめた。また、全体会を2回開催した。<span style="border: 1px solid black;">活計</span></p> <p>②法改正に伴う定款や役員体制の整備、さらに就労促進協会との統合に向けての検討を行った。</p>

## 2. 白百合福祉作業所

就労継続支援B型事業所として利用者本位の質の高いサービス提供に努め、障害を持つ利用者が暮らしやすい地域を目指し地域交流の充実に努めた。

事業	内容	実績・効果等
(1)利用者支援の充実	<p>①利用者一人ひとりが力を発揮できるよう作業環境を整えた。</p> <p>②利用者一人ひとりが、自分らしくいきいきと過ごせるように家庭や関係機関と連携して支援した。</p>	<p>①作業体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さをり織りの商品開発や、手すきの紙に利用者の描いた絵を使ったグリーティングカードの商品化など自主生産品の品質向上を図り収入増につながった</li> <li>・さをり織りの体験教室を開催し作業を通して地域の方と交流することができた。体験教室実施回数：6回 参加者数：10人</li> </ul> <p>②ひとり一人のサービス等利用計画を確認しながら個別支援計画を進めた。年4回の面談中心に、できる限り利用者の意向を丁寧にくみ取るよう努め、家庭や関係機関と連携して支援した。</p>
(2)地域とのつながりを深める	<p>誰もが豊かに生活していける地域を目指して「ともに生きるまちづくり活動」に取り組んだ。</p> <p>①利用者が地域の一員として、多様な活動に参加するよう取り組んだ。</p> <p>②福祉に関心を持つ人を増やすための福祉教育への協力や、地域の方々を対象とした学習会を行うとともに、ともに学び合うという視点で事業を進めた。</p>	<p>①利用者地域活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣小学校に通う児童の見守りと地域の清掃活動に取り組んだ。また、練馬区パトロール団体にも登録し、豊玉障害者地域生活支援センターういんどと同時にパトロールを実施するなど連携を図った。見守り実施回数：延べ 79 回</li> </ul> <p>②ともに学ぶ機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習会として近隣小学校に出向いたり、地域の民生委員を招くなどして、利用者が直接自分たちの取組みや作業所のことなどを地域に発信した。 <b>活計</b></li> <li>・体験ボランティアや体験学習、実習生を積極的に受け入れるとともに、その方たちからいろいろなテーマで話を聞く「学び舎白百合」を企画・実施した。受け入れ人数：39人 <b>活計</b></li> </ul>
(3)災害対策の充実	<p>利用者や地域の方々の視点も取り入れた、発災時に実効性のある対策の検討をすすめた。また、災害時に地域の方々と協働できるよう関係作りに取り組んだ。</p>	<p>①BCP（事業継続計画）をもとにした様々な訓練を実施した（毎月1回）</p> <p>②災害時の地域協働を進めるため近隣の図書館、文化施設に働きかけ情報交換会を開催した。 <b>活計</b></p>

## 3. かたくり福祉作業所

多機能型施設の特性を生かした連携を図るとともに、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたい支援の充実や家族・関係者・地域とのつながりを深めた。

事業	内容	実績・効果等
(1)利用者支援の充実	<p>利用者の主体性・個別性を活かした支援の充実を図った。働くことの自信や喜びにつながる支援を通して意欲が高まるように支援を行った。</p>	<p>①個別面談等で視覚的にわかりやすいイラスト等を使用することで、利用者が意向や希望を伝えやすくし、個別支援計画の充実を図った。</p> <p>②利用者の増員に伴い、支援グループ体制を再編し、安全・安心に配慮した作業体制の環境整備を行った。</p> <p>③利用者の希望によりポスティング作業を本格的に受託するとともに、工賃の話し合いや利用者会を通じて、利用者の希望を反映させた作業</p>

		提供や行事を実施した。
(2) 地域とのつながりを深める	<p>利用者が地域に出向く機会を増やし住民等が福祉に関心を持つきっかけづくりをすすめた。また、地域住民や町会、学校等での交流を深め、だれもが安心して暮らせる地域づくりをともに行った。</p> <p>①利用者が地域活動推進の担い手となる取り組みを行った。</p> <p>②交流を深めるきっかけづくりとして住民に施設を知ってもらう取り組みを充実させた。</p> <p>③地域で育ち合う環境づくりに取り組んだ。</p> <p>④安心・安全な地域づくりのため、地域住民や団体とともに活動した。</p>	<p>①地域講座（歌声広場、11/13）に、利用者も参加し、歌を通して地域住民と交流した。実習生や見学者に対し、利用者自らが作業所の説明を行うことで、利用者が主体となって障害や施設を知るきっかけづくりを行った。【活計】</p> <p>②近隣の福祉園と施設公開を合同開催（11/17）し、来場者へのお礼として双方の利用者が協同でしおりを作成した。また、月1回開催した「かたくりマーケット」では、住民が気軽に立ち寄れるきっかけになったと同時に、近隣事業所の商品を販売するなど連携を図った。【活計】</p> <p>③ボランティア・実習生等を積極的に受け入れた。【活計】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア（作業、行事等）延べ506名</li> <li>・福祉実習（資格取得等）32名</li> <li>・体験実習（奉仕体験等）8名</li> </ul> <p>④近隣町会が行う防災訓練や流し踊りパレード等の地域の防災活動に利用者とともに参加した。地域の児童・生徒の緊急避難所（ひまわり110番）として交流会に参加し想定訓練を行った。【活計】</p>
(3) 多機能型施設としての連携強化	多機能型施設として、就労継続支援B型と就労移行支援事業の相互支援体制の充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受託作業において相互に連携し、作業体制を整えた。</li> <li>・就労を希望するB型8名の利用者が区内の就労継続支援A型事業所を見学した。見学前には、ジョブサポートかたくりで実施している「生活支援プログラム」に参加し、働くために必要なことを学んだ。また、2名の利用者がジョブサポートかたくりで5日間の就労移行体験実習を行った。</li> </ul>

#### 4. 豊玉障害者地域生活支援センター きらら

障害者本位の質の高いサービスを提供する事業所「相談支援事業所（指定特定・指定一般）」「地域活動支援センターI型」を目指し、基幹相談支援センターとしての役割を担い、機能の充実を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1) 相談支援事業の充実	<p>基幹相談支援センターの役割を意識して、地域の中核的な役割を担った。</p> <p>①障害者地域自立支援協議会専門部会（地域生活・高齢期支援部会）を開催し、地域の課題についての具体的な検討・協議を行った。</p> <p>②家族会や地域の相談支援事業者等との連携を強化し、研修会の開催や相談支援事業についての説明会等を行った。</p> <p>③ソーシャルワーカー、医療関係者と連携を密に取り、入院・入所者の地域移行と定着支援を行った（地域移行支援・地域定</p>	<p>①年3回開催し、高齢期を迎える障害者と家族への支援の方策等や地域生活支援拠点等について検討・協議した。【活計】</p> <p>②家族会主催の勉強会参加、他団体と共催でのSST勉強会（4回）、障害年金勉強会（1回/29名）等を行った。【活計】</p> <p>③個別支援（面接・同行支援・グループワーク）53回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行支援契約： 1件</li> <li>・地域定着支援契約： 1件</li> </ul> <p>④練馬東地区相談支援従事者会を立ち上げ、5回開催し計画相談支援に関して情報共有や勉強会を開催した。【活計】</p>

	<p>着支援)。地域の障害のある人の福祉に関する総合的な相談を受けた。</p> <p>④練馬区と連携し、基幹相談支援センターとして障害福祉サービス提供事業所への計画相談支援の説明や関係者の集まる場面を作った。</p>	
(2)福祉のまちづくりへの貢献、地域福祉人材の育成	<p>誰もが住みやすい地域づくりに向け、顔の見える地域交流と関係づくりを行い、支え合いや見守り活動を推進した。</p> <p>①地域イベントへの参加・協力 ②地域貢献活動の継続実施 ③地域の人材の発掘・育成・支援</p>	<p>①地域の6カ所のイベントに参画し交流を深めた。(商店街振興組合、施設のイベント参加・見学等：延べ209名) <b>活計</b></p> <p>②花くらぶ(園芸プログラム年48回)商店会、デイサービス等まちの花壇を整備し美化活動また地域交流を図った。 ・まちづくりや商店会の会議等参加19回、(街清掃、ねりま子ども笑店街等)ボランティア受け入れ延べ399名/交流会の実施32名 <b>活計</b></p> <p>・地域向けSST 9回 延べ105名参加</p> <p>③「誰でも参加できるSST」、「SSTリーダー研修」(初心者編、初級編)「SST勉強会」を開催した。 合計8回 延べ150名参加 <b>活計</b></p>
(3)当事者主体の活動の支援	<p>①当事者(サポーター)が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援を行った。</p> <p>②ういんぐと協働で実施している退院促進事業において、入院者に向けた情報紙を年2回発行した他、「作業所紹介マップ」を活用し、サポーター活動を行った。</p>	<p>①音楽を語る会、囲碁教室、外出プログラム、防災プログラム等を開催し、当事者活動の充実につながった。延べ193名参加 <b>活計</b></p> <p>②地域生活サポーター(ピアサポーター)養成講座 毎月開催延べ126名参加 ぴあまっぷ：年2回600部発行、延べ89名参加 作業所紹介マップ活用活動：17名 <b>活計</b></p>

## 5. 石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ

障害者本位の質の高いサービスを提供する事業所「相談支援事業所(指定特定・指定一般)」「地域活動支援センターI型」を目指し、基幹相談支援センターとしての役割を担い、機能の充実を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1)相談支援事業の充実	<p>基幹相談支援センターとして、地域の相談支援事業所と連携し、相談支援の中核的な役割を担った。</p> <p>①障害のある人の希望する生活を支え適切なサービスの利用に向け、関係機関と連携し支援した。</p> <p>②地域生活への移行に向けての支援を行った。</p> <p>③障害者地域自立支援協議会専門部会を開催し、地域の課題についての具体的な検討を行った。</p> <p>④練馬区と連携し、基幹相談支援センターとしての役割を果た</p>	<p>①電話相談(延べ10,063件)、面接相談(延べ2,750件)において障害のある人のニーズを捉え、適切なサービスへつなげた。また、電話や面接等で関係機関との連携を図り(延べ3,737件)、希望する生活の実現に向けて支援した。</p> <p>②地域移行支援計画を4件作成し、精神科病院、地域のサービス事業者等と連携を図った(延べ186件)。地域定着支援に向けて、支援計画を1件作成し、関係機関の会議等へ参加した。</p> <p>③障害者地域自立支援協議会地域移行部会：精神科病院の入院者・施設入所の障害者の地域移行・定着支援の課題について協議した。2回開催 <b>活計</b></p> <p>④練馬区と連携し、事例検討会やサービス等利用計画作成時の注意点等の研修会を1回実施し</p>

	した。	た。また、区内 18ヶ所の相談支援事業所の職員を対象に練馬西地区相談支援従事者会を3回実施した。活計
(2) 当事者主体の活動の支援	<p>①当事者が主体的にプログラムや活動を企画し、運営できるように支援した。</p> <p>②地域移行支援等において、ピア（仲間）が自分たちの経験を活かし、地域で活発に活動できるように支援した。</p>	<p>①利用者懇談会の充実、当事者同士の交流会やプログラム、イベント等への参加促進。イベント実行委員会の実施(延べ116名) 活計</p> <p>②地域生活サポーター養成講座：延べ126名参加 ・ぴあまっぷ：年2回600部発行、延べ89名参加 ・作業所紹介マップの活用：病棟訪問のグループワークにて活用した。17名参加 活計</p>
(3) 誰もが安心して暮らせる地域力の向上	<p>①地域交流や地域貢献活動を通じて地域での日常的なつながりを深め、支え合いの関係を作った。</p> <p>②お互いに育ち合う関係をつくり、課題に気づき、地域住民とともに活動した。</p>	<p>①地域の清掃や花壇の整備等を毎週水曜日に実施。商店会・町会主催のイベントに運営から携った。防災活動や夜警、他施設のイベントへの参加し、日常からのつながりを構築した。活計</p> <p>②障害への理解を深める「精神保健福祉講座」(49名参加)福祉人材の発掘・育成を目的とした「精神保健福祉ボランティア講座」の開催(26名参加)。 ・ボランティアの受け入れ(延べ174名・交流会の実施：33名参加) 活計</p>

## 6. ボランティア・地域福祉推進センター

住民の主体的な課題解決に向けて、練馬区の「みどりの風吹くまちビジョン」と連動しながら地域の人材を育成・支援し、地域の仕組みづくりやネットワークの構築を図った。また、災害時の「災害ボランティアセンター」運営に向け、関係機関や住民との連携を強化した。

事業	内容	実績・効果等
(1) 地域の課題を住民が主体的に解決できる地域づくり	<p>①センター・コーナーの各拠点において、小地域福祉活動を推進し、住民が主体的に地域課題を発見・共有し、解決できるよう取り組んだ。</p> <p>②各事業の取り組みを横断的に捉え、地域課題の解決に取り組んだ。</p>	<p>①モデル地区としてはじめた豊玉・光が丘地区と同様に小地域福祉活動を重点的に進める地区を南大泉、北町地域に設置し展開した。 ・その他の地域における住民懇談会や関係者連絡会等、地域の関係者や地域福祉協働推進員（ネリーズ）が集まる場を開催した。活計</p> <p>②各事業で出会った、地域の中で活動している住民や団体同士をつなげることで、顔の見える関係づくりや、地域活動につなげた。活計</p>
(2) 災害時に備えた取り組み	<p>①「災害ボランティアセンター」を円滑に運営できるよう準備し、機能と役割を周知した。</p> <p>② 防災に関する意識の向上を図った。</p>	<p>①「災害ボランティアセンター」の運営に備え、訓練に参加する近隣自治会、障害者団体、避難拠点運営連絡会、行政や関係機関等と情報交換や意見交換（8回）を図ったうえで、運営プレ訓練、運営訓練を各1回実施した。マニュアルの改訂に着手し、訓練結果を反映させた。活計</p> <p>・災害ボランティアコーディネーター育成講座を開催した（全4回、延べ82名参加）。活計</p> <p>②災害シンポジウム（88名参加）、地域イベント、地域活動団体主催の勉強会や定例会等への参加（3回）を通して「災害ボランティアセンター」の機能と役割の周知を行った。活計</p>
(3) 地域の人材育成	地域福祉推進のために地域の中で様々な役割を担い、活動する地域住民の発掘・育成・支援に	他機関等と連携しながら、活動のきっかけとなるボランティア講座（12回）や地域福祉パワーアップカレッジねりま、高齢者支え合いサポーター育成研修

	取り組んだ。	等の練馬区の事業への参画、講座等の企画・開催に携わり、参加者と継続的に関わりながら活動につなげた。 <b>活計</b>
--	--------	---

## 7. 権利擁護センターほっとサポートねりま

支援を必要とする高齢者や障害者の自己決定や地域生活を支援していくとともに、練馬区の成年後見制度推進機関として、必要な方に適切に制度・事業の利用がにつながるよう周知普及の強化を図った。

事業	内容	実績・効果等
(1) 福祉サービス利用援助事業推進の充実	個別ケースへの取り組みや支援の実践を通して地域とつながり、生活支援員や関係機関と連携して地域の権利擁護の意識を高めるとともに、地域課題の解決に向けた取り組みを行った。	①民生・児童委員や地域の活動団体、近隣住民と連携し、地域生活支援の視点を持って個別支援に取り組んだ。 <b>活計</b> ②生活支援員が地域生活支援の視点を持って支援に取り組めるよう、生活支援員定例会で地域に関わる情報交換やグループワークを実施した。 <b>活計</b> ③関係機関の会議や家族会の勉強会に講師派遣を行い、事業説明を行った（12回実施）。 <b>活計</b>
(2) 成年後見制度の利用推進と支援機能の強化	わかりやすい情報提供を行うとともに、必要な方に制度が行き渡るよう、周知普及の強化を図った。	①制度説明会や勉強会では、社会貢献型後見人や成年後見制度推進 NPO 法人と協働で講師派遣に対応し、制度説明や相談会を行った（15回実施）。また、区民向けに講演会を開催した。 <b>活計</b> ②専門職と関係機関による「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」を開催し（2回実施）、情報共有・事例や制度課題の検討を通して関係者同士の相互理解が深まり実務ベースでのネットワーク機能の強化を図った。 <b>活計</b> ③成年後見制度のさらなる利用推進を図るため成年後見制度推進 NPO 法人との定例会を開催し（3回実施）、法人後見について等、情報共有と意見交換を行った。 <b>活計</b>
(3) 社会貢献型後見人の周知および養成・支援	①社会貢献型後見人の意義と活動について周知普及を強化した。 ②社会貢献型後見人の受任件数を増やすとともに、法人後見監督の仕組みと機能の強化を図った。	①練馬と石神井で社会貢献型後見人の公募説明会を開催し（2回実施）、社会貢献型後見人の意義と活動について社会貢献型後見人登録メンバーが報告を行った。 <b>活計</b> ②首長申立てケース 2 件、専門職からのリレーケース 1 件を社会貢献型後見人が受任した。 ・社会貢献型後見人の後見業務を適切に支援するため、顧問弁護士への確認を行いながら法人後見監督業務のマニュアルの改訂・更新を行った。

## 8. 練馬障害福祉人材育成・研修センター

「障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図ること」を目指して事業を運営した。「学習支援事業」の研修内容を解りやすく工夫し、「連携支援事業」は新たな地区についても検討を始めた。また、社協の内部職員対象に階層別、部署別の研修を行い、社協職員としての資質・知識及び能力の向上に努めた。

事業	内容	実績・効果等
(1) 学習支援の充実	①従事者がより目的に沿った研修を受講し、必要なスキル獲得ができるよう工夫した。 ②研修内容をさらに充実させる	①研修冊子の構成を工夫し、どの研修を受講すればより良いかわかりやすく表示した。 ②平成 29 年度に向け大幅な研修体系の見直しを行い、新たに目指すべき人物像、教育理念、研



	ため研修の全体的な見直しを行った。 ③地域住民が障害の理解を深められるよう研修を実施した。	修目標等を定め研修カリキュラムを大幅に改正した。 ③基礎研修の内 7 講座をオープン研修とし区民が参加できる機会を設けた。
(2) 連携支援の充実	①地域密着型連携支援事業における情報交換会の新たな地域への展開を検討した。 ②階層別連携支援事業に引き続き取り組み、区内の中堅職員同士の連携に努めた。	①新たな場所の選定として光が丘地域を検討し、平成 29 年度開催に向けて準備を行った。【活計】 ②平成 26 年度修了者 年 4 回、平成 27 年度修了者年 3 回情報交換会を実施した。またそれぞれが課題と思っているテーマで研修を 2 回実施した。
(3) 職員向け内部研修の更なる充実	内部職員の資質向上に向けた社協内部研修の充実を図ることに努めたが不十分だった。	職層に関わらず社協全体の課題に対して、社協内部研修としてテーマ別研修「ユニバーサルデザイン研修」を企画、実施した。しかし前年度実施した、講師派遣等により外部で発表したものを内部職員向けに話す研修については未実施だった。

### 9. 生活サポートセンター

複合的な課題を抱えた住民が課題解決を図れるように相談支援の充実とネットワークを構築しながら地域で支える仕組みづくりに取り組んだ。

事業	内容	実績・効果等
(1) 相談支援の充実	多様な相談に対応できるよう職員の専門性を高めるための取り組みを行った。また、部署を超えて課題解決に取り組むことで、社協全体の相談機能を向上させた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障制度など生活困窮者に関連する研修を企画し、他部署の職員にも呼びかけ実施した（年 2 回）。</li> <li>・支援調整会議などに他部署や関係機関の参加を積極的に呼びかけた。また、当センターがケースカンファレンスを主催する等、様々な分野の関係者が協働して支援する体制づくりに取り組んだ。</li> </ul>
(2) 早期発見のための広報周知の強化	生活困難を抱える住民の早期発見から解決するまでの支援機能を強化するために民生・児童委員、各関係機関への広報・周知を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生児童委員協議会での事業説明や区等の広報物を活用した事業の周知を行った。</li> <li>・福祉事務所や生活困窮者自立支援法に関連する事業者との情報交換会を定期的実施した。関係者同士の相互理解が深まり、関係機関からの相談が増えた。【活計】</li> </ul>
(3) 地域のネットワークづくり	相談を受ける中で顕在化した地域課題を明確化し、地域で活動している団体や関係機関とネットワークをつくり、地域で支える仕組みづくりを推進した。	社協の地域における役割として実施する「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた連絡会」を担当し、連絡会を企画・開催した。また地区ごとの組織化された連絡会において情報共有の仕組みをつくり、生活困難を抱える住民が、地域でともに生活していけるような支援の仕組みについて検討を行った。実際に、当センターの相談者が社会福祉法人施設での就労体験等につながった。（2 件） 【活計】

### Ⅲ. 各部署の事業報告

#### 【経営管理課】

法人運営機能の充実及び指定管理施設の安定的な運営を目指した事業に取り組んだ。

#### 【総務係】

住民に対し社協の総合的な窓口となることを目指して、組織が円滑に運営できるように法人運営全般の業務を行った。

#### 1. 法人運営

(1) 定款・規程の定期的な見直し

(2) 労務環境の整備

(3) 適切な経理事務を進めるための仕組みの構築

(4) 特定個人情報および個人情報保護

※上記(1)～(4)については、P.9 1. 総務係(2) 法人運営体制の強化 参照

(5) 苦情解決

※P.4 4. 苦情解決制度 参照

#### 2. 情報提供の充実と広報活動の推進

##### (1) 広報誌『社協だより』の発行

No.	発行月	発行部数	配布先	掲載内容
154	7月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生・児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他	①新会長挨拶②ネリーズネリーズ③熊本地震災害支援④平成28年度事業計画・予算⑤平成27年度事業報告・決算⑥寄付者紹介他
155	11月	27,000部	社協会員、町会自治会、民生・児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関他	①会員の集い開催について②新会員紹介③ネリーズネリーズ④サロン de 元気⑤地域のチカラこぶ⑥こんにちは ありがとう⑦赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金協力依頼⑧助成団体紹介・助成事業案内⑨募金箱がある風景⑩寄付者紹介他
156	3月	240,000部 (タブロイド版)	社協会員、町会自治会、民生・児童委員、福祉施設団体、学校、関係行政機関、新聞折込(主要6紙)	①会員の集い報告②社協紹介③ネリーズ募集④プレゼントクイズ⑤赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動募金報告⑥ネリー-LINE スタンプ販売⑦寄付者紹介他

##### (2) ねりま区報、区内新聞・情報誌、メディア等の積極的な活用

区広報誌『ねりま区報』による情報提供

掲載内容
練馬区社協事業紹介、会員募集
助成事業説明会の案内
赤い羽根共同募金 協力依頼・実績報告
在宅サービス事業 研修会案内
歳末たすけあい運動募金 協力依頼・実績報告・配分助成事業申請団体募集
福祉有償運送運転者講習会案内
福祉作業所でのイベント

##### (3) 地域のイベント等への積極的な参加

練馬まつりや練馬こぶしハーフマラソン、地区祭等地域で行われるイベントや他団体主催のイベントに参加し練馬区社協事業の普及とPRを行った。

##### (4) 社協キャラクター「ネリー」を活用した積極的な広報活動

練馬区社協への理解を深めるために、オリジナルキャラクター「ネリー」を各種広報誌等に掲載するとともに、オリジナルグッズの作成・販売・配布を行った。

「ネリー」の着ぐるみが各種のイベントに参加し、社協のPRに努めた。(出演回数24回)

##### (5) 新たな広報媒体の検討、ホームページの改訂

「ネリー」の商標登録を行った。また、「ネリー」のLINEスタンプを作成し販売した。

練馬区社協ホームページを随時更新し、福祉作業所でのイベント、研修・講座、地域のお祭り等

の開催、募金活動の協力依頼・報告、各部署広報誌、民間助成金情報、職員募集等について情報提供を行った。ホームページの改訂については、平成 30 年度の練馬区障害者就労促進協会との統合に向けて大幅な改訂が見込まれるため、平成 29 年度より準備を始める。

### 3. 連絡調整・相談事業

#### (1) 連絡調整事業

- ア. 総合的な窓口として寄せられた相談に対応するための、関係部署への連絡調整  
他機関や関係部署に対しての相談・要望や、相談先がわからない等「福祉相談の入口」としての役割を担った。
- ・相談件数実績 8,939 件（平成 29 年 3 月 31 日現在）  
低所得世帯に対する貸付条件が緩和されるなど教育費に関しての関心が高まったことにより、教育支援資金を中心とした生活福祉資金についての問い合わせが増えたものの、全体としての相談件数は減少した。主な原因として、事務所の移転に伴い、区役所代表電話番号や総合案内からの直接的な相談が減少したことが考えられる。  
今後は福祉相談の入口として更に活動するために、関係機関の相談窓口においても、改めて社協窓口の役割について周知をしてもらう。また、組織内の情報共有等のためにも相談共有方法についての再検討など、相談しやすく受けやすい環境作りを進める。

#### 相談方法

(単位：件)

相談方法	電話	来所	メール・FAX	訪問	計
相談件数	7,171	1,692	46	30	8,939

#### 相談内容

相談内容	相談の内訳	件数
地域福祉事業	チェアキャブ、募金、寄付、会費、広報誌、助成金など	688
在宅サービス	在宅サービス、ショートステイなど	321
貸付事業	生活福祉資金、総合支援資金、臨時特例つなぎ資金、緊急小口資金、不動産担保型生活資金、生活安定応援事業、法外援護緊急たすけあい資金など	7,670
協力依頼	名義使用、企画協力、実習生の受け入れなど	48
情報提供	他部署事業や社協以外の行政・民間サービス等についての問合せなど	126
心配事、その他	他部署へのつなぐ電話、心配事相談など	86
合計		8,939

- イ. 関係行政機関・施設団体、住民との各種連絡会議・懇談会等への参加および実施  
必要に応じて各種連絡会議・懇談会等への参加および実施をし、随時、情報交換・調整等を行い、連携を図った。
- ウ. 民生児童委員協議会への情報提供と調整  
民生児童委員協議会の正副会長会（毎月 1 回、8 月・1 月を除く計 10 回）及び、20 地区の民生児童委員協議会（各地区毎月 1 回、8 月・1 月を除く計 200 回）に出席し、社協からの連絡・依頼・報告・情報提供を行った。

#### (2) 相談力の向上 活計

拡大ケース検討会で総務係としての相談の傾向にあわせ、「相談技術を語り合う機会」というテーマから多くのアドバイスを受け、相談方法等についての検討をした。また、職員会議等で受講した相談に関わる研修についての報告やケース共有を行った。  
今後は福祉の入口としての役割を担うべく、住民に認知してもらえるよう周知方法等の工夫を検討しながら記録や情報共有を実践していく。

### 4. 自主財源の確保・活用

#### (1) 社協支援者・支援団体の増進

※P.9 1. 総務係 (1) 社協事業への理解と賛同者を増やす取り組み 参照

#### (2) 自主財源を高めるための取組み

- ア. 実習受入収益：1,145 千円、講師等派遣謝礼：792 千円  
イ. 社協だより広告料収益：261 千円、ネリーグッズ売上やイベントによる収益：195 千円  
ウ. 城西ブロック法人運営部門担当会議にて他社協が行っている会費への取り組みや寄付金の状況

等について情報収集を行った。

### (3) 各種基金等の運用方法の見直しと適正管理

経理顧問の教示をもとに、これまでの基金のあり方や原資、目的等について再確認し、規程等の改定を含めた検討を行った。

## 5. 募金活動

### (1) 赤い羽根共同募金

東京都共同募金会の協力組織として、町会連合会・民生児童委員協議会・練馬区社会福祉協議会の三者で共同募金練馬地区協力会を構成し、募金活動（各戸募金・街頭募金）を実施した。

ア. 実施時期 平成 28 年 10 月～12 月（3 ヶ月間）

イ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 8,980,952 円（前年度 9,875,047 円）

b. 募金件数 272 件（内訳：町会・自治会 114 件、団体 5 件、個人 5 件、民生児童委員 10 件、募金箱 121 件、街頭募金 15 か所、その他 2 件）

(イ) 配分内容

a. 東京都共同募金会納付金 8,980,952 円

東京都共同募金会へ募金額全額を納付後、都内の民間福祉施設等に配分された。練馬区内の福祉施設への配分については、「練馬地区配分推せん委員会」における審査・推せんに基づき配分された。

b. 小地域活動費 538,334 円

町会・自治会の事業に活用し、地域の福祉活動を推進するために、募金額の 8%を限度に配分した。（申請件数 52 件）

(ウ) 街頭募金 304,061 円（前年度 299,203 円）

a. 実施日 10 月 3 日、5 日、13 日、21 日、31 日

b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、桜台駅、武蔵関駅、光が丘駅

c. 協力団体・企業 18 団体

練馬家族会、太陽アソシエーツ株式会社、光が丘地区連合協議会、友和会、練馬区更生保護女性会、つくりっこの家クラブハウス、練馬区視覚障害者協会、グループホーム石神井台、YOKO ダンスサークル、ガールスカウト、ヒルフェ練馬地区、楽多舎、NPO とうもろろ、練馬区身体障害者福祉協会、練馬断酒会、トントウハウス、おたすけ隊、NPO むすび

(エ) 募金箱の設置 336,334 円

区内公共施設など 121 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。

(オ) 東京都民生・児童委員キャラクター「ミンジー」と「ネリー」とのコラボで“ピンバッジ”を作成し、寄付付き商品として販売した。（売上数 820 個/売価 300 円のうち一部を募金）

### (2) 歳末たすけあい運動募金

町会連合会・民生児童委員協議会・社会福祉協議会の三者が共催し、その他関係諸団体および区民の協力に基づき、共同募金運動の一環として、地域福祉活動の充実と福祉のまちづくり推進を目的に実施した。

ア. 実施時期 平成 28 年 12 月（1 ヶ月間）

イ. 事業内容

(ア) 募金実績

a. 募金額 14,355,423 円（前年度 14,064,410 円）

b. 募金件数 241 件（内訳：町会・自治会 126 件、団体 12 件、個人 52 件、募金箱 34 件、街頭募金 15 か所、その他 2 件）

(イ) 配分内容

a. 平成 29 年度地域福祉活動費 12,337,623 円

平成 28 年度に集められた寄付金を平成 29 年度の地域福祉活動費として配分する。

（内訳）福祉団体助成事業 4,500,000 円、NPO・ボランティア活動推進事業 3,000,000 円、広報啓発に関する事業等 3,087,623 円、成年後見制度支援事業 950,000 円、シェアキャブ運行事業 200,000 円、小地域福祉活動事業 300,000 円、在宅サービス交流・研修事業 150,000 円、相談業務課題検討事業 150,000 円

- b. 事務費 879,000 円  
募金封筒やポスター作成費用など、募金活動に関わる事務費として活用した。
- (ウ) 街頭募金 301,302 円 (前年度 319,562 円)
- a. 実施日 12月1日、5日、9日、14日、19日
- b. 実施場所 練馬駅、石神井公園駅、大泉学園駅、江古田駅、光が丘駅
- c. 協力団体・企業 17 団体  
練馬家族会、太陽ステンレスリング株式会社、光が丘地区連合協議会、練馬区水泳連盟、友和会、練馬区視覚障害者福祉協会、練馬断酒会、三菱東京 UFJ 銀行光が丘支店、ヒルフェ練馬地区、大東建託株式会社練馬支店、練馬区更生保護女性会、ガールスカウト、NPO むすび、YOKO ダンスサークル、つくりっこの家クラブハウス、江古田ガールズ、峰崎部屋
- (エ) 募金箱の設置 38,973 円  
区内公共施設など 34 か所に募金箱を設置し、区民に募金活動の周知と参加を呼びかけた。
- (オ) 東京都民生・児童委員キャラクター「ミンジー」と「ネリー」とのコラボで“ぼち袋(祝袋)”を作成し、寄付つき商品として販売した。(売上数 620 個/売価 300 円のうち一部を募金)

### (3) 小学校入学祝い品贈呈事業

歳末たすけあい運動募金を財源とし、福祉ニーズを持つ小学校新入学児童を対象に入学祝い品として 57 名の対象者にランドセルの贈呈を行った。

- ・小学校新入学児童祝品贈呈事業 1,125,000 円

### (4) 義援金

熊本地震災害義援金 1,988,218 円 (3月31日現在)

※中央共同募金会を通して被災者への義援金として活用される。

ア. 義援金内訳 窓口受付 27 件 (内、募金箱 8 件) 1,206,411 円、街頭募金 781,807 円

イ. 街頭募金

(ア) 実施日 4月26日、4月27日、4月28日、5月2日、5月6日

(イ) 実施場所 練馬駅、光が丘駅、石神井公園駅、大泉学園駅

(ウ) 参加延べ人数：80 名 (職員は除く) 協力団体：練馬区、西武鉄道株式会社、東京都交通局

## 6. 地域福祉事業

### (1) 助成・団体支援事業

地域の民間福祉団施設・団体が行う様々な活動を積極的に支援するため、以下の事業を行った。また、助成金配分会や説明会を地域で行いその地域の団体同士の交流を図った。 活計

ア. 助成事業

(ア) 喫茶コーナー『我夢舎楽』運営委員会へ運営費助成 [練馬区補助事業]

a. 助成金額 2,345,700 円

(イ) 赤い羽根配分助成事業 [赤い羽根運動募金地域配分 (B 配分：練馬区内への配分)]

a. 助成総額 4,620,000 円

b. 申請事業数 33 事業 (助成決定 32 事業)

<助成団体内訳>

(単位：円)

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
子どものための音楽療法サークル「音の輪」	70,000	べるはうす	40,000
あかねの会 (就労継続支援A型)	70,000	大泉にじのいろ保育園	270,000
あかねの会 (就労継続支援B型)	100,000	南大泉にじのいろ保育園	80,000
福島子ども保養プロジェクト・練馬	100,000	めぶきの家	40,000
東京都助産師会練馬地区分会	240,000	グループホームとうもろろ	120,000
助産所ねりじよはうす Luna	260,000	総合型地域スポーツクラブ平和台	60,000
我夢舎楽	280,000	まちの縁がわ 楽多舎	70,000
グループホーム石神井台	90,000	練馬リハビリ友の会	170,000
たんぼぼ	190,000	日本ダウン症協会東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	170,000
ほっとすぺーす練馬	200,000	松の実事業所	300,000
練馬第一寮	90,000	練馬区視覚障害者福祉協会	200,000

つくりっこの家クラブハウス	180,000	友和会	120,000
えごのみ	40,000	ねりま事業所	230,000
すのうべる	50,000	ねりま第二作業所	230,000
あっとほーむ	60,000	リブ女性ハウス	180,000
かもん	130,000	旭町ハウス	190,000

(ウ) 歳末たすけあい配分助成事業〔歳末たすけあい運動募金地域福祉活動費活用事業〕

a. 助成総額 4,250,000 円

b. 申請事業数 51 事業 (助成決定 42 事業)

<助成団体内訳>

(単位：円)

施設・団体名	助成金額	施設・団体名	助成金額
ハッピーひろば	160,000	福島子ども保養プロジェクト・練馬	50,000
練馬断酒会	70,000	認知症サポートセンター・ねりま	90,000
ランチとお話しを楽しむ会	90,000	日本ダウン症協会東京練馬支部 ちゅうりっぷの会	80,000
お茶の間ネット	110,000	楽膳倶楽部	50,000
パーキンソン病友の会	60,000	健生会	140,000
トレジャーボックス	20,000	子どものための音楽療法サークル 「音の輪」	180,000
ねりえいサークル	90,000	松の実事業所	140,000
石神井・冒険遊びの会	120,000	練馬区生涯学習団体グリーンハウス	140,000
点訳・音声訳集団 一歩の会	60,000	表現クラブがやがや	50,000
未来・ねりま幼児教室とことこ	140,000	ごたごた荘	70,000
手をつなご	60,000	練馬区視覚障害者福祉協会	80,000
Will の会	70,000	地域福祉おたすけ隊	80,000
助産所ねりじょはうす Luna	160,000	スポーツクラブ平和台	40,000
東京都助産師会練馬地区分会	80,000	大泉風の会	120,000
練馬区要約筆記サークルさくら会	80,000	練馬健康連絡会	70,000
練馬精神障害者家族会	70,000	ねりま子育てネットワーク	170,000
ヒルフェ練馬地区	70,000	すのうべる	100,000
若年認知症ねりまの会 MARINE	130,000	練馬区保護司会	130,000
むすび	50,000	練馬区水泳連盟	80,000
成年後見推進ネットこれから	50,000	手をつなぐ親の会 ねりま第1事業所・豊玉西町会	240,000
白い箱の会	110,000	練馬区障害者通所施設合同運動会 実行委員会	300,000

c. 東京都共同募金会練馬地区配分推せん委員会における平成 29 年度赤い羽根配分助成事業配分推せん審査会の開催

平成 29 年度赤い羽根配分助成事業の申請を受け、内容を審査し東京都共同募金会に推せんした。

(a) 審査日時 平成 29 年 1 月 10 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

(b) 審査内容

事業名	申請事業	申請金額	助成事業	助成金額
新規団体応援部門 福祉団体応援部門	34 事業	4,100,000 円	34 事業	3,860,000 円

d. 歳末たすけあい運動推進委員会における平成 29 年度助成事業配分審査会の開催

平成 29 年度歳末たすけあい配分助成事業の申請を受け、審査を行った。

(a) 審査日時 平成 29 年 3 月 7 日 書類審査及びプレゼンテーション審査

(b) 審査内容

事業名	申請事業	申請金額	助成事業	助成金額
福祉団体助成事業	37 事業	4,460,000 円	36 事業	4,100,000 円

e. 助成事業説明会の開催

平成 29 年度助成事業について、区内地域団体や施設を対象に説明会を開催。参加団体の

活動や事業紹介をする時間を設け、団体同士の交流を図る機会となった。

(a) 開催日時 平成 28 年 9 月 9 日、平成 28 年 9 月 13 日

イ. 民間施設・団体の助成金申請に関する推薦状の交付

(ア) 赤い羽根運動募金 A 配分の推薦

民間施設・団体が、赤い羽根運動募金 A 配分を申請する際、必要となる練馬区社協の推薦意見書を 5 件作成し、東京都共同募金会に提出した。

(イ) 各種財団助成の推薦

民間施設・団体が申請する各種財団助成について、練馬区社協が推薦意見書を作成した。

- ・公益財団法人 出光文化福祉財団 1 件
- ・一般財団法人松翁会 1 件

(ウ) 中央競馬馬主社会福祉財団助成事業

- ・平成 28 年度は実績なし。

ウ. 名義使用承認

施設・団体が行う講演会・イベント等の広報物等に練馬区社協が名義使用承認を行うことにより、施設・団体の活動を支援した。

(ア) 後援名義(職員の派遣あり) 申請件数 14 件 承認件数 14 件

主催団体名	内容
首都圏建設産業ユニオン練馬支部	第 39 回住宅デー
練馬区障害者通所施設合同運動会実行委員会	第 38 回練馬区障害者通所施設合同運動会
練馬駅南口六商店会連合会	七夕 with 練馬子ども笑店街
有限会社 むばたま	チャリティデイ
NPO 法人認知症サポートセンター・ねりま	認知症フォーラム
障害者フェスティバル実行委員会	2016 障害者フェスティバル
石神井公園商店街振興組合	チルコロ石神井(10/30)
東京都生活協同組合連合会	ねりま CO・OP フェスタ
東京石泉ライオンズクラブ	結成 40 周年記念・東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま
ねりま子育てネットワーク	第 10 回ねりま子育てメッセ 2017
南相馬支援の会	福島県南相馬支援の集い
石神井公園商店街振興組合	チルコロ石神井(3/26)
NPO 法人練馬明るい社会づくりの会	第 21 回練馬ファミリーまつり
NPO 法人成年後見推進ネットこれから	講演会「認知症と成年後見～認知症を抱える人を地域で支えるために～」

(イ) 協力名義(職員の関与あり) 申請件数 2 件 承認件数 2 件

主催団体名	内容
NPO 法人練馬松の実会 松の実事業所	第 25 回松の実まつり
光が丘第三アパートふれあい祭実行委員会	～みんなで遊ぼう～ 光が丘第三アパートふれあい祭

(ウ) 協賛名義(職員の派遣・直接的な協力なし) 申請件数 27 件 承認件数 27 件

主催団体名	内容
NPO 法人楽膳倶楽部	子育て応援ライブ「帰りはいっぱい笑顔で」
練馬健康連絡会	第 11 回春の健康フェスティバル
東京土建一般労働組合練馬支部	第 39 回住宅デー
日本病院・地域精神医学会・第 59 回総会東京練馬大会運営委員会	日本病院・地域精神医学会・第 59 回総会東京練馬大会
(株)新都市ライフホールディングス	光が丘 IMA 「フラワーチャリティ」
練馬区聴覚障害者協会	練馬区聴覚障害者協会創立 50 周年・手話サークル練馬こぶし会創立 35 周年合同記念大会
NPO 法人保育サービスぽてと	第 10 回おいで、おいで、あそぼーぽてとまつり
生命倫理カフェ・ねりま	「風は生きよという」上映会&講演会
NPO 法人成年後見推進ネットこれから	第 14 回会員の集い 公開講座「高齢期の過ごし方ー葬儀からお墓までー」

NPO 法人成年後見推進ネットこれから	講演会「安心して老いるために～介護家族の気持ち が楽になるヒント」
練馬手をつなぐ親の会 豊玉西町会・未来ねりま	第 33 回納涼福祉盆踊り
NPO 法人相続アドバイザー協議会	相続フォーラム i n むさし野
NPO 法人いきいき練馬	普及啓発事業「北野塾・公開講座」
NPO 法人練馬精神障害者家族会	平成 28 年度第 2 回講演会 「練馬区の子どもの精神保健医療の過去・現在・未来」
練馬区視覚障害者福祉協会	日本音楽のひとつとき～演奏とお話～
社会福祉法人あかねの会	第 19 回心の鐘コンサート
PRISM～多様な学びをあたりまえに～	講演会「発達障害を持つ子どもの可能性～高校の教育現場から伝えたいこと～」
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Hikari-Pageant Festa 2016&17
練馬区生涯学習団体グリーンハウス	珠玉のピアノ名曲プロムナード 13th
NPO 法人成年後見推進ネットこれから	レビー小体型認知症を知ろう ～病気と共によりよく暮らすために～
練馬区視覚障害者福祉協会	第 49 回東京都盲人福祉大会・練馬区視覚障害者福祉協会 55 周年記念大会
練馬手をつなぐ親の会	楽しいクリスマス会
レーナ・マリアコンサート 2017 東京地区実行委員会	レーナ・マリアコンサート
明治大学校友会練馬区地域支部	明治大学マンドリン倶楽部コンサート
ねりま光が丘地域活性化プロジェクト実行委員会	ねりま光が丘 Cherry-Blossom Festa 2017
東京都理容生活衛生同業組合 練馬支部	新 Tokyo ケア理容師資格認定講習
練馬フォルクローレ実行委員会	国際ダンスデー・フェスティバル

## (2) チェアキャブ運行事業【練馬区補助事業】

区内在住の車いす利用者の外出・社会参加等を促進するために、3 台のリフト付車両を運行した。

ア. 自家用有償旅客運送登録（種別：福祉有償運送）の有効期間：平成 28 年 6 月 22 日から平成 31 年 6 月 21 日まで

イ. 利用登録会員数 92 名（うち平成 28 年度新規登録会員数 18 名）

(ア) 利用登録会員の状況 (単位：人数)

	身障手帳		介護認定		重複	
	1 級	2 級	介 1	介 2	介 1 身 1	介 2 身 1
内 訳	63	9	0	13	0	5
	4	1	8	15	4	7
	1	0	14	14	1	11
	0	1			1	9
	1					
合 計	78		50		36	

ウ. 運行実績

(ア) 利用件数 (単位：件)

区 分	予約申込	利 用	キャンセル	利用不能
件 数	1,214	1,066	29	119

※「キャンセル」は、利用者の都合により運行を中止したもの。

(イ) 利用内容 (単位：件)

区分	利用	利用目的		運行方法		運行範囲		
		通院	その他	往復	片道	区内	都内	都外
件数	1,066	718	348	70	996	263	763	40

エ. 福祉有償運送運転者講習会

(ア) 講習の種類

- a. 福祉有償運送運転者講習
- b. セダン等運転者講習



## (イ) 実施回数

	第1回	第2回	第3回
実施日	6月11・12日	9月10・11日	11月12・13日
修了者人数	2名	8名	8名

## (3) 在宅サービス事業〔練馬区補助事業〕

区内在住で日常生活を営むうえで手助けを必要としている低所得の方に有償で家事援助や介護援助を行った。

## ・協力員の登録状況（平成29年3月31日現在）

男 性	女 性	合 計
9名	110名	119名

※平成28年度中の新規登録者 2名  
(昨年度 9名)

## ア. 有償家事・介護援助サービス

## (ア) 家事・介護援助サービス実績

事業名	内 容	実施規模	人数
新規相談者数	職員が電話や窓口で新規に相談、訪問等を行った。	90件	
家事援助サービス	協力員が掃除、洗濯、買い物等の家事援助を行った。 (1時間700円/1,000円)	1,705.5時間	利用者53名
介護援助サービス	食事、排泄、入浴等の介護援助および認知症高齢者の介護援助を行った。(1時間1,000円/1,300円)	102.5時間	利用者3名
サービス併用利用	家事援助サービス・介護援助サービスを併用利用		利用者1名
	計	1808.0時間	57名

※サービス提供回数…1,099回

## (イ) 協力員の研修等

事業名	内 容	参加者
日帰り研修 (9.16)	協力員の福祉に関する知識の拡充と交流を目的とし、最先端の福祉機器の展示・体験施設である「サイバーダイナスタジオ」で研修を行った。	協力員14名

## (ウ) 区民対象の研修等

研修名	講師	内 容	参加者
第1回(8.1) プロから学ぶ お洗濯のコツ	ライオン株式会社 大石田 晃 氏	洗濯についてより効率的に、よりきれいに仕上げるコツや洗剤の仕組み、表示の見方等を実演を交えながら学んだ。	協力員8名 区民29名
第2回(11.28) 阿部絢子さんのお掃除&お片付け道場	生活研究家・消費生活アドバイザー 阿部 絢子 氏	汚れの分類についての知識や汚れに合わせた掃除法の他、片づけを通じた快適な暮らしについて講演を通して学んだ。	協力員15名、 区民43名
第3回(2.20) 落語で楽しく学ぼう！悪質商法の知識と対処法	落語家 桂 竹千代 氏 東京都消費生活総合センター 保谷 秀子 氏	権利擁護センターほっとサポートねりまと共催で、高齢者が詐欺被害にあわないために気をつけるポイントや家族や地域住民を被害から守るための気づきの視点や対応等について落語と講義を通して学んだ。研修終了後に協力員の交流会を行い支援にあたっての情報交換を図った。	協力員・支援員 計15名 区民31名

## (エ) 情報誌の発行

事業名	内 容	実施規模	対象・参加人員等
すまいる通信の発行	研修の内容・日程を通知し、協力員の活動や利用者とのふれあい等を周知した。	4回	各600部

## イ. 民間ショートステイサービスの斡旋

事業名	内 容	対象施設	対象・参加人員等
有料老人ホーム 短期入所サービス	一時的な宿泊施設として、短期有料老人ホームを割引斡旋した。	8施設	登録者12名

ウ. 介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴う事業のあり方の検討  
他地区社協との連絡協議会において各地域の動向や課題について情報共有を行った。

#### (4) 企業等における地域福祉活動の推進・支援

NPO 法人や学校、企業等が行う地域福祉活動を支援するにあたって、ボランティア・地域福祉推進センターへのつなぎや助成事業の案内等、必要に応じ情報提供を行った。

### 7. 各種資金の貸付等

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的な自立を図ることを目的とした資金の貸付と必要な相談支援を行った。

生活福祉資金の相談では例年通り教育支援資金が多かった。教育支援資金の決定件数は昨年度の131件から120件となった。その他、生活保護世帯のエアコン購入費用や障害者世帯の自動車購入費用等の貸付を行った。

昨年度は教育支援資金の貸付上限額があがり、延滞利子が引き下げられる制度改正があった。また今年度は日本学生支援機構の貸付条件が変わり、低所得世帯に対する貸付条件が緩和されるなど教育費に関して世間の注目が高い事がうかがえた。生活福祉資金の教育支援費は他制度優先の為他制度が利用できたのか昨年度より貸付件数が下がった。

#### (1) 生活福祉資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

低所得者世帯・障害者世帯・高齢者世帯の自立支援資金として、民生児童委員の調査・協力を得て、相談・貸付・償還事務を行った。

##### ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 130件 (うち全額辞退者 8名) ※昨年度 142件

(イ) 貸付決定金額 236,342,220円 (全額辞退者含む) ※昨年度 167,047,519円

資金種類	件数	貸付決定額
教育支援資金	120件	229,825,000円
福祉資金	10件	6,517,220円
緊急小口資金	0件	0円
合計	130件	236,342,220円

##### イ. 償還実績

(ア) 償還率 83.47% (現年度)

(イ) 償還完了件数 51件 (平成28年度末債権数 1,276件)

(ウ) 償還金支払免除 0件

(エ) 延滞利子支払免除 0件

##### ウ. 生活福祉資金調査委員会の開催

年月日	内 容
H28.7.25	①平成27年度 生活福祉資金実績報告 ②熊本地震から都内避難者への生活福祉資金緊急小口資金 (特例貸付) ③熊本地震から都内避難者への特例貸付について

#### (2) 総合支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業等、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援 (就労支援、家計指導等) を必要とし、貸付を行うことにより自立が見込まれる世帯に対しての生活資金等貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。

##### ア. 貸付実績

(ア) 貸付決定件数 1件

(イ) 貸付決定金額 462,518円

資金種類	件数	貸付決定額
住宅入居費	0件	0円
一時生活再建費	0件	0円
生活支援費	1件	430,000円
合計	1件	430,000円

##### イ. 償還実績

(ア) 償還率 82.97% (現年度)

(イ) 償還完了件数 5件 (平成28年度末債権数 216件)

(ウ) 償還金支払免除 0件

**(3) 生活復興支援資金〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

東日本大震災に伴い、生活福祉資金（福祉資金福祉費）の特例貸付がはじまり、震災により被災した低所得世帯に当面の生活に必要な経費等の貸付相談を行ったが、平成 28 年度は貸付実績は無かった。

**(4) 臨時特例つなぎ資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

住宅喪失の離職者で、公的給付制度又は公的貸付制度の申請が受理されており、かつ当該給付等までの生活に困窮している世帯に対しての生活資金貸付制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 25 年 3 月までの時限事業であった。しかし平成 28 年度も実施したが貸付実績は無かった。

**(5) 不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

現在居住している自己所有の不動産（土地・建物）に、将来にわたって住み続けることを希望する高齢者世帯に対し、その不動産を担保に生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 28 年度は新規の貸付決定件数が 1 件あった。平成 28 年度も全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア．貸付実績

（ア）貸付決定件数 1 件

イ．償還実績

（ア）償還完了件数 2 件 （平成 28 年度末債権数 19 件）

**(6) 要保護世帯向け不動産担保型生活資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕**

要保護状態の高齢者世帯に対し、現在居住している自己所有の不動産（土地・建物）を担保として生活資金を貸付する制度として、相談・貸付・償還事務を行った。平成 28 年度は新規の貸付決定件数は無かった。また、全世帯の訪問を行い、世帯状況の把握に努めた。

ア．償還実績

（ア）貸付決定件数 0 件

（イ）償還完了件数 0 件 （平成 28 年度末債権数 15 件）

**(7) 受験生チャレンジ支援貸付事業〔練馬区からの受託事業〕**

一定所得以下の世帯の子供への支援を目的として、学習塾等の費用や、高校や大学等の受験費用の貸付を無利子で行った。

ア．学習塾等受講料貸付金 貸付決定件数 191 件 貸付金額 36,508,800 円

イ．受験料貸付金 貸付決定件数 192 件 貸付金額 8,902,900 円

**(8) 私立高等学校等入学資金貸付事業〔練馬区補助事業〕**

生活保護世帯あるいはこれに準ずる生活困難な世帯が、他の同種の公的資金を借り受けてもなお資金が不足する場合の入学資金等の貸付の償還事務を行った。（平成 26 年 3 月末で貸付事業は終了）

ア．償還実績

（ア）償還率 7.7%

（イ）償還完了件数 0 件 （平成 28 年度末債権数 11 件）

**(9) 長尾修学育英資金貸付事業**

所得の少ない世帯を対象として、大学・短期大学入学に際して必要となる入学資金等の貸付に関する償還事務を行った。（平成 18 年 3 月末で貸付は終了）

ア．償還実績

（ア）償還率 21.65%

（イ）償還完了件数 0 件 （平成 28 年度末債権数 6 件）

**(10) 法外援護緊急たすけあい事業**

ア．小口資金貸付

災害や臨時の出費等による一時的な生活困窮者に対し、5 万円を限度とした貸付相談を行った。

（ア）貸付決定件数 0 件

（イ）償還完了件数 0 件 （平成 28 年度末債権数 35 件）

（ウ）償還金支払免除の適用

練馬区社会福祉協議会定款第 16 条（1）に基づき平成 29 年 3 月 23 日議決

死亡または所在不明等による償還金支払い免除 1 件

イ．資金の交付

住所不定者等に当座の食費、知人・友人宅及び救護所等へ赴く交通費等を支給した。

(ア) 各総合福祉事務所へ事務を委託 交付金合計 825,622 円

区 分	件 数	区 分	件 数
練馬総合福祉事務所	1,112	光が丘総合福祉事務所	120
石神井総合福祉事務所	197	大泉総合福祉事務所	326
4 総合福祉事務所合計			1,755

#### (11) 社会復帰支援資金貸付事業

保護観察の対象となっている方に対し、社会復帰をする上で必要な資金に関する貸付相談を行ったが、平成 28 年度も貸付実績がなかった。

#### (12) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

平成 28 年 12 月より東京都社会福祉協議会から委託を受け、高等職業訓練促進給付金受給対象者に対し入学準備金、就職準備金の貸付事業を行った。28 年度は遡及して、この貸し付けを受けることが出来たが、遡及の申込者は無く、平成 29 年 4 月の高等職業訓練促進給付金受給予定者から入学準備金の申し込みが 2 件あった。

#### (13) 債権管理の強化

滞納者に対しては定期的な督促状の発送や訪問を行った。また、返済方法に関する相談援助を行うなど、借受人に合わせた債権管理の強化を図った。

なお、貸付としての事業を終了し、償還事務のみを行っている事業は以下の 2 つとなっている。

##### ア. 離職者支援資金貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

失業により生計の維持が困難となった世帯に対して、再就職までの生活資金貸付を行う制度の償還事務を行った。（平成 21 年 9 月末で離職者支援資金貸付事業は終了）

##### 【償還実績】

- ・ 償還率 97.36%（現年度）
- ・ 償還完了件数 0 件（平成 28 年度末債権数 55 件）
- ・ 償還金支払免除 0 件
- ・ 延滞利子支払免除 0 件

##### イ. 子育て世帯への優遇貸付事業〔東京都社会福祉協議会からの受託事業〕

離職者支援資金または総合支援資金生活支援費の申請者で、世帯内に扶養している子どもがいる世帯に対しての、生活費の上乗せ、または修学に必要な費用の貸付制度に関する償還事務を行った。（平成 22 年 3 月末で貸付事業は終了）

##### 【償還実績】

- ・ 償還率 52.73%（現年度）

#### (14) 福祉事務所との連絡調整会議

福祉事務所との連絡調整会議 2 回

相互の情報提供・連絡調整を図るため、福祉事務所主催の連絡調整会議に参加した。

### 8. 活動計画の着実な推進と組織再編も含めた経営改革

#### (1) 地域福祉活動計画推進の進捗管理

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会の円滑な運営に向けて事務局の役割を担った。地域福祉協働推進員（ネリーズ）の登録の管理も行い、登録者は 354 名となった。

#### (2) 経営改革の取り組み

経営改革担当主査を配置し、区政改革の動向を踏まえ区と連携して外郭団体の見直しへの対応を行った。平成 30 年 4 月からの公益財団法人練馬区障害者就労促進協会との統合に向けて、組織体制の整備や事業の充実に向けて検討をすすめた。

### 9. 社会貢献事業の取り組み

#### (1) ネットワーク連絡会の開催

社会貢献担当主査を配置し、社会福祉法人等の連携による社会貢献事業の推進を目指し、ネットワークづくりに向けて取り組みをすすめた。「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりのための連絡会」を開催（2 回）するとともに、改正社会福祉法についての相談対応や、地区別の連絡会開催に向けて調整役を担い、近隣法人の連携を強化する仕組みを整えた。

#### (2) 法人へのヒアリングと地域別連絡会の開催

福祉事務所単位の地区別連絡会において各法人がすでに取り組む社会貢献事業や今後取り組みたい事業を把握、共有することで連携を図りながら地域の公益的な取り組みの検討を行った。

## 10. 危機管理・安全対策

安全衛生委員会での意見を反映し事務所内の職場環境の改善に努めた。

## 11. 地域の人材育成の充実に向けた取り組み

### (1) 実習生の受け入れ等、学生・学校に対する支援

社会福祉士実習、精神保健福祉士実習、見学実習等の社協組織としての受け入れ事務（学校関係者等との連絡調整や契約）を総括し、円滑な実習受け入れに努めた※P.6 3. 実習委員会 参照

### (2) 職員派遣

社協職員としての実践報告や小地域福祉活動、生活困窮者支援の実践、SST（ソーシャルスキルズトレーニング）について等、練馬区社協各部署の知識や技術等の専門性を活かした、関係機関、団体、学校等への講師派遣のとりまとめを行った。

※以下、実施日程順実績

団体名	テーマ	派遣部署※略
東洋大学ライフデザイン学部	精神障害者への支援について	地域福祉課長
NPO 法人 日本地域福祉研究所	地域における新たな支えあいとコミュニティソーシャルワーク～地域の社会資源と専門職の役割～	地域福祉課長
第 59 回日本病院・地域精神医学学会総会 プレ企画	地域シンポジウム「練馬からの発信～病院を問い直し 地域を耕す～」	総務係長
東京都社会福祉協議会（東京ボランティア・市民活動センター）	当事者とセルフヘルプ・グループのサポートに関する連絡会	生活 SC
栃木刑務所	工場別 SST 指導の実施 ※計 5 回	地域福祉課長
日本更生保護協会	関東ブロック「保護司のための SST 研修」	地域福祉課長 きらら
学校法人 NHK 学園	相談援助演習（90 分×4 コマ）	地域福祉課長
新座市役所	障害の理解とコミュニケーションについて	白百合所長
法務省総合研究所	第 8 回保護観察官専修科（ひとり SST）	地域福祉課長

※その他、各部署事業の周知、広報に関する職員派遣は各部署の該当ページを参照。

## 【白百合福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業

一般企業で働くことが困難な主に知的障害のある方を対象に、自立と社会経済活動への参加を促進するために働く場を提供し、作業および生活の支援を行い、障害者福祉の増進を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

### 1. 利用者の状況 平成29年3月31日現在 定員40名、現員38名

#### (1) 性別・年齢

項目	男性	女性	合計
人数	20名	18名	38名
平均年齢	38歳	40歳	39歳

#### (2) 入退所状況

入所者	6名	退所者	2名
-----	----	-----	----

## 2. 作業実績

### (1) 工賃支払実績

区分	年額	平均月額
総収入額	4,809,349円	〈平均〉402,515円
消費税清算金	20,830円	
一人あたり平均支給額	127,667円	10,639円

※一人あたりの平均月額は、28年度支払工賃総額（総収入額+消費税清算額）÷支払対象者数（年間延実働人員数454名）による。

### (2) 作業種目別収入

項目	年額	平均月額
紙器組立	2,418,922円	201,576円
割箸袋入れ	283,824円	23,652円
紙器組立・封入	294,230円	24,520円
寿司用箸セット	90,700円	7,558円
建物清掃	103,480円	8,623円
アルミ缶回収	19,425円	1,619円
古紙回収	363,510円	30,292円
梅干（委託販売）	581,724円	48,477円
さをり織り（自主生産）	469,421円	39,118円
手すきハガキ（自主生産）	99,457円	8,288円
その他	215,486円	17,957円
27年度消費税預かり金額	△110,000円	△9,166円
計	4,830,179円	402,514円

## 3. 利用者支援

### (1) 作業支援（福祉的就労支援）

#### ア. 個別支援の充実

利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望等を聞き取り個別支援計画を作成した。個別支援計画に基づいて、作業所として柔軟なサービス提供や支援を心がけた。あわせて前期後期に各人の個別支援計画の見直しを行いながら、1年間を通して利用者が充実した作業所生活を送ることができるよう支援した。

#### イ. 週末ミーティング

毎週金曜日に、作業班ごとで週末ミーティングを行った。一週間で自分は作業のどのような部分を頑張ったのか、一人ひとりが発表した。また、作業の進捗状況や予定を確認することで意欲に繋げることが出来た。

#### ウ. 工賃の支給・評定

3ヶ月ごとに開催した評定会議において、評定基準に基づき利用者個人の作業評定値を決定し、工賃を支給した。また、図や具体例を用いたわかりやすい評定基準表を作成し、利用者と家族に丁寧に説明した。

エ. 作業開拓、工賃の増額

(ア) 安定した作業提供をするために、作業開拓を行い、工賃アップへと繋がるよう図った。

(イ) 一人ひとりにあった作業提供の工夫や細やかな作業支援を行い、利用者が主体的に作業に取り組めるような環境を整えた。

オ. 作業内容

(ア) 受注作業

宅配寿司箸セット、紙器製作、チラシ封入作業を中心に取り組む。定期的に受注する紙器製作では、既存の作業のほか新規作業も行った。作業工程や種類が増え、多くの利用者が関わることができた。

(イ) 屋外作業

古紙回収（区役所、図書館、近隣住宅・団地等）を年間延べ70回行い、総重量33,750kg回収した。アルミ缶回収（近隣住宅・団地）を年間495kg回収した。練馬区立石神井公園区民交流センター内トイレ清掃を月1回行った。

(ウ) 自主生産

さをり織りは主に6名の利用者が取り組んだ。ボランティアの協力のもと製品を仕上げた。手すきはがきはデザインを一新した。新商品の開発により売り上げが増加した。

昨年度に引き続き、販売会等に積極的に参加することができた。また、以前に購入いただいた方からの注文も多く見られた。

(エ) 受託販売

「紀州南高梅」の梅干し販売を受託し、利用者作画のイラスト入りラベルを貼り、施設窓口・各販売会等で販売を行った。

a. 自主製品販売会・バザー等参加状況：参加49回、利用者延べ16名・職員延べ40名

カ. 自主生産事業の商品開発・開拓

(ア) 「さをり教室」の開催

地域の方を対象に、さをり織りの体験教室を開催した。さをり織りを通して地域の方と交流できる機会となった。実施回数：6回 参加人数：10名

(イ) 「しらゆりマルシェ」の開催

店舗ワゴンを使用し、自主生産製品の販売を行った。来客だけではなく、通行人とも挨拶や会話を交わし、地域の方と交流できる機会にもなった。

(ウ) 自主生産製品の商品開発、販路拡大に努め、情報収集・研究を行った。

(2) 就労支援

ジョブサポートかたくりの利用者、職員を講師に迎え、「グッドワーク講座」を開催した。はたらくことや心構えなどについてみんなで考え、はたらくことへの意欲や関心を高める機会を設けた。

(3) 生活支援

利用者一人ひとりが、いきいきと自分らしく過ごせるよう個別支援の充実を図った。職員との面談を定期的に行い、利用者の思いや状況の把握に努めた。また、各プログラムや行事について、利用者一人ひとりの希望を聞き取ることに努めるとともに、写真や絵を用いて視覚的に選択しやすい提示を行った。

ア. 行事

※印は任意参加行事

行事名	実施日	場所・内容
福祉音楽祭 in ねりま	4/12	練馬文化センターにて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った。
※グループ活動	4月5月	狭山果樹園、昭和記念公園散策、・ロッテ工場見学2グループ、奥武蔵、牧場散策、石神井公園散策へ行った。
練馬区障害者通所施設合同運動会	5/21	区内通所施設が練馬区立南町小学校に集い開催された。(利用者31名・家族20名)
宿泊旅行	9/15~16	静岡県伊東市方面に行き、観光を楽しむと同時に、家庭以外にて2日間を過ごす体験を行った。
白百合まつり	10/22	作業公開、アトラクション、模擬店、どじょうつかみ、わくわくマーケットを実施し、約500名が来所した。
ユニバーサルスポーツフェスティバル	10/19	光が丘体育館において、ボッチャやスポーツ吹き矢などをグループに分かれ楽しんだ。

※障害者フェスティバル	12/3	光が丘区民センター及び周辺にて舞台発表と販売会を行った。
新年顔合わせ会	1/5	新年を祝い「今年の抱負」の発表を行った。
来て、見て、白百合 (施設公開)	6/24, 8/26 2/25	地域の方々と交流し、施設の理解を深めてもらうために施設公開を行った。学校の夏休み期間での開催や土曜日開催、また「わくわくマーケット」との合同開催なども企画し、さまざまな客層の来所があった。
グループ外食	年 2 回	地域のお店を利用し食事を楽しみ交流を深めた。作業所周辺のお店のほかにもイベント参加 (3 回) とあわせてグループで外食を楽しんだ。
しらゆり探検隊 (社会見学)	11/11~ 12/3	地域の公共施設や関連施設を見学し、仕事の様子を調べて、報告会を行った。(練馬区立石神井公園ふるさと文化館、石神井消防署、西武車庫上石神井営業所、T ジョイ大泉)

イ. クラブ活動 (第 1・第 3 水曜日/午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分)

利用者の希望をもとにクラブを構成し、ボランティアの参加や、前期・後期で活動内容を変えることにより、多彩な活動が体験でき、楽しんで活動を行うことが出来た。(カラオケ・プール・ダンス・新聞づくり・ちぎり絵・折り紙・ボウリング・ウォーキング・地域探索など)

ウ. みんなの会 (年 4 回: 5/18、8/31、11/30、2/22)

利用者から選出された役員が中心となりみんなの会を実施した。活動の役割分担や所内でのマナーなど利用者から提出された課題について話し合いの場を持ち、意見の交換などを行なった。

エ. はなまる講座 (生活講座) (年 4 回: 4/22、7/27、10/26、1/25)

利用者一人ひとりが主体的に働くこと・楽しむことを支援するため、生活に必要な様々な事柄について学び・考え・知る機会として講座を開催した。

議題: 「手洗いについて」「販売会のマナーについて」「エコについて」「インフルエンザの予防について」等

オ. しらゆり安全委員会 (年 3 回: 8/22、1/24、3/31)

利用者が主体となり、日頃から安全意識を高め考えていく場として、利用者・ボランティア・職員で構成する。定期的に委員会を持つことは難しかったが、防災訓練後に話し合い、訓練の振り返りや避難リュックの点検等を行った。

カ. 役割活動

利用者が日直当番や掃除当番等の所内の役割に主体的に関わる機会を設け、役割を担い果たすことの大切さを身につけることが出来た。

キ. 情報提供・話し合い

利用者に家族会の内容や行事等の説明、話し合いを行い、議事録をユニバーサルデザイン仕様にした。そこで利用者の意見を聞きとることが出来た。また、地域生活に必要な情報を提供できるようにした。

ク. 利用者余暇支援・利用時間の延長

(ア) 休日余暇支援事業 (みんなのつどい)

登録した利用者 (白百合福祉作業所 16 名、かたくり福祉作業所 32 名) を対象に、原則毎月第 3 土曜日に作業所において、レクリエーション活動等を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、ボランティアの協力を得て演奏や演劇等の鑑賞機会を設けるなどして余暇の充実を図った。楽しみの時間を共有することで、地域住民との交流の機会ともなった。年間計 12 回開催、利用者参加延べ 263 名 (うち白百合福祉作業所利用者延べ 77 名)

(イ) 施設利用時間の延長

家族の所用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。(延べ 83 回実施)

(4) 健康管理・健康活動・保健衛生

ア. 健康管理

項目	内容	実施日	受診・受講人数
健康診断	聴心、尿検査、血液検査、x-線、 腹囲 (40 歳以上)	12/16	12 名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月 1 回	
歯科検診	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	4/14	31 名
眼科検診	眼底検査	6/30	32 名



耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	4/26	33名
身長測定	年1回	4/15	34名
健康講座	健診結果の読み方と生活習慣病予防の食事のお話し	2/20	23名
体重測定	毎月1回 年12回		

イ. 健康活動…ラジオ・ストレッチ体操、いきいき体操、健康指導、健康講座、手洗い、うがい、消毒等を行った。

#### 4. 地域活動（ともに生きるまちづくり）

##### (1) 「ともに活動する」

###### ア. 地域貢献活動

###### (ア) しらゆり見守りウォーキング 活計

近隣小学校に通う児童の見守りと地域の清掃活動に取り組みながら、道ゆく地域の方に挨拶を行った。練馬区パトロール団体にも登録をした。児童や地域の方々とも挨拶し合えるようになった。

###### (イ) 駅前清掃活動：年間10回参加（利用者延べ20名、職員延べ15名）

池袋町会婦人部、練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、石神井公園駅前清掃活動に参加した。利用者は地域のためにできるボランティア活動としての意識を持ち、いきいきと取り組んでいた。

###### (ウ) クリーンウォークキャンペーン：年間1回参加（5/29 利用者・家族6名、職員1名）練馬地域福祉ハートフルアクターズと協働し、地域の環境美化のため清掃活動を行った。

###### (エ) リサイクル事業

###### a. 新聞回収（各1回/月）

回収先：近隣の住宅・団地、区内図書館、練馬区役所（2回）、石神井庁舎、豊玉障害者地域生活支援センターきらら

###### b. アルミ缶回収 近隣住宅・団地（各1回/月）

近隣の住宅・団地の協力を得て古紙・アルミ缶回収を行なった。高齢等により古紙を階下までおろすことが負担になる方に対しては、玄関口での個別回収を行った。地域に作業所の様子を知ってもらうために、回収日を知らせるチラシには作業所の近況報告を載せた。また、裏面にはお祭りやイベントの告知、ボランティア募集記事、自主製品や梅干し販売の情報を載せた。

###### (オ) 白百合わくわくマーケットの開催

子ども用品の物々交換会「白百合わくわくマーケット」として、白百合まつり（10/22）、施設公開（6/24、8/26、2/25）に合わせて同時開催した。近隣幼稚園や保育園へチラシの配布、地域の子育て支援団体とも連携しイベントの周知を行った。

###### イ. 地域交流事業の推進

###### (ア) イベントの開催

###### a. 白百合まつり（10/22）

作業公開・体験をはじめ、アトラクション、ゲーム、地域お店や団体による模擬店などを実施した。今回は祭り開始の合図として、ブラスバンドによるファンファーレを行い来場を呼びかけた。

###### b. 施設公開の開催（6/24、8/26、2/25）

地域の方々を対象に、作業公開・体験、作業所紹介の展示、自主製品販売、カフェコーナーを設け開催した。また学校の夏休み期間や土曜日開催、白百合わくわくマーケットとの合同開催なども企画し、さまざまな客層の来所があった。

###### (イ) 地域イベントへの参加

###### a. 灯籠流しの夕べ（8/6）、チルコロ石神井まつり（10/30、3/26）

###### b. その他イベント等での自主製品の販売会に参加した。（49回）

###### (ウ) 近隣の学校等との交流

石神井小学校2年生の「この町大すき！石じい大はっけん」の授業の一環として訪問（9/29、10/6）を受け入れた。その後行われた小学校の発表会（11/11）に招待され、利用者と職員で小学校に伺い交流を図った。

(エ) グループ外食の実施(7月、9月)

地域の飲食店を利用し、外食を楽しみ、地域の方々とふれあい、施設理解を深めた。

ウ. 地域とつくる災害対策

(ア) 「こんにちは! しらゆりです」運動…古紙、アルミ缶回収等にご協力いただいている地域住民を対象にメッセージカードの投函や玄関先での挨拶を通して関係作りをし、ゆるやかな見守りの役割を担った。

(イ) 協働災害訓練…日頃から地域住民との関係づくりに努め、町会の総合防災訓練に参加した。また、近隣施設と災害時の対応についての情報交換を行った。 **活計**

## (2) 「ともに学ぶ」

ア. 地域学習会 (年2回) **活計**

(ア) 第1回地域学習会 (学習会 6/22 参加者 100名 見学会 6/29 参加者 96名)

石神井小学校4年生を対象に利用者が講師役を担う学習会の開催と作業所の見学や体験の受け入れを行った。小学生と交流を図るとともに、障害者・施設への理解につなげた。

(イ) 第2回地域学習会 (9/9 参加者 21名)

「ともに生きるまちづくり活動」の一環として民生・児童委員の方々と学習会を行った。利用者が案内係りや講師役を担い、作業の見学や体験を通じて利用者との交流が深まり施設理解につなげることができた。

イ. 夏休み体験教室 (8月5日・8月8日 30名)

小・中学生を対象に自主製品のさをり織りと手すきハガキの体験の機会を提供した。親子参加も積極的に受け入れ、交流の機会にもなった。

ウ. 夏休み体験ボランティアの受け入れ **活計**

福祉に関心のある高校生や専門学校生、大学生を対象に、夏休みを利用して、作業所での体験をしてもらった。障害への理解を深めてもらうとともに、福祉人材の育成に取り組んだ。

エ. 学び舎白百合 **活計**

福祉に関心のある方や自身のキャリアアップ等、地域の方々の様々な目的の見学やボランティア活動の受け入れを行った。来所者が、特技や趣味などを伝える機会を設け、利用者、来所者、職員が互いに学びあえる場へとつなげた。

オ. 実習生の受け入れ **活計**

(ア) 福祉実習…大学、専門学校の社会福祉士等の資格取得のための実習生の受け入れを行った。(社会福祉士等 24名)

(イ) 体験学習…福祉学習の一環として、小学生、中学生、高校生の体験学習を受け入れた。

(ウ) 入所実習…入所実習: 4名 (特別支援学校高等部3年生4名)

(エ) 実習前見学・体験…実習を控えた特別支援学校の生徒・家族の見学、短期間の体験実習の受け入れを行った。

## (3) 「ともに活かし合う」

ア. 地域住民の受け入れ

イ. ボランティアとの協働

ボランティアの受け入れ (受け入れ総数: ボランティア 620名)、散髪ボランティア (年間4回、延べ12名)・手話ダンスボランティア (年間9回、延べ29名)・作業ボランティア (延べ436名)・クラブ活動 (延べ11名)・行事等協力ボランティア (延べ88名) を定期的に受け入れた。活動の一つとして、いきいき体操ボランティア (延べ44名) も定着し、行事や外食などにも一緒に参加してもらい、交流が深まった。また、施設見学・体験を希望する住民、学生、関係機関職員等を随時受け入れ、施設理解を深めることに努めた。

ウ. ボランティアとの交流

ボランティア感謝ウィーク (3/21~3/31)

ボランティアに、日頃の感謝の気持ちを伝える機会として「ありがとう感謝ウィーク」を企画した。一緒に公園に出かけ花見を楽しんだほか、メダルや「ありがとうの手紙」を作成して手渡した。

## 5. 施設運営

### (1) 運営協議会の開催 (年2回開催)

地域関係者、利用者・家族、練馬区および施設職員を構成員とする協議会を設置し、利用者サー

ビスの向上、施設運営の改善等のための意見交換・協議を行った。(10/28、3/10)

## (2) 家族との連携

(ア) 家族会：年 9 回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明、報告や意見交換を行った。(※家族会延べ参加人数 203 名)、グループ懇談会：年 3 回開催(1 回につき 2 グループ同時開催)。利用者家族を 5 グループに分け、少人数で発言をしやすい雰囲気の中意見や情報の交換を行った。

(イ) 勉強会(11/18)：権利擁護センター ほっとサポートねりま所長を講師に迎え「成年後見制度と地域福祉権利擁護事業」についての勉強会を行い、制度についての説明や利用方法について知り、活用を考える機会とした。家族と職員 30 名が参加した。

## (3) 危機管理・安全対策

ア. しらゆり安全委員会…利用者が主体となり、施設内の安全保持活動をおこなった。利用者の視点で安全や安心について確認や話し合いをすることが出来た。

イ. 安全対策…定期的に所内の安全点検を行うとともに、作業室の整理整頓を行った。

ウ. 災害訓練(月 1 回)…BCP(事業継続計画)をもとに避難訓練(地震または火災想定)を実施した。災害時を想定したすべり台訓練も行った。

エ. 情報交換会…近隣施設と災害時の対応についての情報交換を行った。

オ. 情報伝達訓練…毎月の避難訓練後に、家庭および関係機関に災害時メール送信の訓練を行った。

カ. 防災パンフレット…災害時に必要な情報をまとめた冊子を作成した。家族・ボランティア・関係機関・職員との連携強化を図った。

## (4) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取組み

ア. 利用者からの相談・苦情をいつでも受け付けられる体制を整え、要望等には誠実かつ迅速に対応するよう努めた。

イ. 苦情解決第三者委員との懇談会・相談会：年 2 回実施。(家族対象 9 月・利用者対象 2 月) 家族や利用者から施設への要望や苦情等の聞き取り、意見・要望への対応を行った。

ウ. 個人情報保護のための管理体制を整備し、研修を実施し職員の個人情報保護に関する意識啓発に努めた。

エ. リスクマネジメント体制を整え、「ヒヤリハット情報」の収集を行い、職員間で共有し事故の防止に努めた。

## (5) 施設評価・調査

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、「利用者調査」「事業評価」等によりサービスの内容、組織のマネジメント力等の評価を受けてその結果を公表した。第三者評価を通して施設サービスの改善点や課題を明らかにしその改善に取り組んだ。

## (6) 広報活動

ア. 施設広報紙「しらゆり通信」の発行

イ. チラシ・パンフレットデザインを一新した。

ウ. 掲示板の活用等を通して施設 PR や社協の事業紹介を行った。

エ. 練馬区社協ホームページでの情報提供、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載。

## (7) 職員研修・育成

ア. 職員研修

支援の充実、職員の資質向上を目指し研修を受講した。(研修参加 20 回、参加職員延べ 42 名)

イ. 練馬区社会福祉協議会人材育成方針に基づいた OJT(職場内研修)の充実を図った。

ウ. 練馬障害福祉人材育成・研修センター等の研修を受講し、専門性を高められるようにした。

エ. 練馬区立福祉作業所合同研修会の開催(12/11)

区立福祉作業所 5 所と練馬障害福祉人材育成・研修センターの共催により職員研修会を実施した。

## 【かたくり福祉作業所】

事業種別：就労継続支援B型事業・就労移行支援事業

### ◇就労継続支援B型事業

心身に障害がある方を対象に働く場を提供するとともに、活動の機会の提供や生活および作業の支援を行い、自立を図ることを目的として各種事業に取り組んだ。

### ◇就労移行支援事業（ジョブサポートかたくり）

一般企業で働くことを希望する障害者に対し、一般就労につなげるために、活動の機会や作業の提供等、就労に必要な知識の習得および能力の向上のために必要な支援を行うことを目的として各種事業に取り組んだ。

\*就労継続支援B型事業と就労移行支援事業で共通のものは（共通）の表示をしている。

## 1. 利用者の状況（共通） 平成29年3月31日現在

定員73名（B型63名・移行10名）現員65名（B型60名・移行5名）

### （1）性別・年齢

種別	項目	男性	女性	合計
就労継続支援 B型事業	人数	43名	17名	60名
	平均年齢	36歳	42歳	38歳
就労移行支援事業	人数	3名	2名	5名
	平均年齢	25歳	20歳	22歳
全体	平均年齢	35歳	39歳	35歳

※小数点以下四捨五入

### （2）入退所状況

種別	項目	人数	内訳
就労継続支援 B型事業	入所	5名	高校卒業5名
	退所	0名	
就労移行支援事業	入所	2名	高校卒業2名
	退所	2名	就労2名

## 2. 作業実績

### （1）工賃支払実績

（就労継続支援B型事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	6,608,044円	550,670円
一人あたり平均支給額	111,684円	9,307円

（就労移行支援事業）

区分	年額	平均月額
総収入額	992,205円	82,683円
一人あたり平均支給額	195,192円	16,266円

※一人あたりの平均月額は、28年度支払工賃総額

÷支払対象者数（年間延実働人員数B型：710名 移行：61名）による

### （2）作業種目別収入

（就労継続支援B型事業）

項目	年額	平均月額
ダイレクトメールの封入	2,717,981円	226,498円
日用品・雑貨のセット作り	1,060,974円	88,415円
割り箸のさや入れ	706,654円	58,888円
お菓子袋詰め	239,333円	19,944円
DVD検品作業	108,864円	9,072円
チラシ折り	88,922円	7,410円
受注作業その他	558,602円	46,550円
自主生産品（和紙小物）	785,048円	65,420円
委託販売（お茶リパック）	528,066円	44,006円
28年度租税公課未払金（消費税）	△186,400円	△15,533円

計	6,608,044 円	550,670 円
---	-------------	-----------

※自主製品材料費 532,333 円 委託販売品購入費 651,585 円  
(就労移行支援事業)

項目	年 額	平均月 額
ハウスクリーニング	120,000 円	10,000 円
日用品のセット作業	424,395 円	35,366 円
配架作業	108,000 円	9,000 円
公園清掃	177,404 円	14,784 円
ダイレクトメールの封入	73,106 円	6,092 円
その他	122,200 円	10,183 円
28 年度租税公課未払金 (消費税)	△32,900 円	△2,742 円
計	992,205 円	82,683 円

※材料消耗品費 46,014 円

### 3. 利用者支援【就労継続支援 B 型事業】

#### (1) 作業支援 (福祉的就労支援)

作業を通して働くことの喜びや充実を感じるにより、社会参加と自立を支援した。

##### ア. 個別支援の充実

(ア) 利用者一人ひとりの状況を把握し、意向や希望を聞き取りながら、個別支援計画を作成した。

毎月、進捗状況等を確認しながら支援内容を検討し年 3 回見直しをおこない、1 年を通じて段階的に目標を設定することで、利用者の自信と達成感が次の意欲につながるよう支援を行った。

(イ) 定期的に二者面談、三者面談、支援会議、グループ会議などを行い、支援内容を確認、検討した。

##### イ. 工賃の支給、評定

3 か月ごとに評定会議を開催し、評定基準に基づき評定値を決定し、工賃を支給した。

##### ウ. 工賃会議

工賃支給日に、利用者とともに作業状況の確認や収入、工賃の仕組みを確認し受注作業や自主製品の内容を把握するとともに意見交換を行い、働く意欲につなげた。

##### エ. 工賃額の維持、作業開拓

(ア) 利用者個々の状況に合わせた作業環境を整え、一人ひとりが様々な作業に取り組むことができるように補助具等の使用や工夫を行い、個々の実施作業の幅が広がった。

(イ) 安定した作業を提供するために、新規に事業者 (2 社) と契約し新作業の獲得に取り組んだ。また、利用者が希望したポスティング作業を定期的に受注し、作業意欲の向上につながった。

##### オ. 作業内容

##### (ア) 受注作業

ダイレクトメールの封入、日用品・雑貨のセット作り、割り箸の鞘入れ等を中心に、年間 24 社から作業を受注した。作業工程に合わせ、利用者が材料の仕分けや計量機や結束機等の機械操作、検品作業に取り組み、効率性を高めることができた。また、入出荷に利用者が参加し、挨拶の練習や感謝を伝える機会となった。

##### (イ) 自主生産

アイデアを活かし、多様な絵柄の製品を生産し、販売会等でのリピーター獲得につながった。作業ボランティアの協力で新たな商品を開発するとともに、利用者の可能性を広げることができた。販売では、地域とのつながりから委託販売の新店舗の協力を得られ、利用者とともに定期的な営業活動を展開した。また、東京都保健福祉局が行う、都内就労継続支援 B 型事業所の自主製品を扱う「KURUMIRU」に出品した。

《主な製品》祝い箸、黒文字、ポケットティッシュボックス、ぼち袋、のし袋、クリップ、和文具 (付箋、マグネット、ダブルクリップ) 等

##### (ウ) 委託販売

「スティックお茶」をリパックし販売を行った。利用者が描いたラベル製作・ラベルの貼付・封入・シーラー・販売までの一連の作業を行った。販売会を通して、電話注文が入るなどリピーターが増え、安定した販売ができている。

(エ) 販売会の参加

自主製品の販売会に利用者が積極的に参加した。販売会参加回数 53 回（内委託 16 回）、利用者延べ 40 名、職員延べ 76 名（他、家族会 12 回・かたくりマーケット 11 回）

(2) 就労支援

ア. 就労支援

就労を希望する利用者 8 名を対象に、「はたらくこと」をテーマにグループワークを 2 回行い、区内の就労継続支援 A 型事業所に見学に行った。また、ジョブサポートかたくりの生活支援講座に参加し「はたらくために必要なこと」について学ぶ機会を持ち、働くことへの意欲向上につながった。さらに 2 名がジョブサポートかたくりで 5 日間の実習を行った。

イ. 進路支援

利用者の適性や状況に応じ、関係機関と連携し進路支援を行った。

(3) 生活支援

利用者が主体者として、所内生活の自主管理や行事等での主体的活動ができるように支援した。また、利用者の意見や要望が施設運営に反映できるように努めるとともに、興味のあるプログラムの提供等を通して生活技術の向上につながるよう支援を行った。

ア. 行事

※印は任意参加行事

行事名	実施日	場所・内容
福祉音楽祭 in ねりま	4/12	練馬文化センターにおいて、地域団体主催の音楽祭に参加し、舞台発表や自主製品販売を行った（利用者 35 名）。参加しない利用者は、所においてレクリエーション活動を行った。
レクリエーション活動	4/22	和光樹林公園において、利用者・家族・ボランティア・職員の交流を深め、心身のリフレッシュを目的として行った。（利用者・家族・ボランティア 103 名）
練馬区障害者施設合同運動会	5/21	南町小学校で、区内通所施設が集まり開催された。（利用者 46 名・家族 40 名）
※障害者スポーツ大会	5/28～29	東京都障害者スポーツ大会の案内をし、希望者が陸上・水泳に参加した。
グループ活動	5～6 月	ホールディング、鉄道博物館、野球博物館、秩父（レッドアロー号）、アクアパーク品川、スカイツリー、江戸東京博物館の 7 コースを 9 回に分けて小グループでの活動を行った。
宿泊旅行	9/1～2 9/8～9	日光と富士の 2 か所を設定し、利用者の希望による選択制とした。
かたくり祭り	10/15	施設公開、作業体験、アトラクション、模擬店、バザー等を行った。来場者数約 500 名
エバーサルスポーツフェスティバル	10/19	光が丘体育館において、ボッチャやスポーツ吹き矢、風船バレー等のエバーサルスポーツを体験した。
※障害者フェスティバル	12/3	光が丘区民センターにおいて舞台発表、周辺で販売会を行い作業所の紹介とともに地域との交流を図った。
忘年会	12/28	利用者によるレクリエーションを楽しんだ。
納め会	3/31	1 年間の業績発表・ボランティア感謝企画、「がんばったで賞」表彰、感想発表、送別会を行った。

\*「四所交流会」は、区立作業所で検討し「エバーサルスポーツフェスティバル」への参加に代えることとした。

イ. クラブ活動

(ア) スポーツ、音楽、レクリエーション等に分かれ、月 2 回行った。各クラブへの参加確認は、イラストや写真等、視覚的にわかりやすい提示をし、一人ひとりの希望を聞き取った。

a. 前期：第 1・3 木曜日 午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分

b. 後期：第 1・3 金曜日 午後 2 時 30 分～午後 3 時 30 分

(イ) 「特別クラブ」（4～9 月）、「拡大クラブ」（年 2 回）を行い、興味や関心を引き出す機会として、地域の施設を利用して活動の充実を図った。

a. 「特別クラブ」：ボランティアの協力による折り紙クラブ

b. 「拡大クラブ」：カラオケボックス、区立体育館、エコバッグ作り、西武バス見学、大泉障害者地域生活支援センターさくら音楽会、リース作り

ウ. 利用者会（青空会）月1回 第4木曜日 午後3時～午後3時30分

利用者の中から前期・後期6名の委員を選出し、事前に委員会を開催して議題を検討した。委員会での検討内容は、各作業班の話し合いの中にも取り入れ、利用者が話し合いに参加できる機会を増やすことで、利用者自身が主体的に運営するという意識が持てるように支援を行った。送別会・忘年会などの行事内容は、青空会委員が中心となって企画した。また、地域交流イベントではパンや飲み物の販売を行った。

《主な議事内容》

- ・青空会委員の選出、行事説明、行事の係選出、行事の感想など
- ・所内生活について（行事や余暇活動についての提案、更衣室やトイレ・CD等の利用について、言葉遣い・あいさつ等について、提案事項等）
- ・就労関連情報、苦情解決など
- ・就労プログラム見学報告

エ. 応援プログラム

利用者が作業や作業所のプログラムに意欲的に参加し励みになるように、納め会で利用者全員に、一人ひとりの「がんばったこと」「良かったこと」の表彰を行った。

オ. 利用者余暇支援・利用時間の延長（共通）

(ア) 休日余暇支援事業（みんなのつどい）

登録した利用者（かたくり福祉作業所32名、白百合福祉作業所16名）を対象に、原則毎月第3土曜日に作業所において、レクリエーション活動を行った。季節に合わせたプログラムの企画を行うとともに、多くのボランティアの協力を得て演奏やコーラスなどを楽しみ余暇の充実を図り、地域住民との交流の機会ともなった。

※年間計12回開催、利用者参加延べ263名（内かたくり福祉作業所利用者延べ186名）

(イ) 施設利用時間の延長

家族の私用、急用等の事情にあわせて便宜を図るため、施設利用時間の延長を行った。

延べ86回

カ. 家族との連携

(ア) 家族会（B型月1回）

年12回開催。年度の計画、方針、各行事、施設サービス、保健などについての説明や報告、意見交換を行った。また防災講座の実施や家族会主催で福祉サービスの現状や今後の支援についての勉強会を行った。

(イ) 個別面談（年1回および必要に応じて随時）

(ウ) グループ懇談（5月・12月）

年2回（5月、12月）班の担当職員と家族で、グループ内での日常の作業内容やそれぞれの利用者の様子などを知らせ、質問、意見交換を行った。

(エ) かたくり相談室（年4回）

利用者の精神面や生活の安定のための相談のきっかけ作りとして、精神科医との相談会を実施した。（5/26、8/25、12/1、2/16）

(オ) 苦情解決第三者委員との懇談会（共通）

年1回実施（2/10）。職員は入らず、第三者委員と家族のみで行い、施設への要望や苦情等の聞き取りを行った。

**(4) 健康・給食・安全管理（共通）**

ア. 健康管理・健康活動・保健衛生

(ア) 健康管理

項目	内容	実施日	受診人数
健康診断	胸部X-P、尿検査、血液検査、聴診	1/19	36名
内科検診	血圧測定、心肺音聴取等	毎月1回	51名～55名
歯科	う歯、歯石、歯肉の炎症、咬合検査	5/19	60名
眼科	眼底検査	4/14	63名
耳鼻科検診	耳、鼻、咽頭検査	6/21	60名
歯磨き指導	歯科衛生士による指導	6/29・8/10	12名・5名
体重測定		毎月1回	—
災害時服薬管理	災害時用に薬の保管を行う。	年2回	37名分
インフルエンザ <sup>※</sup> 予防接種	希望者に予防接種を行った。	年1回	33名

(イ) 健康活動

ラジオ体操、健康指導を行った。ジョギング、ウォーキングは、北大泉野球場の協力のもと水曜・金曜に芝生の球技場で行った。

(ウ) 保健衛生

風邪や感染症の予防のため、手洗い・うがい、食事前の消毒を徹底した。

イ. 給食

(ア) 利用者に給食提供を行った。また、季節の行事に合わせたメニューを多く取り入れ、献立を工夫した。

(イ) 利用者の年齢や身長・体重から栄養基準量を求め、それに基づいて献立を作成した。

ウ. 危機管理・安全対策

(ア) 安全対策 定期的に所内の安全対策を行った。

(イ) 災害対策 避難訓練(火災・地震・震災)を毎月実施した。

a. 地震想定：B型・移行：(4月、7月、8月、11月、1月)

b. 火災想定：B型・移行：(5月、9月、2月)

c. 震災想定：B型・移行：(6月、10月、12月、3月)

e. 災害時引き取り訓練(共通)：年1回実施(12/1)震災想定避難訓練後、避難拠点「大泉第一小学校」にて、家族への引き渡し訓練を行った。

f. 防災講座の開催(共通)：年1回実施(12/1)「災害時の場面を想定し、自分の行動を振り返る」の講座(講師：練馬区立防災学習センター)を家族対象に開催し20名参加した。

g. 災害緊急メールの登録(共通)：大規模災害時に、あらかじめ登録してあるメールアドレスに情報を送信するため、利用者・家族に緊急メールの登録を促した。避難訓練後、訓練メールの送受信訓練も行った。

h. 防災備蓄の整備(共通)：大規模災害に備え、飲料水等備蓄品の点検を行い、入れ替え時期を迎えたα米の試食体験を行った。

(ウ) 防犯対策：警察署・消防署と連携し安全管理に努めた。

a. 交通安全指導(B型)：年1回(11/11)

「見通しの悪い十字路の横断の仕方と安全確認」をテーマに実施した。かたくり福祉作業所の周辺をビデオ撮影したものを視聴するとともに、警察から交通安全に関する講話を聞いた。

#### 4. 地域活動(共通)

##### (1) 施設公開、イベントの企画・実施 活計

ア. かたくり祭り(施設公開イベント)の開催 10/15 来場者 約500名

施設のことをより広く知ってもらうため、作業公開・体験をはじめアトラクション・ゲームを行うとともに地域の団体等によるお店等の出店協力を得て地域の方々と交流した。

a. 作業公開 b. 模擬店 c. アトラクション d. バザー e. 自主製品販売等

イ. 地域交流イベントの開催 6/18 来場者 約500名

練馬区社協の拠点として、地域に開かれ、また気軽に立ち寄ることのできる作業所を目指し、さまざまな地域交流事業を行った。

a. 地域住民による8区画のフリーマーケット

b. 町会によるゲーム、水ヨーヨー祭り

c. 民生児童委員協議会による綿あめ・ポップコーンの配布、募金活動

d. カフェ、抹茶、焼きそば、フランクフルト、弁当、ポテトなどの模擬店

e. 自主製品販売、他施設販売

f. 地域中学校演奏会、ショウエイダーショー等

ウ. 施設公開

(ア) 施設公開

日常の作業の様子を知ってもらい、障害や作業所の理解を深める機会とした。11月17日は、近隣の大泉町福祉園と合同開催した。

5/25：参加者8名 8/24：参加者43名 11/17：参加者15名

(イ) 施設見学・体験 夏休み「かたくり探検ツアー」

区内小中高校生が、夏休み期間に作業所の見学・体験を通し作業所や利用者への理解を深める機会として実施した。近隣の小学生や家族が作業所や障害を知り、特別支援学校在学生が卒業後の進路のイメージを作る機会となった。7/25～8/23 参加者23名



エ. かたくりマーケットの定期開催

地域住民が気軽に立ち寄ることができる販売会を開催し、交流を図った。年 12 回開催。

**(2) 実習生・研修生の受け入れ** **活計**

ア. 福祉実習

(ア) 「教育職員免許法特例における介護等体験事業」研修生の受け入れ：6 名

(イ) 資格取得実習（社会福祉士、精神保健福祉士、保育士）：24 名

(ウ) 司法修習生：2 名

イ. 体験実習

(ア) 都立大泉桜高校奉仕体験：5・6・9・11・12・1・2月の16日間 計6名 延べ48名

(イ) 練馬区立大泉北中学校職場体験：2名

ウ. 入所実習

(ア) 入所実習：15名（B型：4名 移行のみ：7名 就労準備状況アセスメント：4名）

(イ) 職場実習：8名（特別支援学校2年：4名、特別支援学校1年：1名、発達協会：3名）

**(3) 施設・障害の理解促進、地域の人材発掘** **活計**

障害や施設について理解を深めるため、学校等への積極的なPRや講師派遣を行った。

ア. 練馬区立大泉北中学校：職業講話「福祉作業所の仕事について」（1/25）

**(4) 見学者・ボランティアの受け入れ** **活計**

ア. ボランティアの受け入れ

利用者と日課を過ごし、行事や余暇活動などを一緒に作り上げるボランティアを積極的に受け入れた（作業162名、イベント150名、かたくり祭り70名、特別クラブ8名、花クラブ60名、みんなのつどい34名、忘年会3名、納め会8名、その他11名 延べ506名）。作業等のボランティアを納め会に招待し、一緒に納め会を楽しみ、感謝の手紙をお渡しした。

イ. 見学者の受け入れ

常時、見学者の受け入れを行った。

**(5) 講座等の開催** **活計**

小地域福祉活動の一環として、かたくり福祉作業所で地域住民を対象とした講座を開催した。

「みんなで歌おう♪歌声広場」11/13（土）13:00～15:00 参加者31名

**(6) 地域貢献** **活計**

ア. 町内会等との協力

(ア) 大泉町連合町会 大泉町流し踊りの参加 9/3 参加者19名

(イ) 大泉三丁目町会子ども祭りに協力 10/2

(ウ) 大泉北泉町会主催の防災訓練に参加 11/9 参加者20名

(エ) 北大泉商栄会主催大泉第一小学校朝市（寒桜まつり）に参加 4/3、12/4

イ. 緊急避難所（ひまわり110番）

(ア) ひまわり110番交流会に参加 12/10

(イ) 「あんしん大一」合同連絡会に参加 6/11、3/11

**(7) 緑化事業** **活計**

練馬まちづくりセンター、練馬区みどり推進課、地域のボランティアの方々と協力し、公園や施設の花壇・プランターの花の植え替えを行った（月1回）。また、越後山緑地帯の畑で農作物の種まき・苗植え・収穫作業を行った（年5回）。

**(8) 自主製品等の委託・販売**

地域住民の施設への理解を深める自主生産品を知っていただくため、地域の和菓子店を中心に商品設置を依頼した（11店舗、3ボランティア・地域福祉推進コーナー）。また、定期的な商品補充や営業、販売を利用者とともにを行い、交流を図った。

**(9) 近隣多種事業所との連携**

(ア) 大泉まちづくりネットワーク会議に参加（年12回）

(イ) 「湯ちゃぶの会」（高齢者の居場所づくり）に参加 6/14 参加者12名

(ウ) 大泉町福祉園と施設公開を合同開催 11/17 参加者15名

(エ) 大泉まちづくりネットワークの大泉学園通り落ち葉掃きに参加 12/8 参加者9名

(オ) デイケア・かたかごの花クリスマス会に参加 12/19 参加者15名

## 5. 施設運営(共通)

### (1) 職員研修・育成

ア. 新任職員や異動職員向けの新任研修や定期的に支援内容の振り返りを行うなど、練馬区社会福祉協議会人材育成方針に基づいたOJT(職場内研修)の充実を図った。

イ. 練馬障害福祉人材育成・研修センター等、外部研修・自主研修の受講を促し、専門性を高めた。  
研修参加 59回 参加職員延べ 132名

ウ. 練馬区立福祉作業所合同研修会を実施する。

12/14「地域における就労系の施設は何を為すのか」講師：綿祐二 参加者 10名

### (2) 相談・苦情対応、個人情報保護、リスクマネジメントの取り組み

ア. 相談・苦情対応

(ア) かたくりのこえ(ポスト)をB型5カ所、移行2カ所に設置し利用者の声・要望に対応した。

(イ) 苦情解決第三者委員巡回相談

巡回相談(9/12)、家族会懇談(2/10)を実施し利用者・家族の要望や苦情の聞き取りをした。

イ. 個人情報保護

「記録媒体および個人情報持ち出し管理簿」など個人情報保護のための管理体制を整備し、職員の個人情報に関する意識啓発に努めた。また、「個人情報保護に関する基本チェックリスト」を使い、部署、各職員の自己チェックを定期的に行い意識を高めた。

ウ. リスクマネジメント

一日の状況を振り返る職員ミーティングを充実させ、「ヒヤリハット情報」の収集を行い、事故防止に努めた。また、障害者虐待防止法、障害者差別解消法等、関連法について学び、職員の法令順守の徹底に努めた。

### (3) 広報活動

施設広報紙「しゃぼんだま」を発行(5月・8月・1月・3月)、練馬区社協広報誌「社協だより」への記事掲載や掲示板の活用、練馬区社協ホームページでの情報提供を通して施設PRや事業紹介を行った。

### (4) 運営協議会の開催(年2回)

利用者、利用者家族、障害者施策推進課、町会、施設職員等を構成員とする協議会を設置し、利用者サービスの向上、施設運営の改善等のための意見交換、協議を行った。(8/29、3/14)

### (5) 調査

「利用者アンケート」、「東京都福祉サービス第三者評価」を実施し、結果を踏まえた施設運営の充実改善に取り組んだ。また、イベント来場者や地域講座の参加者を対象としたアンケート調査を行い、必要な事業の実施や改善を検討した。

## 6. 利用者支援【就労移行支援事業】

### (1) 作業支援

受注作業、自主製品作製・販売、公園清掃、ワークサンプル、パソコン入力等を通じ、利用者の職業上の強みや課題を明確にし、把握していくことに努め、一般就労に必要な挨拶・返事・報告・質問等のスキルの獲得を図った。今年度は、新規に事業者(1社)と契約し作業の幅を広げることができた。

ア. 個別支援の充実

利用者の状況を把握し意向や希望を聞き取り、アセスメントシートを利用して個別支援計画の策定を行うとともに、3か月毎にアセスメントを行い、必要な支援を行った。今年度は、個別支援計画アセスメントの見直しを行いより就労意欲につながる様式とした。また、家族とも連携し、支援の充実に努めた。

イ. 工賃の支給、評定

4か月ごとに評定会議を開催し、評定点数を決定し工賃を支給した。

ウ. 作業内容

日用品のセット作りを中心に、パソコン入力、「ワークサンプルプログラム」などの事務スキルの習得、ハウスクリーニング・公園清掃などの清掃作業などに取り組んだ。また、施設外作業として、「ショップ学園通り」での販売・接客、企業に赴いての配架作業を行い、就労へのイメージを深めた。

### (2) 就労支援

利用者の希望や適性に依り関係機関と連携をしながら、企業実習、求人登録や申請など必要な手

続きの支援を行った。

ア. 地域就労支援ネットワーク作り

練馬区障害者就労支援ネットワークに積極的に参加し、他機関との連携を図り情報の共有化に努めた。

イ. 職場開拓

ハローワークや練馬区障害者就労促進協会（レインボーワーク）と連携し、職場開拓を行った。

ウ. 体験実習

企業とのつながりから、体験実習を5名実施した。

エ. ハローワークとの連携

職場開拓や体験実習等において、ハローワークと連携し利用者就労支援を行った。

オ. 職場定着支援

定着者4名の職場や機関等と連携し支援した。職場訪問・面談等を実施し定着支援を推進した。

カ. 余暇支援

就業者へ、グループ活動・外出行事等への参加を呼びかけ、余暇の幅を広げる機会を提供し、安定した就業生活につながるように支援した。参加回数：グループ活動2回、外出活動2回、かたくり祭り1回

キ. 就労支援の状況

(ア) 就労者：3名

(イ) 企業見学：8回・・・都内の特例子会社等の見学会に参加した。

(ウ) 企業実習：12名(延べ)・・・特例子会社で実習を行った。

**(3) 生活支援**

ア. 行事（就労継続支援B型に掲載）

イ. 生活支援講座（月4回）

社会ルールやマナーなど社会生活に必要な技術や知識を身につけられるよう、生活支援講座を計画的に全39回実施した。

講座名	回数	内 容 等
働く	9回	働く上で必要なスキルと仕事の「報告・連絡・相談」等の講座や、人と接するときの態度や距離感などの対人スキルを身につけられるよう、ロールプレイなども行った。
生活	10回	健康管理や身だしなみなどについて、働く上で必要な生活面におけるマナーやルールを学ぶための講座を行った。
社会	10回	事前講習で学んだことを公共の場で体験し、社会生活に必要なスキルを身につけてもらう機会として行った。
グループ活動	6回	楽しみながら視野を広げるとともに、社会経験を豊かにすることを目的に、利用者が希望する施設や体験できる場所へグループで出かけた。でかけるにあたっては、利用者間で場所や行程の話し合いを行い、計画を立て実施した。実施後、振り返り、壁新聞の作成を行った。 場所：1回目 横浜カップヌードルミュージアム 2回目 台場フジテレビ
社会活動	4回	公共の場におけるマナーを学ぶこと、外出活動で必要な情報収集の方法について講座を行った。また、療育手帳の活用方法を知り、余暇において活動の幅を広げる体験も行った。 外出：1回目 通勤寮（豊島通勤寮）・映画鑑賞 2回目 工場見学（羽田 JAL 工場）

ウ. 家族との連携

個別面談を定期的に行うとともに、連絡ノートや電話等で適宜連絡調整を行う。

エ. 健康・給食・安全管理（就労継続支援B型に掲載）

**(4) 個別支援**

3か月に一度、個別支援計画を見直した。新たな計画作成時は、本人、家族、福祉事務所福祉士、サービス管理責任者、担当職員の5名による作成会議を開催し、決定した。

## 【豊玉障害者地域生活支援センター きらら】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型」  
 障害のある人たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。また、基幹相談支援センターとしての機能の充実を図り、ういんぐと連携し、区内における相談支援事業（特に精神障害者に対する）をすすめ、相談支援体制の強化に取り組んだ。

### 1. 相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の第 16 項及び 17 項に規定する相談支援事業を行った。

#### (1) 地域の障害者の福祉に関する相談(基本相談支援)

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・火・木・金曜日の午前 9 時～午後 8 時 土・日曜日の正午～午後 8 時

《面接相談》 随時：火・金・土・日曜日の正午～午後 7 時、

予約：月曜日：午前 9 時～午後 7 時、火曜日の午前、

木曜日の午前と午後 4 時～午後 7 時

#### ア. 相談件数

(単位：件)

	電話相談 (1 日平均)	面接 (1 日平均)	総数
27 年度	6,104 (21.4)	2,187 (7.7)	8,291
28 年度	6,911 (23.7)	3,511 (12.1)	10,422

#### イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「不安解消・情緒安定」に関する相談が 52% で最も多く、次に「福祉サービスの利用」に関する相談が 24%、家族・人間関係に関する相談が 5.2% という順になっている。

##### (ア) 電話相談

「不安解消・情緒安定」の内容が最も多く、「福祉サービスの利用」に関する相談が続いた。

自分の気持ちを聞いてほしいという要望が引き続きあり、またサービスの継続的な利用についての相談も多く、ケアマネジメントを行っていることで相談件数増加につながっている。

##### (イ) 面接相談(予約・随時面談)

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は 3,511 件であった。特に訪問相談は前年度の 394 件から 421 件へと増加をした。これは計画相談支援や地域定着支援により利用者宅や病院等を訪問する機会が増えたことが理由と考えられる。

#### ウ. 関係機関・他職種専門職との連携

(ア) 電話相談や面接等で連携を 2,078 件行い、情報共有や事前説明を行うことで支援の充実に努めた。(前年度 1,660 件)

(イ) 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

#### (2) 障害福祉サービス等の利用計画作成(計画相談支援)：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の 16 項に規定する計画相談支援事業を行った。ケアマネジメントの視点から障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、サービス等利用計画作成を行った。

	内 容	具体的な取り組み	件 数
(ア)	計画相談契約者	計画相談支援のため、契約締結した。	166 名
(イ)	サービス等利用計画作成	アセスメントをもとに、サービス等利用計画の作成をした。	213 件
(ウ)	サービス等利用計画の見直し	サービス等利用計画が適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを実施した。	287 件
(エ)	サービス等提供事業等との連携	計画作成及びサービス実施にあたり、必要に応じて連絡調整や担当者会議を実施した。	2,078 件

#### (3) 地域生活の移行に向けての支援(地域移行支援・地域定着支援)：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第 51 条の 19 第 1 項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

内 容	内 容	件数
地域移行支援計画	本人のニーズに基づき地域移行支援計画の作成を行った。	4 件
地域定着支援計画	本人のニーズに基づき地域定着支援計画の作成を行った。	2 件
退院者	地域移行支援計画作成と移行支援を受け、退院した人数。	1 名
精神科病院、地域のサービス事業者等との連携	入院者や医療関係者に地域情報を提供し、入院者の地域移行の支援を行った。また、地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者がすみやかに地域生活を行えるよう環境整備を図った。	53 件
関係機関会議への参加	地域生活移行支援会議圏域別会議・いっぽの会・練馬区退院促進検討会	4 件

#### (4) 基幹相談支援センター機能の充実 活計

ア. 民間相談支援事業所からの相談に対応し、総合的、専門的な相談支援 活計

(ア) 民間事業所からサービス等利用計画作成についての相談や質問を受け、他機関連携のあり方や事例の進め方などについて総合的な相談支援を行った。また就労支援機関等から相談支援事業や事例の進め方について相談があり、計画作成の手順や連携について専門的な支援を行った。

(イ) 関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。{障害者地域自立支援協議会(3回参加)} 練馬区精神保健ブロック別担当者連絡会(光が丘・北町地区3回、豊玉地区3回) 練馬区共同作業所連絡会4回、練馬区障害福祉サービス事業者連絡会15回(分科会含む) 地域生活支援センター所長会(12回)

イ. 練馬区と連携し研修会等の開催 活計

(ア) 練馬区と連携し、計画相談支援に関する情報共有を行った。また、計画相談に関わる課題を抽出し、就労継続支援B型事業所を招き、計画相談と個別支援計画についての勉強会や、保健相談所、福祉事務所を招き意見交換を行い、課題を共有した。(5回実施)

(イ) 特定相談支援事業者をはじめ、精神保健分野、高齢、高次脳機能障害分野、障害分野等関係機関と連携を図った。高次脳機能障害関係者連絡会(5回参加)

ウ. 障害者地域自立支援協議会専門部会(地域生活・高齢期支援部会)を開催 活計

障害分野の関係者のみならず、家族会当事者団体、福祉事務所、保健相談所、障害者施策推進課、練馬区社会福祉協議会等の委員構成で、障害者を地域全体で支えることを目的とした地域生活支援拠点の機能や課題および、高齢期を迎える障害者の支援について協議した。障害者地域自立支援協議会専門部会「高齢期支援部会」(3回開催)

## 2. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第77条の1第1項第9号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

### 登録者の状況

利用登録申請制度を実施しており、今年度は新たに34名の登録者があった。

登録者総数の46%が豊玉保健相談所管轄の利用者で、次いで石神井保健相談所管轄、光が丘保健相談所管轄の利用者が多い。区外からの利用は10%となっている。年齢別では、40代が38%と最も多く、次いで50代が25%、30代が19%の利用がある。

ア. 性別

	男性	女性	総計
登録者総数	335名	274名	609名
27年度登録者数	19名	10名	29名
28年度登録者数	22名	12名	34名

イ. 年齢別

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総計
0名	31名	117名	232名	156名	73名	0名	609名

ウ. 地区別(保健相談所担当地区別)

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
282名	45名	92名	74名	36名	17名	63名	609名

**(1) 障害のある人の社会との交流の促進**

地域の商店会、町会等のイベントに参画、または協力し、地域住民と障害のある人の交流を図った。また、障害のある人の参加により、地域活性化にも貢献し、きららを地域の方に知ってもらう機会となり、地域で活動の場が広がった。また今年度からは、イベントの振り返りの機会を持ち、経験や学びを共有し、次回に向けての準備を行った。 **活計**

ア. 地域の商店会・町会等のイベント

- (ア) つつじフェスタ (4/29・29名)
- (イ) 七夕祭 (6月～7月・30名)
- (ウ) 納涼祭 (7/22・17人、7/23・24名)
- (エ) 練馬子ども笑店街(7/16・20名)
- (オ) 西の市 (一の西 11/11・37名、二の西 11/23・42名、振り返り 11/29 29名)

イ. 「花くらぶ (園芸プログラム)」「街清掃」

花くらぶ (園芸プログラム) (毎週火曜、634名)、街清掃 (毎月第2火曜)

**(2) 関係機関との連携**

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携 計 2,061件

(ア) 障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を充実させた。

(イ) 関係機関が主催する会議へ参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

(ウ) 地域密着型連携支援事業の推進

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに豊玉地区・光が丘地区における障害福祉サービス事業所の情報交換会を行った。事業所の抱える課題等を事業所間でともに考え連携して支援できる環境をつくることを目的に、地域課題の共有や情報交換を行った。

「地域密着型連携支援事業における情報交換会」開催

各事業所の現状・抱える課題等についての情報交換等の内容で5回実施

※詳細は P.75【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1.(3) 参照

イ. 関係する機関が主催する会議やイベントに参加し、情報の共有、情報提供・交換を行い、連携を図った。また、関係者が課題とする共通のテーマを設定した、会議や勉強会を開催した。

(ア) 商店会・町会等主催イベントの実行委員会に参画 2 (1) 参照

(イ) 精神保健福祉関係者が主催する会議や連絡会に参加

「地域精神保健福祉関係者連絡会」(光が丘・北保健相談所精神障害者関係者連絡会 3回)

**(3) 地域住民との連携及び育ちあい**

ア. 障害に関する理解を深めるため、地域住民との交流を図り福祉のまちづくりを目指した。 **活計**

(ア) ボランティア交流会を開催し、ボランティアとメンバー、スタッフが情報共有と日頃のプログラム活動等の振り返りを行う機会を設け、次年度に向けての意見を共有した。

(イ) つつじフェスタ、七夕、練馬子ども笑店街、豊玉睦会納涼祭、西の市等の地域のイベント、お祭りへ参加した。

※詳細は 2 (1) 参照

(ウ) 障害のある人や支援者等の関わりの中として、シンポジウムやプログラム、地域の作業所等との交流の場への参加を促した。

イ. 障害のある人への生活支援、就労支援、地域交流、組織化等の事業に、積極的なボランティアの受け入れや地域住民がボランティアを始める導入の機会を設けた。 **活計**

活動内容	日数	延べ人数
花くらぶ園芸サポーター、練馬区健康いきいき体操サポーター (スポーツプログラム)、食事会、茶道体験、囲碁入門講座、パソコン開放、オープンスペース、男性料理教室、女性料理教室、トライアルゼミ、SST、栄養講座などのプログラムや地域の祭りにともに参加。	165日	454名

ウ. 精神保健福祉講座の開催

(ア) 当事者・家族・関係機関・地域住民向け「誰でも参加できる SST」を開催した。

4/24、6/18、10/8、1/14 【計4回】延べ90名の参加。 **活計**

- (イ) 社会貢献活動として、SSTを活用した地域向け SST プログラムを開催した。**活計**  
 4/25、5/2、6/27、8/22、9/26、10/24、12/26、1/23、2/23【計9回】延べ105名の参加。
- (ウ) 関係機関等を対象に SST 研修を開催した。**活計**  
 7/4(入門編)、8/29、10/8(初級リーダー)、7/28、2/23(SST 勉強会) 延べ60名の参加。

#### (4) 障害に対する理解の促進を図るための普及啓発

発行物・イベント等	内容	回数等
豊玉障害者地域生活支援センターきららだより「たけのこ」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月2,300部発行(関係機関・希望者配布)
きららパンフレット	きららの利用について/きららの概要	随時発行
きらら主催イベントのチラシ	講座、パソコン教室、茶道体験、出張きらら、就労プログラム等の周知	随時発行
練馬区社協ホームページ	きららパンフレット/きららだより「たけのこ」	毎月掲載
出張きらら開催(光が丘)	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと共催でプログラムを企画し開催した。	年間6回開催

#### (5) 障害のある人の自立した日常生活を営むために必要な支援

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、障害のある人、関係機関の情報交換の場の提供。生活の質を高め豊かな生活を送れるプログラムを開催した。

##### イ. 各種プログラム

名称	内容・時間帯	延べ参加人数
オープンスペース	仲間と話をしながら、安心して居られるスペース。オープンスペースの利用から生活面、就労面等様々な相談にもつながっている。 火・金・土・日曜日正午～午後7時	7,069名
パソコン教室	パソコンの操作を学ぶことで向上心を高める役割を果たした。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。 第1・2・3火曜日午後1時～午後5時/4クラス(初心者クラス・初級クラスA・B、復習クラス)を設定した。	452名
パソコン開放	パソコン教室以外にもパソコンを使用する機会を設け、パソコンへの興味関心を深めた。パソコンのわからないところを指導するためにボランティアが入った。第2・4土曜日午後2時～午後4時	245名
昼食会	利用者・ボランティアと一緒に食事をする機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちが季節に合わせた料理を作り、片づけをそれぞれが行った。第3金曜日の正午～	186名
昼食会(カレーの会)	利用者・ボランティアと一緒に食事をする機会を持ち、楽しい時間を過ごした。ボランティアの方たちがカレーから作り、片づけはそれぞれが行った。第2金曜日の正午～	228名
茶道体験	日常的に体験する機会のない和の静かな世界を体験する機会を提供した。表千家講師伊藤宗郁先生がボランティアで指導した。第3土曜日午後2時～	88名
スポーツ	身体を動かしたいという要望により、利用者同志の親睦、健康増進を促した。卓球・ストレッチ・練馬いきいき体操等。定期的に運動したいという要望が多く月1回実施した。第1土曜日午後1時30分～	275名
花くらぶ	ボランティアときららメンバーが、近所の公園や公共施設の花壇(練馬図書館・中央通り・平成つつじ公園・本通り商店会・練馬デイサービス等)の花を育て、手入れを行った。みどりのまちづくりセンターと協働。今年度の夏季は(7月～9月)は3時～4時へ時間を変更した。花壇毎週火曜日午後2時～午後4時	597名
SST(ソーシャルスキルトレーニング)	日常生活のコミュニケーションスキルを高める練習を行う。今年度はメンバーにリーダーの役割や、グループとして成長ができるよう働きかけを重点的に行った。第1・2・3金曜日午後2時～午後4時	367名

出張きらら in 光が丘	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナーと連携し、地域のボランティアに協力していただき、光が丘公園散策、フラダンス教室、野鳥観察等を行った。	62名
男性料理教室	単身でお住まいの方や、料理をこれから始めよう、もっと上手になりたい男性向けに簡単で美味しく、気軽に作れる料理を一緒に作って食事をした。講師は、練馬いきいき体操とボランティア。	23名
大掃除	きららオープンスペースの大掃除をメンバー有志とともに行った。年末恒例となっており、掃除の後には振り返りも含めた懇談会を行い一年の無事を確認した。	37名
栄養講座	栄養士の資格を持つボランティアの方に講師を依頼し、食生活の改善や生活習慣病の予防等を目的に栄養講座を行った。	12名

#### イ. 就労準備支援事業

就労準備グループ トライアル ゼミ	就労の意欲・能力があってもその機会に恵まれないメンバーに対し、就労のためのスキルや知識、情報を共有し、就労するための気持ちづくりをするグループワークを行った。練馬区障害者就労促進協会(レインボーワーク)と共催。企業見学も行った。第4金曜日午後2時～午後4時	114名
就労実習体験	具体的な就労の場で働くことを体験する機会を提供した。毎月第1月曜、第4日曜 体験先：光が丘LIVIN、練馬デイサービスセンター。	9名
りりーふぼーと	就労している方が、情報交換をする会。仕事の悩みや不安、元気になるためのひと工夫など、同じように働く人が普段感じていることなどを話したりした。隔月第3土曜日 練馬区障害者就労促進協会(レインボーワーク)と共催。	32名
就労支援ネットワーク 会議	練馬区障害者就労支援ネットワーク会議に参加し、就労に特化した関係機関との連携や共同のネットワーク構築を行った。・練馬区障害者就労支援ネットワーク会議(分科会含む) 3回参加	

#### ウ. 当事者活動の支援・組織化

障害のある人が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援する。また、地域で安心して生活できるように医療機関、福祉関係機関と連携し、入所施設や精神科病院等に入所・入院中の方に向けて地域の情報や障害のある人の生活の様子等を発信できるよう支援をした。

(ア)「きらら」利用者の主体的な当事者会の支援(音楽を語る会、囲碁教室等) **活計**

名 称	内 容	延べ参加人数
囲碁教室	元日本福祉囲碁協会の会長を講師に迎え囲碁教室を行った。他団体のメンバーも参加し合同で講義を受けた。講師不在時は自主練習を行った。毎月1回開催。	95名
クリスマス会	メンバーの出し物等による楽しいひと時を過ごした。実行委員会形式で事前に実行委員を中心に企画等を話し合い準備の時間を持った。	38名
音楽を語る会	当事者の会で実行委員を募り、自分の好きな音楽の思い出や音楽を通じた経験等を分かち合う時間を持った。不定期で開催。	62名
外出(江戸東京博物館)	外出の機会が減りがちな冬場に、話題の場所へ出掛けた。事前にメンバーとミーティングの場を持ち、行き先や現地での行動内容を決定した。今年度はボランティアも参加した。	22名

(イ) 障害のある人、家族の勉強会開催(SST勉強会、栄養講座、障害年金講座等) **活計**

(ウ) ピア活動の支援(勉強会・講演会) **活計**

(エ) 地域生活サポーター養成講座の開催 **活計**

(オ) ピア(仲間)通信「びあまっふ」編集支援 **活計**

(カ)「作業所紹介マップ」の改訂 **活計**

(キ) 病院入院者等へ訪問し、地域情報を発信支援、他 **活計**



	名 称	内 容	回数・参加人数
障害のある人による地域生活サポーター活動	地域生活サポーター養成講座	障害のある人が地域生活サポーターとして、地域生活の先輩として入院患者の退院を応援する意義を学び合い、地域生活での工夫を出し合った。地域生活サポーターが自分の体験を話すことで入院患者が退院を現実に近いものとしてイメージすることができるように、活動をよりよいものにするにはどのような心構え等が必要なのかを共有、確認し、地域生活サポーターの質を高め合った。	毎月開催 延べ 126 名
	「ぴあまっぷ」会議	障害のある人が地域生活サポーターとして「作業所紹介マップ」の改訂作業のため、編集箇所や取材計画を立てて取材をして、毎月の編集会議を行った。	毎月開催 延べ 89 名
	病棟でのグループワーク、プログラム参画、同行支援	区内の3つの精神科病院（大泉・陽和・慈雲堂病院）等と連携し、病棟訪問・交流・グループワークを行った。また、地域生活をイメージするための社会資源の見学同行も行った。	計 35 回 延べ 524 名
	「作業所紹介マップ」活用	慈雲堂病院でのサポーター活動「青空会」において作業所マップを活用し、入院者に向けて社会資源の情報提供を行った。（平成 29 年 1 月 18 日）	計 1 回 17 名
	地域生活サポーター活動	退院促進事業の地域生活サポーターが障害のある人・関係者に向けた講演や説明会を行い、今後の活動につなげるとともに、当事者活動の紹介や情報交換、当事者・関係機関等との交流の場とすることを目的に参加した。	計 6 回 延べ 118 名

#### エ. 家族会との協働

家族会と協働した勉強会等の開催や定期的な相談会等を行った。

名称	内容・日時	延べ参加人数
障害年金勉強会	社会保険労務士を講師に招き、障害年金について気軽に相談する機会と、障害年金の周知を目的に支援者向けの勉強会を行った。2/26 開催	29 名

### 3. その他

#### (1) 基盤整備

豊玉障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方の検討や地域における福祉分野の課題について検討するため、運営委員会等を開催した。

ア. 「運営委員会」「茶話会」の開催

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し、2 か月に 1 回、意見を出し合い、きららの運営についてスタッフとともに検討した。年間 6 回開催した。
茶話会	利用者同士が話し合う場であるとともに、きららへの要望を聞き取る機会とした。毎月 1 回 土曜日の午後 1 時～午後 2 時 延べ 274 名参加

#### (2) 研修参加

ア. 支援の充実、職員の資質向上を目指し専門性を高める研修に参加した。

(精神保健福祉研修 29 回・社協内部研修 4 回・その他の研修 2 回 参加職員延べ人数 49 名)

#### (3) 講師派遣

関係機関に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供した。(研修センター研修「サービス等利用計画作成について」、みどりのまちづくりセンター「初心者ボランティア園芸療法基礎講座」、新宿区保護司会の SST 研修、NPO ふろしき SST 体験研修)

#### (4) 実習生の受け入れ・人材育成

精神保健福祉士・社会福祉士・保健師・看護師養成機関等の実習生や見学者を受け入れ、専門職の育成及び現場の実践を伝える役割を担った。

また、地域における支援課題に関して勉強会を主催し、地域の福祉人材とともに育ち合う機会を設けた。

名称	内容・時間帯
実習生の受け入れ	a. 資格取得実習（社会福祉士：18名、精神保健福祉士：4名、司法修習生2名） b. 施設体験実習（保健師・看護師：2名、武蔵野大学ゼミ：10名、） c. インターン・シップ（地域福祉パワーアップカレッジねりま：3名）
人材育成	障害年金勉強会（※2（5）エ参照） 誰でも参加できる SST・SST 研修（入門編）・SST リーダー養成研修・SST 勉強会（※2（3）ウ参照）

## （5）危機管理・安全対策

### ア. 安全対策

定期的な所内の安全点検として、消火器の適正配備の検討、防火シャッターの作動確認等を行った。

### イ. 災害対策

（ア）地域とのつながりを意識し、災害時の被害を最小限に抑え、安全を確保できるよう、障害のある人・職員が六商連参加（消防署主催）の消防訓練に参加、また、職員が豊玉すこやかセンターの防災訓練に参加し、関係機関との連携強化を図った。活計

（イ）所内の一時避難態勢を強化するため、災害備品や備蓄品検討・整備し、9月に行った防災プログラムにおいて、メンバーと共に保管場所を確認した。

（ウ）施設独自の避難訓練や防災訓練（2月・豊玉すこやかセンターの訓練、3月・きららの防災プログラム）を行った。

（エ）BCP（事業継続計画）の見直し・更新を行い、参集訓練の後に読み合わせを行った。活計

### ウ. 被災を減らすための日常的なつながりづくり

地域清掃に計6回参加（延べ11名参加）、被災を減らすための日常的なつながりの構築を図った。

## 【石神井障害者地域生活支援センター ういんぐ】

事業種別：「指定特定相談支援事業」「指定一般相談支援事業」「地域活動支援センター I 型」

障害のある人たちや、その家族が地域で孤立せず、安心して自分らしくいきいきとした生活を送ることができるように一緒に考え、支援することを目的として各種事業に取り組んだ。また、基幹相談支援センターとしての機能の充実を図り、きららと連携し、区内における相談支援事業（特に精神障害者に対する）をすすめ、相談支援体制の強化に取り組んだ。

### 1. 相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の第 16 項及び 17 項に規定する相談支援事業を行った。

#### (1) 地域の障害者の福祉に関する相談(基本相談支援)

生活上の相談、病状のこと、仕事や対人関係の不安や悩みなどの相談を受けた。

《電話相談》 月・水・木・金曜日の午前 9 時～午後 8 時 土・日曜日の正午～午後 8 時

《面接相談》 随時：月・水・土・日曜日の正午～午後 7 時

予約：水曜日の午前、木曜日の午前と午後 4 時～午後 7 時、  
金曜日の午前 9 時～午後 7 時

#### ア. 相談件数

(単位：件)

相談の種類	電話相談 (1 日平均)	面接 (1 日平均)	総数
27 年度	11,664 (40.3)	3,446 (11.7)	15,110
28 年度	10,063 (34.9)	2,750 (9.6)	12,813

#### イ. 相談内容

電話相談、面接相談の相談内容の合計では「福祉サービスの利用について」の内容が 35.90% で最も多く、次に「不安解消」に関する相談が 34.30%、「健康・医療」に関する相談が 5.70% という順であった。

##### (ア) 電話相談

「福祉サービスの利用」の内容が最も多く、「不安解消・情緒安定」に関する相談が続いた。

家事援助などの介護支援や就労継続支援など訓練支援の利用へ向け、ケアマネジメントを行ったことが福祉サービスの相談件数増加につながっていると考えられる。

##### (イ) 面接相談(予約・随時面談)

年間の予約面接・訪問相談件数および随時相談は 2,750 件であった。来所相談では就労に関する相談の割合が増加した。就労継続支援事業所や就労移行支援事業所との連携が増加したことが、理由と考えられる。

#### ウ. 関係機関・他職種専門職との連携

(ア) 電話や面接等で連携を計 3,737 件行い、情報共有や事前説明などを行うことで支援の充実に努めた。(前年度 4,471 件)

(イ) 精神保健福祉医療、障害福祉の関係者との連携・協力の強化を図るとともに、地域課題を共有し、情報交換を行う場を設けた。

#### (2) 障害福祉サービス等の利用計画作成(計画相談支援)：指定特定相談支援事業

障害者総合支援法第 5 条の 16 項に規定する計画相談支援事業を行った。ケアマネジメントの視点から、障害福祉サービス利用者がよりよい地域生活が営めるように、サービス等利用計画の作成を行った。

	内容	具体的な取り組み	件数
(ア)	計画相談契約者	計画相談支援のため、契約締結した。	169件
(イ)	サービス等利用計画作成	アセスメントをもとに、サービス等利用計画の作成をした。	226件
(ウ)	サービス等利用計画の見直し	サービス等利用計画が適正に行われているか、本人と家族や関係機関にモニタリングを実施した。	295件
(エ)	サービス提供事業所等との連携	計画作成及びサービス実施にあたり、必要に応じて連絡調整や担当者会議を実施した。	3,299件

#### (3) 地域生活への移行に向けての支援(地域移行支援・地域定着支援)：指定一般相談支援事業

障害者総合支援法第 51 条の 19 第 1 項に規定する地域移行支援・地域定着支援のための相談・調整を行った。

内容	具体的な取り組み	件数 人数
地域移行支援計画	本人のニーズに基づき地域移行支援計画の作成を行った。	4件
地域定着支援計画	本人のニーズに基づき地域定着支援計画の作成を行った。	1件
精神科病院、地域のサービス事業者等との連携	入院者や医療関係者に地域情報を提供し、入院者の地域移行の支援を行った。また、地域の社会資源を発掘、連携、情報共有を図り、地域移行者が安定した地域生活を送れるよう環境整備を図った。	186件
退院者	地域移行支援計画作成と移行支援を受け、退院した人数。	2名
関係機関会議等への参加	地域生活移行支援会議圏域別会議(10区)(地域移行支援の事例発表)	

#### (4) 基幹相談支援センター機能の充実 活計

ア. 民間相談支援事業所からの相談に対応し、総合的、専門的な相談支援 活計

(ア) 民間事業所からサービス等利用計画作成についての相談や質問を受け、他機関連携のあり方や事例の進め方等について総合的な相談支援を行った。また就労支援機関等から相談支援事業所との連携についての相談があり、計画作成の手順や連携について専門的な支援を行った。

(イ) 関係機関が開催する連絡会議等に参加し、連携を図った。(障害者地域自立支援協議会(2回参加)、練馬区精神保健ブロック別担当者連絡会(大泉・石神井地区3回、関町地区1回光が丘地区2回)、練馬区障害者福祉サービス事業者連絡会(分科会含む8回))

イ. 練馬区と連携し研修会等の開催 活計

(ア) 練馬区と連携し、事例検討会やサービス等利用計画作成時の注意点等の研修会を実施。また、区内18ヶ所の相談支援事業所の職員を対象に西地区相談支援従事者会を開催した。(3回実施)

(イ) 特定相談支援事業所をはじめ、精神保健分野、高齢、高次脳機能障害分野、障害分野等関係機関と連携を図った。練馬区中途障害者支援事業連絡会(2回参加)

ウ. 障害者自立支援協議会専門部会(地域移行部会)を開催 活計

障害分野の関係者のみならず、家族会・特別支援学校・公共職業安定所など多彩な委員構成で、地域での障害のある人の安定した暮らしの実現に向けて、地域生活拠点に求められる機能等について協議を行った。障害者地域自立支援協議会「地域移行」専門部会(2回参加)

#### (5) 就労支援に関わる相談支援の充実

関係機関	具体的な取り組み	件数 人数
就労移行支事業所、就労継続支援事業所A・B、レインボーワーク、ハローワーク、民間企業	福祉サービスの利用についてや、障害・病状の理解についての相談に対応し、利用者本人が希望する就労に向け関係機関と連携を図った。就労支援機関と共催プログラム等を開催し、就労への意欲向上やきっかけ作りの支援に取り組んだ。	940件

## 2. 地域活動支援センター事業

障害者総合支援法第77条の1第1項第9号に掲げる事業のうち、社会との交流促進その他の練馬区障害者地域生活支援センター条例施行規則で定める事業を行った。

### 登録者の状況

ういんぐでは利用登録申請制度を取っているが、今年度は新たに46名の登録者があった。

登録者の約半数が石神井保健相談所管轄の利用者で、次いで大泉、関町の管轄が多くなっている。区外からの利用も1割ほどを占める。40代の割合が若干増加した。

ア. 性別

	男性	女性	総計
登録者 総数	333名	279名	612名
27年度新規登録者数	35名	25名	60名
28年度新規登録者数	22名	24名	46名

イ. 年齢別

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総計
3名	60名	147名	213名	126名	62名	1名	612名

ウ. 地区別 (保健相談所担当地区別)

豊玉	大泉	石神井	光が丘	北町	関町	区外	総計
48名	91名	308名	23名	5名	78名	59名	612名

### (1) 障害のある人の社会との交流の促進

地域の商店会、町会等のイベントに参画または協力し、地域住民と障害のある人の交流を図った。また、障害のある人が一緒に活動に参加することで、地域活性化にも貢献し、ういんぐを地域の方に知ってもらふ機会となり、地域での活動の場が広がった。

- ア. 「チルコロ石神井」(10/30・3/26、延べ(計)33名) 活計
- イ. 「白百合まつり」(延べ(計)10/22 8名) 活計
- ウ. 石神町会婦人部文化展参加(4/14~17 出展11名) 活計  
石神町会町会便りに年3回掲載(精神保健福祉講座、ボランティア講座のお知らせ等)  
「たなばた笹飾りづくり」(7/3 40名)  
「えーるフェスティバル」協力(6/4・6/5 駐輪場整備で参加 延べ23名)
- エ. 近隣地域の見守りや公園等の環境美化活動(毎週水曜日きれいにし隊!プログラム内で実施)  
活計

### (2) 関係機関との連携

ア. 相談支援事業における相談者の支援のため、関係機関との連携を図った。

電話や面接等で連携 計3,737件

(ア) 障害者福祉サービス事業者等との連絡調整

関係機関が集まる会議体を主催し、連携を図り、指定障害者福祉サービス事業者等との連絡調整を充実させた。

(イ) 関係機関が主催する会議へ参加

関係機関との連携強化を図り、相談者に対し質の高いサービスが確保されるように、関係機関が開催する連絡会議等にも積極的に参加した。

(ウ) 地域密着型連携支援事業の推進

練馬障害福祉人材育成・研修センターとともに西大泉・南大泉地区・石神井地区における障害福祉サービス事業所の情報交換会を行った。事業所の抱える課題等を事業所間でともに考え連携して支援できる環境をつくることを目的に、地域課題の共有や情報交換を行った。

・「地域密着型連携支援事業における情報交換会」開催 5回実施

※詳細はP.75【練馬障害福祉人材育成・研修センター】1.(3)参照

イ. 地域の関係機関が主催する会議やイベントに参加し、関係機関相互の連携構築に努めた。

(ア) 町会・商店会等の主催するイベントに参加し連携

「石神町会地域福祉部定例会・総会、新年会」「民生児童委員協議会」「石神町会防災訓練」、「石神町会夜回り」・「チルコロ石神井出店者会議」「町会文化展」

(イ) 精神保健福祉関係者が主催する会議や連絡会に参加

「地域精神保健福祉関係者連絡会」(石神井・大泉地区3回・関町地区1回・光が丘地区2回)

### (3) 地域住民との連携及び育ちあい

ア. 地域住民やボランティアとの交流を通じて、地域での日常的なつながりを深め支え合いの関係作りに取り組んだ。 活計

(ア) 精神保健福祉ボランティア講座の開催(10名参加)

地域の方を対象に、講義・ボランティア体験(きれいにし隊!・出張ういんぐ・歩き隊!)交流会を実施した。精神保健福祉の啓発とともに、ボランティア体験を通して利用者と関わる機会を設定したことにより、ボランティアの役割等について理解を深めた。また、ボランティア交流会の開催により、その後継続したボランティア活動につなぐことができた。

(イ) 精神保健福祉講座の開催

大泉病院の富田真幸副院長を講師にお招きし、「安心して自分らしい生活を送るには」をテーマに実施した。(8/25 49名参加)

(ウ) 「誰でも参加できるSST」開催

SST普及協会認定講師を迎え「誰でも参加できるSST」を当事者、家族、支援者、地域住民向けに開催した。(きららと共催)4/24、6/18、10/8、1/14、実施。延べ参加人数121名

(エ) 地域のイベント・お祭りへの参加 ※上記2.(1)参照

イ. 障害者のある人への生活支援、就労支援、地域交流、組織化などの事業に、積極的にボランティアを受け入れた。 活計

活動内容	日数	人数(延べ)
茶道講師、外出企画の同行、プログラム(企画)の講師、オープンスペース、出張ういんぐでの話し相手・「きれいにし隊!」・「歩き隊!」等プログラムに参加。	88日	180名

#### (4) 障害に対する理解を深めるための普及啓発

	発行物・イベント等	内容	回数等
ア	石神井障害者地域生活支援センターういんぐだより「すずらん」	月間スケジュール、福祉関連情報、プログラム・イベントのお知らせ・報告	毎月2,500部発行(関係機関・希望者配布)
イ	ういんぐパンフレット	ういんぐの利用について/ういんぐの概要	随時発行
ウ	ういんぐ主催イベントのチラシ	講座、パソコン教室、茶道体験、出張ういんぐ、就労プログラム等の周知	随時発行
エ	練馬区社協ホームページ	ういんぐパンフレット/ういんぐだより「すずらん」	毎月掲載
オ	石神町会だより	1,800世帯配布、地域に向けた情報発信	年4回発行
カ 活計	精神保健福祉講座の開催	※上記(3)ア(イ)参照	8/25 49名参加
	出張ういんぐ開催(大泉、関町)	区内2か所のボランティア・地域福祉推進コーナー(大泉、関町)でテーマを企画し開催した。	毎月各1回(2所)
	精神保健福祉ボランティア講座	※上記(3)ア(ア)参照	
キ 活計	地域住民との協働	石神井町会との協働(婦人部定例会、新年会、防災訓練等)に参加。婦人部文化展には出展するとともに運営に協力) チルコロ石神井(チルコロ石神井イベントと出店者定例会議に参加)	

#### (5) 障害のある人の自立した日常生活を営むために必要な支援

ア. 日常生活における必要な技術の習得、憩いの場や様々な情報提供、当事者、関係機関の情報交換の場の提供。生活の質を高め豊かな生活を送れるプログラムを開催した。

(ア) オープンスペース(安心して気楽に過ごせる場)の提供

仲間と話しをしたり、安心して過ごしたりする居場所。オープンスペースを利用することで相談につながるきっかけとなった。月・水・土・日曜日正午～午後7時 利用延べ人数5,142名

(イ) 各種プログラムの開催 活計

名称	内容・時間帯	人数(延べ)
パソコンにふれてみよう	パソコンの操作を学ぶことで技術習得の機会を提供した。専門のインストラクターが一人ひとりに合ったパソコンの技術を指導した。第1・2・3水曜日午後1時～午後5時/4クラス(初心者・初級A・B・Cクラス)を設定。	551名
出張ういんぐ(大泉、関町)	大泉、関町2か所のボランティア・地域福祉推進コーナー(VC)を拠点とし、ういんぐ以外の場所で地域交流の場を展開した。第2金曜日・関町VC、第4金曜日・大泉VC(午後1時～午後3時)	230名 (大泉108名 関町122名)
きれいにし隊!	ういんぐ室内や保健相談所周辺地域をメンバーとボランティア・スタッフが共に環境整備に取り組むプログラム。清掃の他、練馬みどりのまちづくりセンターとの協働による園芸活動も行った。毎週水曜日(午後2時～午後3時)	797名
茶道体験してみませんか?	ボランティアである表千家の先生よりお点前の指導を受け、和の心を体験した。第3月曜日(午後2時～午後3時)	153名
歩き隊!	ウォーキングを中心に運動する機会を提供するとともに、地域の社会資源を積極的に利用し、メンバーやボランティア、スタッフが交流できる機会を持った。月1回実施。	89名
IMR(リハビリと病気の自己管理プログラム)	Illness Management and Recovery(リハビリと病気の自己管理プログラム)の頭文字で、精神障害者のリハビリのために効果があるとされる複数の支援方法を組み合わせ、総合的に提供できるように開発されたプログラム。6ヶ月単位のグループワークを2クール実施した。毎週土曜日実施(前期と後期にそれぞれ説明会を行った。)	239名
夕食会(持ち寄り・調理)	メンバー、ボランティア、民生・児童委員、スタッフなどで協力しながら調理をし、会話を楽しみながら食事をする。奇数月は調理、偶数月は持ち寄りを実施。	253名

就労支援プログラム	レインボーワーク・ハローワーク池袋・就労支援機関と協力し、障害者雇用で仕事をしている人の話を聴き、企業の現場訪問をする等、仕事に対するイメージを作れるようにサポートした。また、就労についての懇談会を行い、意識を高め合った。隔月に1回開催。	69名
国際交流	NPO法人練馬区障害者福祉推進機構と共同で、ういんぐにて国際交流に関するイベントと題し「オランダ」の文化に触れた。2/25実施	16名
夢見るカメレオン	メンバーとスタッフのみで「夢見るカメレオン」と名付けてサイコドラマに向けたグループ演習を実施した。心理劇を通じて、参加者同士が抱えている問題等に共感する体験を重ねた。	51名
映画会	上映作品のタイトル等をメンバーと検討しながら、当会の準備を行い、実施した。月1回実施。	108名
ういんぐ避難訓練	災害時に備え震度5強以上の地震を想定し、メンバー・スタッフとともに避難拠点への実働避難訓練等を実施した。9/4、3/15実施。	20名
なでしこ会	女性同士で安心して話をし、楽しめる機会を提供した。また、プログラムを通してういんぐを利用しやすくした。隔月に1回開催。	39名
創作の日	利用者各自の趣味などを活かした交流の場として活動した。文化展共同作品である千羽鶴を作成。月1回実施。	90名
卓球	楽しく体を動かし、利用者の親睦や健康増進を目的に実施した。月1回実施。	133名
ポスター貼り隊！	町会への協力として、ういんぐ周辺の石神町会10支部から14支部までのポスター掲示をメンバーと共に行う。	130名
練馬区健康いきいき体操	屋内で行う体操プログラム。メンバーからの要望を受け、普及員をまねき、楽しく簡単にできる体操を一緒に行った。8/21日実施	10名
チルコロ石神井	石神井公園商店街のイベントに、メンバーとともに参加した。ういんぐは「ダーツゲーム」を実施。10/30、3/26開催	33名
白百合まつり	施設公開や啓発などを目的とした白百合福祉作業所のイベントに参加し、メンバーとともに模擬店運営などに参加した。10/22実施。	8名
季節を感じるプログラム	「七夕笹飾りづくり」地域の子どもとその家族がういんぐにてメンバーと七夕飾りづくりを行った。練馬まち環境倶楽共催 7/3実施 単発企画	40名
	「きれいにし隊！花組」でグリーンカーテンとして育てたゴーヤを収穫して調理し、メンバー・スタッフで夏の労をねぎらう「ゴーヤ収穫祭」を行った。8/3実施 単発企画	22名
	「かき氷」懇談会などでメンバーから出た意見をもとに夏限定の企画を考えて実施した。8/15実施 単発企画。	21名
	「クリスマス会」年末の特別企画。当日のスケジュールや出し物を、メンバーと協力し、実施した。12/24実施 単発企画	85名

#### イ. 就労準備支援事業

- (ア) レインボーワーク・ハローワーク・就労支援機関と協力し、就労プログラムを開催した。働くことに意欲や関心のある方に、就労のためのスキルや知識の習得、情報提供を行った。また、ピア同士の懇談会を行い意識を高め合った。就労プログラム 隔月に1回開催、年6回
- (イ) 就労移行支援事業・就労継続支援事業所・レインボーワーク・ハローワーク・民間企業と連携し、障害のある人の実態を雇用主等に伝え、普及啓発活動に努めた。
- (ウ) 練馬区障害者就労支援ネットワーク会議に参加し、就労に特化した関係機関との連携や協働のネットワーク構築を行った。練馬区障害者就労支援ネットワーク会議（分科会含む）5回
- (エ) 就労継続支援の機能充実のため研修に参加した。「レインボーワーク主催就労支援セミナー研修」

#### ウ. 当事者活動の支援・組織化 活計

障害のある人が主体となり、プログラムや活動を企画し運営できるよう支援する。また、障害の有無にかかわらず、安心して地域で生活できるように、医療機関、福祉関係機関と連携し、円滑に地域移行ができるように、地域の情報や当事者の生活の様子等を発信できるよう支援する。

	名称	内容	人数(延べ)
(ア)	チルコロ石神井 実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、年2回のチルコロ石神井まつりの準備を行い、実施した。10/30開催のチルコロ実行委員会は、計5回実施。3/26開催のチルコロ実行委員会は、計8回実施。	62名
	白百合まつり 実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、白百合まつりの準備を行い、実施した。計1回実施。	8名
	クリスマス会 実行委員会	メンバー中心の実行委員を結成し、当会の準備を行い、計6回実施した。また、ハンドベル練習もメンバーとともに、計6回実施。	46名
(イ)	介護者のつどい	介護を行っている同じような状況の利用者同士で悩みを共有し、講師を招いて勉強する機会を設けた。9/17、12/12実施。	19名
(ウ)	サイコドラマ	講師を招き心理劇を通じて、参加者同士が抱えている問題等に共感する体験を重ねた。(年6回開催)	74名
	障害年金勉強会	社会保険労務士を講師に招き、地域の支援者が集まり、障害年金についてその仕組みや受給要件などを学ぶ機会を設けた。3/3開催。	21名
(エ)	高次脳機能障害者と家族のつどい 「つぼみの会」	高次脳機能障害者と家族が集まる場。自分や家族の状況を話し合うなど、情報交換をする場になっている。(年10回、119名参加) 国立障害者リハビリテーションセンター、自立支援局総合相談支援部の下山敬寛氏、水鳥政喜氏を講師に招き地域住民や支援者を対象に「高次脳機能障害者の就労支援について」の講座を行った。(2/27、17名参加)	

(オ) ピアサポーター活動支援 **活計**

- ・地域生活サポーター養成講座の開催
- ・ピア(仲間)通信「びあまっぷ」、「作業所紹介マップ」の編集・発行支援
- ・ピアサポーター活動支援による、病院入院者・職員等への訪問、勉強会・講演会の実施

※さららと共催の実施 P47 2.(5)ウ 表「障害のある人による地域生活サポーター活動」参照

### 3. その他

#### (1) 基盤整備

石神井障害者地域生活支援センターの運営や利用のあり方について検討するため、「運営委員会」や「利用者懇談会」を開催した。

名称	内容・時間帯
運営委員会	精神保健福祉に造詣が深く、経験豊かな地域住民、専門職、関係機関・団体の方に参画を依頼し意見を出し合い、ういんぐの運営についてスタッフとともに検討した。年6回開催
利用者懇談会	利用者同士が話し合う場であるとともに、ういんぐへの要望を聞き取る機会とした。 毎月1回 土曜日の午後1時30分～午後2時30分開催 延べ163名参加

#### (2) 研修参加

支援の充実、職員の資質向上を目指し専門性を高める研修に参加した。(精神保健福祉研修37回・社協内部研修4回・その他の研修1回 参加職員延べ人数42名)

#### (3) 講師派遣

関係機関に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供していく。「第1回特別区西部10区圏域別会議」「慈雲堂病院勉強会」「研修センター研修」「みどりのまちづくりセンター初心者ボランティア園芸療法基礎講座」「みどりのまちづくりセンターボランティアレベルアップ懇談会」へ派遣。

※その他、P27 11.(2) 職員派遣 参照

#### (4) 実習生の受け入れ・人材育成

社会福祉士・精神保健福祉士・保健師・看護師養成機関等の実習生や見学者を受け入れ、職員の支援と施設の機能及び当事者の活動を伝える役割を担った。

名称	内容・時間帯
実習生の受け入れ	a. 資格取得実習(社会福祉士:18名、精神保健福祉士:4名)、b. 施設体験実習(保健師・看護師:8名)、c. インターン・シップ(地域福祉パワーアップカレッジねりま:2名)d. 見学実習(社会福祉士:9名)
人材育成	障害年金勉強会(2.(5)ウ.(ウ)参照)・誰でも参加できるSST(2.(3)ア.(ウ)参照)



## (5) 危機管理・安全対策

### ア. 災害対策 活計

(ア) 地域の中の一施設として、災害時の被害を最小限に抑え、安全を確保できるように町会の防災訓練に参加した。

(イ) 施設独自の避難訓練や防災勉強会、BCP（事業継続計画）の見直し・更新を行った。

### イ. 被災を減らすための日常的なつながりづくり 活計

誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指し、メンバーの当事者活動の一つとして「きれいにし隊！」に取り組んだ。町会の防犯ベストを身につけ下校時の小学生の見守りや、近隣の清掃活動を通じて地域住民と日常的なつながり作りに努めた。

### ウ. 安全対策

所内の一時避難体制を強化するため、災害備品や備蓄品を検討・整備し、定期的に所内の安全点検を行った。また、スタッフとメンバーで東京都から配布された東京防災を参考に、防災意識を高める勉強会を行った。

## 【地域福祉課】

地域活動を推進する「ボランティア・地域福祉推進センター」および、サポートが必要な高齢者や障害者の地域生活を応援する「権利擁護センター ほっとサポートねりま」、障害福祉サービスに係る人材を育成する「練馬障害福祉人材育成・研修センター」、生活困難者の課題を地域で受け止め、住民とともに新たなシステムを構築していく「生活サポートセンター」の事業運営を統括し、課内で連携を図り、より質の高いサービス提供を目指し各事業に取り組んだ。

### 【ボランティア・地域福祉推進センター】

障害があっても、高齢になっても、誰もが社会や地域と接点を持ち続け、住み慣れた地域で生活し続けられるような「住みよいまちづくり」を目指し、地域福祉を推進していく基盤作りに努めた。ボランティアや市民活動の相談、情報提供、研修会の開催等を行い、地域や社会における課題に対し、地域住民がその解決に取り組めるようセンターおよび3か所の拠点を設け住民が相談しやすい体制で支援を行った。

## 1. ボランティア・市民活動推進

### (1) 相談およびコーディネート事業

#### ア. ボランティア・市民活動相談

「ボランティアしたい」「ボランティアに力を貸してほしい」「NPOについて知りたい」など、ボランティア・NPOに関する相談に対応した。また、様々な個別の相談に対して、課題の整理・解決等に向けて関係機関や団体、関係者との連携を図った。センター、各コーナーの相談内容としては、センターはNPO関連相談や生活支援コーディネーターに関する情報提供、光が丘コーナーは身近でできるボランティア相談や多岐に渡る生活相談、大泉コーナーは学校からの授業協力や学生からのボランティア活動に関する相談、関町コーナーは障害者や外国人、子育て世帯など地域住民からの困りごと等の生活相談を受け、関係機関や地域活動団体等と連携しながら長期的に見守っていくケースが多いなど、例年と特徴は変わらない。

昨年度に比べ、区民協働交流センターでの窓口業務や、パワーアップカレッジ等人材育成の取り組みへの関わりから、相談件数が増え、2900件ほど総件数が増えている。

(単位：件)

相談内容	ボランティア・地域福祉推進センター	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	総数
ボランティアしたい	813	898	521	384	2,616
ボランティアほしい	463	388	203	107	1,161
NPO関係	549	203	120	42	914
情報提供	1,169	547	772	197	2,685
協力依頼	614	285	395	355	1,649
その他	762	636	348	855	2,601
総数	4,370	2,957	2,359	1,940	11,626

#### ※「その他」の内容は、主に生活相談や要望など

ボランティア・地域福祉推進センター、各コーナー（光が丘・大泉・関町）に寄せられた住民の活動相談に関して、センター・コーナー会議等で定期的に相談内容を把握し、確認及び情報の共有化を図るために、ケース検討会議を行った。また、ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会に状況を報告した。

#### イ. 相談傾向の分析

ボランティア・地域福祉推進センターと各コーナーの相談記録を蓄積・現状分析し、コーディネート事業およびその他の事業の参考とした。

#### ウ. アドバイザーの導入

各コーナーにアドバイザーを配置し、各コーナーが抱えているケースや地域課題の解決への方策についてアドバイスを受けた。アドバイザーは相談支援の経験もあり、地域活動に携わっている方々なので、地域住民として、またボランティア活動者としての視点から助言をいただくことで、職員が気づくことができなかった課題や仕事に対する姿勢を学び、支援の幅が広がった。

### (2) ネットワーク構築

地域の団体、施設、関係機関との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

定期的に各団体の会議に出席することで最新の情報を得るとともに、練馬区社協で把握している情報を団体等に提供し、連携を図った。

ア. 町会・自治会等の地域住民や地域の団体、施設との日常的な連携・協力を図り、各種会議へ参加した。

会議名	開催	内容
ねりま子育てネットワーク	随時	区内の子育て支援を行うグループや子育て中の親によるネットワーク
しあわせ福祉ネット・関	月1回	安心して暮らせるまちづくりを目的に活動する団体・個人・関係機関によるゆるやかなネットワーク
ほのぼの館・関運営連絡会	月1回	相談情報ひろば運営団体との情報交換会
関町児童館運営委員会	年4回	地域に開かれた児童館づくりをすすめるための情報、意見交換会
関中学校評議会	年3回	地域や社会に開かれた学校づくりを推進するための情報、意見交換会
練馬区高次脳機能障害者支援連絡会	年4回	家族、関係機関等による情報交換会
地域密着型連携支援事業	隔月	南大泉・西大泉、石神井地域の障害福祉サービス事業所等の情報交換
光が丘区民センター施設連絡会	年5回	光が丘区民センター施設運営団体の情報交換
「第6回東京石泉ライオンズクラブ福祉音楽祭 in ねりま」企画会議	随時	東京石泉ライオンズクラブ主催で福祉音楽祭を開催するにあたっての企画・運営の協力（H29.4.18開催）
M ジョイ@T ジョイ～コミュニティ・マーケット～	年4回	主催：大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー 協力：T ジョイ S E I B U 大泉
M ジョイ@T ジョイ～コミュニティ・マーケット～参加団体懇談会	随時	福祉施設等の自主製品等の販売 販売会の運営についての協議および情報交換会
2016 男女共同参画センター えーるフェスティバル	年1回	出張相談窓口を設置
第3 育秀苑デイサービスセンターレイ ンポー	年2回	地域と連携を図るための情報、意見交換会

イ. 地域の精神保健連絡会、地域ケア会議等、各種会議へ参加した。

会議名	開催	内容
精神保健福祉関係者連絡会	随時	豊玉、光が丘、石神井、関保健相談所を中心とした情報交換会
地域ケア圏域会議	随時	練馬、光が丘、大泉、石神井、関町地域を中心とした高齢者のケアについての情報交換会
地域ケア個別会議	随時	ケース検討を通して、各支所単位で行う、地域のネットワークの構築を図ることを目的とした会議

ウ. 地域ごとやテーマ別等で必要とされるネットワークの調整を図った。

日時	内容	場所	延べ参加人数
H28.4.26 ～年11回	子育てサポートネットSTS	関子ども家庭支援センター／関 保健相談所	89名
H28.10.2	子育てサポートネットSTS 地域おやこ まつり	関保健相談所	261名
H28.9.6 ～年7回	関町・立野地域「施設連携防災ネット ワークの会」コア会議	関町ボランティア・地域福祉推進 コーナー	55名
H29.3.3	第1回 関町・立野地域 施設連携防災ネッ トワークの会	関区民センター	37名
H29.1.27	相談情報ひろば情報交換会	ハッピーひろば／石神井障害者 地域生活支援センターういんぐ	28団体

エ. 各コーナーがより地域で気軽に立ち寄れる場所になるよう石神井障害者地域生活支援センターういんぐ、豊玉障害者地域生活支援センターきらら、ボランティア等と連携し、出張きらら・出張ういんぐを開催した。

・出張きらら：P46、出張ういんぐ：P52 参照

### (3) 市民団体・学校・企業・関係機関等へのサポート

ア. ボランティア・市民活動団体の活動や学校の福祉教育への取り組み、企業の社会貢献活動や関係機関の企画等への協力や講師派遣等を行った。

日時	学校・施設・団体名	講座・授業名・内容
H28. 4. 28 10. 27	東京都立大泉桜高校	人間と社会「ボランティア入門」
H28. 4. 28 ～月 1 回	「地域をつくる」上映会 in ねりま 実行委員会	「地域、まちを自分たちでよくしていこう！ 地域課題をそれぞれの立場で考えて地域を変えていこう！」を目的に、練馬区内の活動団体や個人が集まり、イベントの企画運営を行う会。実行委員として参加。
H28. 6. 11	練馬区立開進第一小学校 P T A 学級委員会	親子学習会「車イス体験を通じてボランティアについて学ぼう」
H28. 6. 15	東京都立大泉高校	人間と社会「ボランティア入門」
H28. 9. 28	練馬区立早宮小学校	総合学習「障害ってどういうことでしょう」
H28. 10. 4	練馬区立立野小学校	総合学習「障害及び障害者について学ぶ」
H28. 10. 5 10. 6	練馬区立大泉小学校	総合学習「目が見えないってどんなこと」
H28. 10. 13	練馬区立大泉第六小学校	総合学習「誰もが住みよい街に」
H28. 10. 18 11. 15	練馬区立石神井西小学校	総合学習「視覚障害について」 総合学習「身体障害について」
H28. 10. 19 ～全 10 回 H29. 2. 19	練馬つながるフェスタ 2016 実行委員会 練馬つながるフェスタ 2016	区内で活動する地域活動団体の交流促進、また、区民へ団体の周知をし、地域活動への理解と関心を高めることを目的に開催するイベントに、実行委員として参加。
H28. 10. 21	よろずほっとホット	スマートエイジングのためのボランティア講座
H28. 11. 7	練馬区立開進第四中学校	総合学習「高齢者の実態やボランティアの心構え」
H28. 11. 8 11. 11	練馬区立関町北小学校	総合学習「共に生きる～いろいろな立場の人を知ろう～」
H28. 11. 9	練馬区立上石神井北小学校	総合学習「行動しよう自分たちにできること」
H28. 11. 18	学芸大学附属大泉小学校	総合学習「レッツトライ」
H28. 11. 26 12. 7 12. 10	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	精神保健福祉ボランティア講座
H29. 3. 2	練馬区立大泉第一小学校	総合学習「ともに生きよう」

イ. 福祉サービス事業者向けに、福祉施設・病院のボランティアの受け入れについての研修等を実施し、研修実施後も継続的に関わりながら、地域の中で施設同士が学びあいつながる機会をつくった。

#### a) 研修、講座

日時	テーマ	講師	会場	参加人数
H28. 6. 20	ボランティア担当者基礎研修	金原加奈子氏 (光が丘テイクセンター) 平井紀代子氏 (あいあいあい石神井台)	石神井公園区 民交流センター	28 名
H28. 10. 7	ボランティア受入研修「ボランティアの受け入れについて」	大泉ボランティア・地域福祉推進 コーナー職員	大泉病院	54 名

#### b) 情報交換会

日時	テーマ	場所	参加人数
H28. 5. 16 ～年 3 回	光が丘地域ボランティア担当者情報交換会	光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー 会議室／介護老人保健施設平和台アバンセ	延べ 16 事業所
H28. 11. 15	大泉地域ボランティア担当者情報交換会	大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	7 事業所

H28. 12. 13 ～年 2 回	練馬地域ボランティア担当者情報交換会	ボランティア・地域福祉推進センター会議室	延べ 13 事業所
-----------------------	--------------------	----------------------	--------------

ウ. ボランティア・市民活動団体に対する研修や各種の助成情報の提供、紹介を行った。

ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」やブログ「ぼけっとのうらがわ」などを通じて、各種の助成金情報を提供した。また、ボランティアグループや市民活動団体から相談があった場合には、それぞれの団体に合った助成金の情報を提供し、必要がある場合には推薦コメントの記入や申請書の記入に関してのアドバイスを行った。

(ア) 推薦 1 件

エ. ボランティア活動中の事故によるケガなどに対応する「傷害保険」と活動の対象者などが法律上の賠償責任を負った場合の「賠償責任保険」の補償がセットされたボランティア関連保険の受付・手続きを行った。また、施設や団体などが行事を主催する際に加入する行事保険の手続きを行った。3 月には保険会社の担当者を招いてボランティア保険・行事保険に関する説明会を開催した。なお、これらの保険は保険者である東京都社会福祉協議会と加入事務契約を結んでいる。

(ア) ボランティア保険加入者数 5,832 名 (天災プラン 441 名)

(イ) 行事保険加入件数 1,983 件

#### (4) 情報発信

ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」を発行し、ボランティア・市民活動の周知・啓発に努めた。

ア. 年 12 回 (毎月) 発行

イ. 発行部数 約 4,500 部 (A4 判 8 ページ)

#### (5) 会議室・機材等の貸出

各拠点の会議室・機材や他制度の対象にならないが利用が必要な住民に車いすの貸出しを行った。

ア. 会議室貸出し

拠 点 名	利用団体総数 (団体)	利用者総数 (名)
ボランティア・地域福祉推進センター	75	737
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	761	5,877
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	184	1,282
関町ボランティア・地域福祉推進コーナー	311	3,903
計	1,331	11,799

イ. コピー機・印刷機貸出し

拠 点 名	利用団体総数 (団体)
ボランティア・地域福祉推進センター	20
大泉ボランティア・地域福祉推進コーナー	94
計	114

ウ. 車いす貸出し

拠 点 名	貸出し延べ台数 (台)
ボランティア・地域福祉推進センター	20
光が丘ボランティア・地域福祉推進コーナー	49
計	69

#### (6) 災害時に備えた取り組み

ア. 「練馬区災害ボランティアセンター」の運営に備え、行政・関係機関・地域団体等と連携し訓練を実施した。 **活計**

事業名	開催	内容
練馬文化センター視察	1 回	練馬区災害ボランティアセンター立ち上げに向けて、練馬区福祉部管理課と練馬区社会福祉協議会で練馬文化センターの視察 (避難経路や備蓄品、備品の整備) を行った。
練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営プレ訓練	1 回	3 月に行う練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練に向けて、災害ボランティアセンターの開設および役割・運営手順の確認を目的に、練馬区災害ボランティアセンター開設予定場所である練馬文化センターにて開催。練馬区福祉部管理課、練馬区危機管理室区民防災課、練馬中央自治会、災害時拡大掲示情報活用研究会、災害ボランティアコーディネーター育成講座受講生と合同で 1 月 12 日に訓練を行った。参加人数 58 名。

練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練	1回	1月のプレ訓練を活かし、3月9日に練馬文化センターにて開催。プレ訓練参加団体に加え、練馬区聴覚障害者協会、手話サークル練馬こぼし会、練馬区視覚障害者福祉協会、練馬区立北原小学校避難拠点運営連絡会、日本ボーイスカウト東京連盟練馬地区練馬第十七団、東京都生活協同組合連合会、(株)地域計画連合、豊島区民社会福祉協議会、杉並区社会福祉協議会が参加。参加人数100名。
--------------------------	----	--

イ. 災害発生時に備え、行政・関係機関・地域団体等とのネットワーク構築を図った。活計

行政・関係機関・地域団体名	開催	内容
練馬区聴覚障害者協会	2回	練馬区聴覚障害者協会、光が丘第一中学校避難拠点運営連絡会合同防災訓練の打ち合わせに参加。
練馬区福祉部管理課	1回	大規模災害対応マニュアルの改訂にあたり、内容の確認を行った。
練馬区危機管理室区民防災課	2回	災害時のボランティアについて意見交換を行った。
練馬区立北原小学校避難拠点運営連絡会	1回	日頃の防災の取り組みについて意見交換を行った。
日本ボーイスカウト東京連盟練馬地区練馬第十七団	1回	日頃の防災の取り組みについて意見交換を行った。

ウ. 災害ボランティアコーディネーター育成講座を開催した。活計

日時	内容	参加人数
H28.12.7	第1回 まち歩きと事例紹介 「歩こう 知ろう ねりまのまち～防災の視点から～」	22名
H28.12.14	第2回 ワークショップと事例紹介 「話そう 考えよう 自分たちにできること～地域に目を向けてみよう～」	22名
H29.1.11	第3回 災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練事前説明	21名
H29.3.9	第4回 災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練	17名

エ. 災害ボランティアセンターの役割を避難拠点運営連絡会等に周知し、連携を図る。活計

日時	学校・施設・団体名	講座・内容
H28.6.18	石神井台小学校避難拠点運営連絡会	ボランティア計画部勉強会において、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。
H28.7.15	東京都生活協同組合連合会	福祉のまちづくり・練馬定例会において、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。
H28.9.11	練馬区危機管理室区民防災課	防災フェスタに参加し、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。
H28.11.15	都立練馬高校	防災体験学習「災害ボランティアセンター体験」
H29.1.17	練馬区立肢体不自由児者父母の会	肢体不自由児者父母の会のブロック研究会に参加し、災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を図を行った。
H29.2.23	練馬区危機管理室区民防災課	練馬区災害ボランティア制度説明会において、ボランティア保険の説明と災害ボランティアセンターの役割と機能の周知を行った。

オ. 地域住民に向け、災害ボランティアセンターの役割を周知するための講座を開催した。活計

日時	講座名	内容	参加人数
H28.11.23	災害シンポジウム2016 「災害にどう備える!?～日頃からのつながりが地域を守る～」	1部基調講演「大災害にどう備える!?～防災常識の再確認と、大災害時に身近な地域で助け合えるために～」 講師：高橋洋氏（災害福祉広域支援ネットワークサンダーバード理事・副代表）／第2部パネルディスカッション事例提供者：堀江光夫氏（非営利団体 美緑彩生代表幹事、山形県災害ボランティアセンター運営アドバイザー）、二上文子氏（練馬区立北原小学校避難拠点運営連絡会 会長）	88名

### (7) 区民協働交流センター相談業務【練馬区からの委託事業】

区民協働交流センターにおいて、ボランティア・市民活動や団体の運営等に関する相談に対応した。相談窓口を増やすことで、新たな活動者や団体の発掘に努めた。

ア) 今年度の相談件数・・・499件

イ) 主な相談内容・・・地域活動について、地域活動団体の運営相談等

## 2. 地域福祉活動推進

地域福祉コーディネーターとして、地域に出向き住民や団体と顔の見える関係をつくりながら、住民が主体的に地域課題を発見・共有・解決できるよう支援し、「地域福祉協働推進員（ネリーズ）」とともに地域づくりに取り組んだ。

社協各部署が行う事業等と連携し各部署が持つ地域ネットワーク等を有効に活用して、地域福祉推進を図った。また、練馬区からの受託事業の取り組みを活かしながら、さらなる広がりを展開した。

### (1) 小地域福祉活動推進

第3次地域福祉活動計画でモデル地区であった豊玉・光が丘において、住民と顔の見える関係を築きながら住民が主体的に地域課題を発見・共有・解決できるよう小地域福祉活動に取り組んできた。これまでの取り組みを継続しつつ、経験を活かしながら周辺の地域や他の拠点の地域にも展開した。

#### ア. 地域課題への取り組み

懇談会や連絡会等、地域の関係者や「地域福祉協働推進員（ネリーズ）」が集まる場で住民が発見した地域の課題を共有し、地域住民が話し合い、お互いが育ちあえるよう地域課題の解決に向け取り組んだ。また、住民リーダーや当事者を中心とした地域課題の解決に向けたしくみが地域で機能し、予防的役割を果たせるよう支援した。**活計**

#### (ア) 豊玉地区

日時	名称	内容
H28. 4. 7 ～月 1 回	萩の里茶話会 【運営相談・企画協力】	災害時等の備えの為に日頃からの顔が見える関係が必要であると考えた住民の声から、協力し、高齢者住宅住民同士の横のつながりと、併設するデイサービスとの連携を強化することを目指した住民の集える場
H28. 4. 26 ～月 1 回	とよひな 【運営相談・企画協力】	子育て中の若い親や、一人暮らしの高齢者などが気軽に集える場所が必要であると考えた地域住民の声から、月に1度、都営住宅の地域集会所で開催している集える場
H28. 5. 12 ～年 5 回	子育て部会【主催】	懇談会で課題としてあげられた親子問題等子育てに関する情報共有や意見交換、勉強会。 参加者：民生・児童委員、子育て団体、地域活動団体

#### (イ) 光が丘地区

日時	名称	内容
H28. 12. 12 ～年 3 回	光が丘地区連合協議会 【運営相談・企画協力】	見守りのしくみ作りに向けた協議
H28. 12. 11	北町地域福祉活動団体交流会 【共催】	北町エリアで活動している団体や福祉施設の活動内容をお互いに知り連携を深めるために交流会を開催した。

#### (ウ) 大泉地区

日時	名称	内容
H28. 4. 16 ～月 1 回	地域懇談会～ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～ 【運営相談・企画協力】	西大泉エリアの地域で気になっていること、必要なことについて意見交換を行った。
H28. 6. 3 H28. 6. 15 ～月 1 回	南大泉「地域懇談会」 ↓（名称変更） 「気づき“あい”のあるまち」をめざす会 【運営相談・企画協力】	南大泉連合町会主催の会議。南大泉地域の課題について意見交換を行った。

#### (エ) 関町地区

日時	名称	内容
H28. 4. 11 5. 26	地域懇談会ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～みまもりの学習とおしゃべりの会～ 【運営相談・企画協力】	谷原エリアの町会や民生委員、地域住民に周知し、住民同士のみまもりについて意見交換を行った。

#### イ. 関係機関との連携

地域団体や行政等の関係機関と定期的に情報共有を行い、地域課題を共有、解決に向けて連携して取り組んだ。**活計**

## (ア) 豊玉地区

日時	名称	内容
H28. 4. 13 ～月 1 回	オレンジの会【運営協力】	認知症地域支援の会。スタッフと地域情報について等情報共有をしている。近隣で行われる認知症サポーター講座の講師として声をかけるなど、地域での活動につなげた。
H28. 4. 19 ～月 1 回 H28. 7. 16	練馬子ども笑店街実行委員会 【運営相談・企画協力】 練馬子ども笑店街開催 【運営協力】	練馬駅南口の商店街で開催しているイベントを通し、地域の子育て支援・地域の活性化・親睦を図る会。実行委員として参加し、助成金等の情報提供やボランティアの相談等各種相談を受けながら協力した。
H28. 4. 19 ～月 1 回	ランチとお話を楽しむ会 【運営協力】	近隣に住む高齢者が月に 1 度集まり、昼食とおしゃべりやアクティビティを楽しむ会。参加者からの相談を受けたり、スタッフと情報共有をした。
H28. 4. 21 ～隔月	よろず会議【共催】	練馬高齢者センター豊玉支所、豊玉高齢者センターとの定例情報交換会
H28. 5. 19 ～隔月	チョット一緒に話そう会 【主催】	豊玉高齢者センターでの出張相談窓口。来場者の相談対応や情報提供を行った。
H28. 5. 19	練馬駅南地区まちづくり憲章を推進する会 【運営相談・企画協力】	練馬駅南口地区の商店会や町会等が参加し、まちの将来像について協議する定例会議。

## (イ) 光が丘地区

日時	名称	内容
H27. 4. 8 ～随時	光が丘きずなサロン、ひまわり喫茶、いちよう通りサロン皆賀一番町、どんぐりの家サロン【運営相談・企画協力】	定期的にサロンを訪問し、運営に係る支援やサロンのスタッフや利用者からの相談に対して、情報提供を行った。
H28. 4. 15 ～月 1 回	ひかりのかけはし【主催】	高齢者、子ども、障害者等の関係機関との情報共有、意見交換定例会
H28. 4. 27 ～月 1 回	どんぐりの家運営委員会 【運営協力】	運営方法について協議する定例会
H28. 5. 8 11. 2	どんぐりの家祭り 【運営協力】	地域住民への周知を目的としたイベント
H28. 4. 11 ～年 8 回	北町地域福祉活動団体交流会に向けた取り組み【共催】	北町地域福祉活動団体交流会に向けて、障害者施設、地域活動団体にヒアリングを行った。ヒアリングを行った団体、地域の福祉を考える会とともに団体交流会に向けて実行委員会を行った。

## (ア) 大泉地区

日時	名称	内容
H28. 5. 21	第 3 回スプリングフェスタ～みんなで作るいずみまつり～ 【運営協力】	大泉交通公園で行われるお祭りでの出張相談窓口および社協自主製品販売

## (エ) 関町地区

日時	名称	内容
H28. 4. 26 ～年 11 回	子育てサポートネットSTS 【再掲】【主催】	関・立野・石神井地区において地域で支え、助け合う子育てについて意見交換を行った。
H28. 9. 6 ～年 7 回	関町・立野地域「施設連携防災ネットワークの会」コア会議 【再掲】【主催】	関町・立野地域において高齢者・障害者等分野を超えた施設や保育機関等がコアメンバーとして集まり、防災のネットワーク立ち上げについて検討を行った。
H28. 10. 2	子育てサポートネットSTS 地域おやこまつり【再掲】【主催】	地域の子育て家族に向けてイベントを行い、STS の活動を伝えつつ子育て中の親の生の声を集めた。
H29. 3. 3	第 1 回 関町・立野地域 施設連携防災ネットワークの会【再掲】 【主催】	関町・立野地域において分野を超えた各種福祉施設や保育機関等での防災のネットワーク



## (2) 生活支援コーディネーターの取り組み〔練馬区からの受託事業〕

介護予防・生活支援サービスの推進に向けて、地域団体や住民が協議する場を設け、支え合いの地域づくりを進めた。高齢者支え合いサポーター育成研修（練馬区社会福祉事業団主催）に企画・協力をしていながら、研修終了後の地域活動につなげた。

### ア. 協議体の開催

開催にあたり、練馬区や世話人と進め方などについて協議をした上で、当日の運営と進行役を担った。また、地域活動団体に参加を依頼した。

日時	名称	内容	参加人数
H28. 6. 27	第1回協議体	練馬区の高齢者福祉行政の状況と今後の方向性を共有し、生活支援コーディネーターの動きについて説明した。	34名
H28. 8. 5 9. 15	協議体打ち合わせ	練馬区と世話人とで第2回協議体に向けて意見交換を行った。	8名
H28. 10. 6	第2回協議体	練馬区介護予防・日常生活支援総合事業について共有し、生活支援コーディネーターの動きについて説明した。	39名
H28. 11. 1	協議体打ち合わせ (大泉地域)	練馬区、世話人、高齢者相談センター支所とともに、大泉地域におけるモデル事業の開催に向けて意見交換を行った。	11名
H29. 1. 6	第1回大泉地域協議体	協議体の趣旨及び、生活支援体制の構築に向けた区の取り組みについて共有し、事例紹介と意見交換を行った。	25名
H29. 3. 10	第2回大泉地域協議体	事例紹介と、今後の大泉地域協議体について意見交換を行った。	24名

### イ. 高齢者支え合いサポーター育成研修

名称	研修期間	生活支援コーディネーターの取り組み
前期育成研修 前期フォローアップ研修	H28. 5. 13 ～H28. 6. 17 (全7回) H28. 9. 16	練馬区と研修主催の練馬区社会福祉事業団と研修の進め方などについて協議を行った。また、研修に参加し、受講者への個別相談から、地域活動につないだ。活動の現状や今後の活動についての個別相談にも適宜対応した。 ・研修受講者：57名 ・活動人数：21人（練馬区社会福祉事業団がつないでいる施設介護の活動は含んでいない） ・個別相談、施設・団体との調整、活動見学：203件 ※人数、件数は前期と後期の合計
後期育成研修 後期フォローアップ研修	H28. 10. 14 ～H28. 11. 18 (全7回) H29. 3. 17	

## (3) つながり、見守る地域づくり「見守り推進コーディネーター」〔練馬区からの受託事業〕

出張所等を地域の見守り拠点とする練馬区の「つながり・見守る地域づくり」事業を地域の実情にあわせて進めた。 **活計**

### ア. 大泉西出張所地域

日時	テーマ	会場	参加人数
H28. 4. 16 ～月1回	地域懇談会～ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～ 【再掲】	大泉西出張所	延べ 231名
H28. 5. 21	スプリングフェスタ～みんなで作るいずみまつり～ 出張相談窓口【再掲】	大泉交通公園	
H28. 6. 3	南大泉「地域懇談会」【再掲】	南大泉地域集会所	28名
H28. 6. 15 ～月1回	「気づき“あい”のあるまち」をめざす会【再掲】	南大泉地域集会所	延べ 74名

### イ. 谷原出張所地域

日時	テーマ	会場	参加人数
H28. 4. 11 5. 26	地域懇談会ひろげよう！「みまもりあいの“わ”」～ みまもりの学習とおしゃべりの会～ 【再掲】	谷原出張所	延べ 31名

### 3. 地域の人材育成

地域福祉推進のための人材育成に取り組み、ボランティア講座や練馬区からの受託事業を通して地域の中で様々な役割を担い活動する地域住民の発掘・育成・支援および福祉人材の育成事業に取り組んだ。

#### (1) 研修・講座等の企画・実施

##### ア. ボランティア講座

ボランティア活動の基本的な理解を深めながら活動を始めるきっかけとなる講座を実施した。また、他部署や地域の関係機関等と連携して企画、実施した。講座終了後も継続的に関わりながら活動につなげた。活計

日時	講座名・テーマ	会場	参加人数
H28. 7. 23	大泉さくらボランティア講座	大泉障害者地域生活支援センターさくら	5名
8. 27	講座ふりかえり		4名
H28. 7. 25	ボランティアについて	光が丘びよびよ	11名
9. 6			6名
①H28. 11. 26 ②12. 7③12. 10	精神保健福祉ボランティア講座	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	延べ10名
H28. 12. 9	ボランティア講座	春日町敬老館	3名

##### イ. ボランティア体験学習

ボランティア活動の経験を持たず就業前の適性を確認したい人や、ボランティア活動を希望する学生等に対して、実際にボランティア活動が行われている現場で体験する機会を提供した。

・参加者 5名

##### ウ. 地域福祉パワーアップカレッジねりま〔練馬区からの受託事業〕

地域活動アドバイザーとして授業への参加や授業の企画・進行に関わり、また学生や卒業生からの相談対応、情報提供等を行い、地域活動を担う人材の育成や今後の地域活動につなげた。

(ア) 今年度の相談件数・・・574件

(イ) 主な相談内容・・・地域活動について、広報について、立ち上げたグループの運営相談等

##### エ. 練馬E nカレッジ〔練馬区からの企画・協力依頼事業〕

これから活動を始める住民向けに講座を企画・開催し今後の活動につなげた。

日時	テーマ	会場	参加人数
H28. 6. 27	ボランティア入門講座～はじめの一步～	練馬区立生涯学習センター分館	20名
H28. 10. 26	ボランティア入門講座～はじめの一步～		17名
H29. 2. 11	ボランティア入門講座～はじめの一步～		15名
H28. 11. 29	地域福祉入門セミナー ～光が丘編～	なかよし児童館、光が丘福祉園、 田柄デイサービスセンター、光が 丘区民センター	8名
H29. 1. 11	地域講座「ねりまをもっと知ろう」ボ ランティア入門講座	練馬区立生涯学習センター分館	8名

#### (2) 講師派遣

学校や関係機関等に職員を講師として派遣し、地域福祉の理解を深める機会を提供した。

### 4. 東日本大震災避難者に対する孤立化防止等の取り組み（東京都「孤立化防止事業」受託事業）

区内在住の避難者に対し、個別のニーズに応じて必要な支援や情報提供した。

#### (1) 個別相談および支援

個別訪問等を通して、困りごと等をうかがいながら、民生・児童委員や自治会等、地域の関係者と連携し、地域の一員として生活しやすい環境となるよう支援した。また、避難者同士がつながる機会を提供した。

ア. 訪問、電話連絡件数・・・124件

#### (2) 情報紙等による情報提供

随時、区内の団体や東京都などから届くイベントなどの情報提供を行った。

事業名	発行日	内容
「こんにちは!練馬区社会福祉協議会です」 No.13	H28. 6. 22	・練馬区社会福祉協議会移転のお知らせ ・区内の被災者に関連するイベントのご案内

「こんにちは!練馬区社会福祉協議会です」 No.14	H28. 9. 2	・区内の被災者に関連するイベントのご案内 ・図書館での福島県の新聞閲覧について
「こんにちは!練馬区社会福祉協議会です」 No.15	H28. 10. 17	・区内の被災者に関連するイベントのご案内 ・図書館での福島県の新聞閲覧について
「こんにちは!練馬区社会福祉協議会です」 No.16	H29. 2. 6	・区内の被災者に関連するイベントのご案内 ・図書館での福島県の新聞閲覧について
「こんにちは!練馬区社会福祉協議会です」 No.17	H29. 3. 24	・区内の被災者に関連するイベントのご案内 ・社会福祉協議会の相談窓口について

### (3) その他

被災地支援を行っている団体主催のイベントに参加し、区内における孤立化防止事業の取り組みを報告した。また、震災後、販路の絶たれた大堀相馬焼の宣伝、販売協力を行った。

## 5. 組織運営

### (1) 「運営委員会」

運営委員会においては、ボランティア・市民活動および地域福祉活動を行う住民や、学識経験者、行政関係者等の委員で構成する運営委員会を開催し、多様な視点でセンターの運営や事業について協議を行った。(定例会議年8回開催)

### (2) 「スタッフ会議」、「コーナー担当者会議」の開催

スタッフ会議(センター、各コーナー全職員参加)およびコーナー担当者会議(各コーナー責任者とセンター職員参加)を月1回開催し、情報交換や運営等に関する協議を行った。

### (3) 職員の研修参加

地域福祉コーディネーターに必要な資質を身につけるため、内外の研修に参加した。  
・外部研修 26 講座、延べ 37 名参加

### (4) 広報・啓発事業

ア. リーフレットを活用し、センターの役割・機能について住民にわかりやすく情報提供を行った。  
イ. ボランティア・市民活動情報「ぼけっと」を発行した。

- ・年 12 回(毎月)発行
- ・発行部数 4,500 部(A4 版 8 ページ)

ウ. インターネット・ホームページ、センターブログ「ぼけっとのうらがわ」、を活用して、ボランティアやNPOに関する情報を発信した。

### (5) 事業収入や寄付等による事業の充実

寄付金の有効活用および事業収入の確保に努めた。

- ア. ボランティア・地域福祉推進センターへの寄付 25 件 505,433 円
- イ. 使用済み切手収入 63,664 円
- ウ. バザー収入 119,976 円

## 【権利擁護センターほっとサポートねりま】

高齢や障害等のために支援を必要とする住民が、適切な福祉サービスを選択し、自分の意思や希望を叶えながら地域で安心して生活を送ることを目的に、福祉サービスや制度の情報提供を行い、福祉サービスの利用援助、成年後見制度の利用相談や支援事業を行った。また、練馬区の「成年後見制度推進機関」として、制度の周知・普及と活用を進めるための事業に取り組んだ。

### 1. 相談事業

福祉サービスの利用等に関わる相談や情報提供、成年後見制度の概要の説明および申立て手続きの支援や関係機関等の紹介、後見業務についての相談・問い合わせ等に応じて支援した。

#### (1) 一般相談

ア. 福祉サービスの利用援助等に関する相談 (平成29年3月31日現在)

相談件数・状況(件)	年度 状況	26年度 延件数	27年度 延件数	28年度			
				相談の内訳(件数)			延件数
				問合せ	初回	継続	
認知症高齢者等	4,548	4,515	3	419	4,529	4,951	
知的障害者	836	709	1	45	1,176	1,222	
精神障害者	1,731	1,684	1	69	1,902	1,972	
その他	950	811	79	122	803	1,004	
計	8,065	7,719	84	655	8,410	9,149	

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの詳細が不明な方  
昨年度に比べて延相談件数が1,430件増加した。相談の内訳では初回相談は、119件減少したが、継続相談は1,541件増加している。これは、福祉サービス利用援助事業の年度末利用者数が、毎年10数名程度増加しており継続相談件数が増加したためである。相談の状況では、構成比として認知症高齢者等が微減、知的障害者が微増した。夫婦や親子等の世帯で家族構成員それぞれに支援が必要な相談が増え、関係者と連携しながら介入方法を検討して対応した。

イ. 成年後見制度に関する相談

上記ア.のうち成年後見制度に関する件数 (平成29年3月31日現在)

相談件数・状況(件)	年度	26年度 延件数	27年度 延件数	28年度 延件数
	状況			
認知症高齢者等		864	920	735
知的障害者		129	77	84
精神障害者		237	167	125
その他		165	159	145
計		1,395	1,323	1,089

※状況の「その他」は、難病や高次脳機能障害の方、疾病・障害などの詳細が不明な方  
他機関や成年後見制度利用推進NPO法人などによる相談支援の広がりや相談窓口の多様化により、昨年度に比べて成年後見制度利用に関する延相談件数は234件減少した。初回相談では、制度利用に関する相談は法定後見制度・任意後見制度ともに減少し、継続相談では、制度説明や利用の相談が減少したが、申立に関する相談が増加した。

今年度も地域の高齢者相談センター・知的障害者の家族会などが主催する勉強会に講師派遣を行い、その後、相談を受けた事例や、精神障害者の地域移行をきっかけに、障害者地域生活支援センターや保健相談所、病院からの相談で成年後見制度の利用につながった事例もあった。

#### (2) 成年後見制度専門相談

司法書士による専門相談を実施した。相談者は子や甥・姪などの親族、本人、配偶者の順に多く、成年後見人等を既に受任している親族が後見業務に迷う中で専門相談を活用したケースも3件あった。相談内容は、高齢者の成年後見制度利用に関するものが中心であったが、制度利用に付随する遺言や相続に関する相談も多かった。

相談終了後、相談者から相談の結果をヒアリングし、必要に応じて継続的にフォローを行っている。

開催	相談員	会場	開催回数等
原則毎月第1水曜日 (祝祭日除く)	東京司法書士会 練馬支部司法書士	ボランティア・ 地域福祉推進センター会議室	全11回開催 24件相談

### (3) 権利擁護法律相談

今年度も、専門職団体とのネットワークを活用した地域での相談会を行い、成年後見制度の利用を推進し、広く相談を受けられる体制作りを行った。成年後見センター・リーガルサポート東京支部と合同で「合同相談会」、三弁護士会と共催で「巡回無料相談会」を行い、成年後見制度を中心に、遺言や相続などに関して、地域住民が身近な地域で専門職に無料で相談できる機会の提供を行った。

開催日	相談員	実施主体	主な相談の内容			
			後見制度	遺言・ 相続	財産管 理関係	その他
H28.10.8	司法書士・センター 職員 (合同相談会)	公益社団法人 成年後見センター・リーガ ルサポート 東京支部	23件	12件	4件	8件
H29.2.25	弁護士 (巡回無料相談会)	東京弁護士会、 第一東京弁護士会、第二東 京弁護士会	12件	12件	5件	3件

※主な相談の内容は、複数該当有

## 2. 福祉サービス利用援助事業

### (1) 地域福祉権利擁護事業 (日常生活自立支援事業) [東京都社会福祉協議会からの受託事業]

高齢や障害等で判断能力が十分でない住民の自己決定と地域生活を支援するため、『福祉サービス利用援助』、『日常的金銭管理サービス』、『書類等預かりサービス』の支援を行った。契約前の環境整備や調整、支援計画の作成、契約、モニタリング等を行う専門員と、支援計画に基づいた定期的な支援を行う区民から公募した生活支援員が連携し業務を担う。利用者が安心して生活できるように、消費生活被害の対応や生活保護申請支援等、利用者の状況変化に柔軟に対応することで適切な支援を行った。さらに、民生・児童委員や町会・自治会、地域の活動団体とも連携を図り、地域生活支援の視点を持って個別支援を実施した。 **活計**

今年度中は156名が利用し、年度末利用者数は136件となり、年度中利用者数・年度末利用者数ともに過去最高となっている。新規契約は34件あった。終了(解約)は20件で、昨年度に比べて微減した。終了事由は8件が施設入所、次いで7件が死亡による解約であった。判断能力低下による成年後見人等への引継ぎによる解約は5件(後見3、保佐2)であった。終了(解約)については、本人状況に合わせ、関係機関などと連携しながら、より適切な制度・機関に引き継いでいる。

(平成29年3月31日現在)

利用者数・ 状況 (名)	年度	26年度	27年度	28年度			
				新規契約数	年度中 利用者数	終了 (解約)数	年度末 利用者数
	状況						
認知症高齢者等		64	77	23	100	19	81
知的障害者		12	13	3	16	0	16
精神障害者		23	23	7	30	1	29
その他		7	9	1	10	0	10
計		106	122	34	156	20	136

※状況の「その他」は、難病・高次脳機能障害者の方など

### (2) 財産保全サービス・各種手続代行サービス [練馬区補助事業]

高齢や身体障害等により、財産の保全・預金の払い戻し・各種支払いや手続きが困難な方に、書類などの預かりや手続き代行の支援を行った。今年度中は34名が利用した。新規契約は11件で昨年度に比べて増加し、年度末利用者数も増加している。夫妻、親子などの世帯でそれぞれと契約するケースが増加している。

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

利用者数・状況(名)	年度 状況	26 年度	27 年度	28 年度							
				新規 契約数	年度中 利用者 数	終了 (解約) 数	年度末 利用者 数	契約内容内訳			
								財産 保全	代 行	手 続 き	(再 計) 併 用
	認知症高齢者等	13	15	4	19	3	16	3	15	2	
	知的障害者	1	1	1	2	0	2	2	1	1	
	精神障害者	3	2	0	2	1	1	0	1	0	
	その他	3	5	6	11	1	10	1	10	1	
	計	20	23	11	34	5	29	6	27	4	

※状況の「その他」は、疾病・身体障害の方など

### (3) 周知普及

福祉サービス利用援助事業の適切な利用および利用推進を図るため、パンフレットやホームページ等を活用して情報提供を行った。さらに、勉強会等に講師派遣を行い、成年後見制度に関する説明とともに福祉サービス利用援助事業の概要や具体的な活用方法について説明した。当事者に向けては、興味・関心を持って理解が深められるように伝達方法に工夫をこらした。また、当事者向け地域福祉権利擁護事業パンフレットの作成に取り組んだ。地域住民への周知普及とともに関係機関との支援連携を図り、ネットワークを深める機会となった。活計

年月日	内容	実施主体
H28. 4. 18	暮らしとお金・手続きについて	ベテスタ奉仕女母の家 婦人保護施設「いずみ寮」
H28. 4. 29	お金の上手な使い方について	大泉障害者地域生活支援センター「さくら」
H28. 6. 5	認知症とともに生きる ～その対応と地域資源～	一般社団法人 練馬区医師会
H28. 8. 6	権利擁護について考える ～成年後見制度を通して～	社会福祉法人 江古田明和会
H28. 10. 14	地域福祉権利擁護事業や社会福祉協議会の事業について	大泉ほっとケアマネット
H28. 10. 24	地域で安心して生活していくために	高齢者相談センター富士見台支所 街かどケアカフェ「こぶし」
H28. 11. 18	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業	練馬区立白百合福祉作業所(家族会)
H28. 11. 25	成年後見制度と権利擁護センターの事業について	高齢者相談センター石神井支所 (地域ケア個別会議)
H28. 12. 20	親なき後のサポート ～今からどんな準備が必要ですか～	社会福祉法人 章佑会 やすらぎ夢工房(家族会)
H29. 2. 2	社会福祉協議会について 権利擁護センターの取り組みについて(実践報告)	大韓民国訪問団(コットンネ大学校)
H29. 3. 25	お金について学ぼう	大泉障害者地域生活支援センター「さくら」
H29. 3. 29	親の高齢化に向けての準備 ～今からどんな準備が必要ですか～	練馬区立関町福祉園(父母の会)

## 3. 成年後見制度の利用推進

### (1) 周知普及事業

#### ア. 制度説明会・勉強会

成年後見制度の適切な利用および利用推進を図るため、パンフレットやガイドブック、チラシ、ホームページ等を活用して情報提供を行った。勉強会等では、社会貢献型後見人や成年後見制度推進 NPO 法人と協働で講師派遣に対応し、福祉サービス利用援助事業に関する説明とともに成年後見制度の概要や具体的な活用方法について説明した。地域住民への周知普及とともに関係機関との支援連携を図り、ネットワークを深める機会となった。活計

年月日	内容	実施主体
H28. 6. 5	認知症とともに生きる ～その対応と地域資源～ [再掲]	一般社団法人 練馬区医師会
H28. 6. 14	成年後見制度～実務に役立てるために～	練馬介護人材育成・研修センター
H28. 6. 17	成年後見制度の基礎講座	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H28. 8. 6	権利擁護について考える ～成年後見制度を通して～ [再掲]	社会福祉法人 江古田明和会
H28. 10. 14	地域福祉権利擁護事業や社会福祉協議会の 事業について [再掲]	大泉ほっとケアマネット
H28. 10. 24	地域で安心して生活していくために [再掲]	高齢者相談センター富士見台支所 街かどケアカフェ「こぼし」
H28. 11. 17	市民後見人養成研修 「現役市民後見人による実践報告」	社会福祉法人 ふじみ野市社会福祉協議会
H28. 11. 18	成年後見制度と地域福祉権利擁護事業 [再掲]	練馬区立白百合福祉作業所（家族会）
H28. 11. 25	成年後見制度と権利擁護センターの事業に ついて [再掲]	高齢者相談センター石神井支所 （地域ケア個別会議）
H28. 11. 29	地域福祉活動の現状と課題 ～練馬区における成年後見制度推進の取り 組み～	地域福祉パワーアップカレッジねりま9期
H28. 12. 20	親なき後のサポート ～今からどんな準備が必要ですか～ [再掲]	社会福祉法人 章佑会 やすらぎ夢工房（家族会）
H29. 1. 18	成年後見制度活用講座 ～実際の活用方法について～	練馬障害福祉人材育成・研修センター
H29. 1. 30	成年後見制度講座	練馬区立栄町敬老館
H29. 2. 2	社会福祉協議会について 権利擁護センターの取り組みについて(実践 報告) [再掲]	大韓民国訪問団（コットンネ大学校）
H29. 3. 29	親の高齢化に向けての準備 ～今からどんな準備が必要ですか～ [再掲]	練馬区立関町福祉園（父母の会）

#### イ. 講演会

社会貢献型後見人養成研修の中の「成年後見制度の関連法等 成年後見と自己決定権」を区民向けにも案内し、成年後見制度の概要について紹介した。また、総務係と協働し悪徳商法に関わる講演会を区民向けに開催した。

開催日	内 容	講 師	会 場	参加
H28. 9. 7	成年後見制度の関連法等 成年後見と自己決定権	東京アドボカシー法律事務所 弁護士 池原毅和氏	練馬駅北口ビル Coconeri3階 ココネリホール	82名
H29. 2. 20	落語で楽しく学ぼう！悪質商法 の知識と対処法 (総務係 在宅サービス協力員研 修と共催)	消費者啓発ボランティアグループ 落語家 桂 竹千代氏 東京都消費生活総合センター 保谷 秀子氏	練馬駅区役所 アトリウム地下 多目的会議室	45名

#### (2) 後見人等サポート

区民で親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方からの個別の相談支援を行った。また、親族の成年後見人等になっている方、成年後見人等になる予定の方へ向け、成年後見制度に関する最新情報や権利擁護センターからの情報提供とともに相談窓口の周知普及を行うため「ねりま後見人ネットだより」を2回発行し、東京家庭裁判所や区内関係機関の協力を得て広く配布を行った。申立支援や受任後の初回報告・継続報告の相談、辞任と選任の申立の相談に応じた。

#### (3) 地域ネットワークの活用

##### ア. 行政関係機関との連携

個別の支援において情報共有と役割分担を行い、連携を図りながら成年後見制度の利用を推進した。今年度も、行政の所管部署と共催で社会貢献型後見人の公募・養成研修を実施した。また、成年後見制度関係者会議に参加し、首長申立てや社会貢献型後見人受任のケースなどに関して検

討・協議した。今年度は社会貢献型後見人として3件受任した。

イ. 地域住民や成年後見制度推進 NPO 法人等との連携

地域住民組織や成年後見制度推進 NPO 法人等と情報交換を行うとともに、制度説明会や相談会を共催し、制度の周知・普及のための連携を図った。また、今年度から成年後見制度推進 NPO 法人との定例会を開催した。定例会では、成年後見制度に関する課題や情報を共有し、成年後見制度利用にあたって、それぞれが相互に協働しながら、より質の高い相談、支援体制の構築を図れるよう努めた。**活計**

ウ. 「成年後見ねりま地域ネットワーク会議」の開催

区民の成年後見制度利用を支援する仕組みとして、様々な専門職、行政関係者が連携・協働していくため、成年後見制度に関わる動向等について情報共有を行った。今年度は、老年精神医学の分野で診療を行う医師を新たにメンバーに迎え、実務を通じて感じた課題や、チームアプローチについてお話いただいた。その他、参加いただいた専門職や担当の行政職員から共有あるいは検討したい事項を募り、様々な立場から意見交換を行うことで、地域ネットワークの形成と連携を深めた。また、参加者からの要望を受けて、成年後見人等の候補者選定に参考となる資料を作成し、継続的に更新していくこととした。

開催日	内 容	参 加 者 数													
		社会福祉士	行政書士	税理士	司法書士	弁護士	精神科医	社会保険労務士	行政関係者						合計
									保険相談所	相談センター 高齢者 高齢者支援係	知的障害者担当係	福祉事務所	練馬区保健所 保健予防課	福祉部 地域福祉係	
H. 28 7. 21	成年後見制度と認知症について・事例検討・情報交換等	3	3	3	5	3	2	3	1	15	2	1	2	1	44
H. 28 12. 16	成年後見制度に関する法改正について情報共有、事例検討・情報交換等	3	3	2	6	3	0	3	1	10	0	1	2	1	35

(4) 社会貢献型後見人養成・支援

ア. 社会貢献型後見人の公募・養成

親族で適切な後見人が見つけられず、専門職に依頼するには資産がない方の制度利用推進と、判断能力が不十分な方が安心して住み慣れた地域で生活できるよう、同じ生活者の視点で地域生活を支える後見人の確保と質の確立を目的として、社会貢献型後見人の公募・養成を行政関係機関と共に行った。都内及び都外の社会福祉協議会から養成事業に関する問合せにも対応した。

**活計**

(ア) 公募

社会貢献型後見人の公募説明会とともに成年後見制度の概要および社会貢献型後見人の周知普及のための活動報告会を開催した。活動報告会では、社会貢献型後見人の意義と活動について社会貢献型後見人登録メンバーが報告を行った。公募の結果、7名の応募があり、論文・面接を経て4名が社会貢献型後見人養成へと進んだ。

開催日	内 容	講 師	会 場	参加
H28. 6. 16	地域で活かそうあなたのチカラ ～成年後見制度と社会貢献型後見人の活動報告・シンポジウム～	福祉部管理課地域福祉係、社会貢献型後見人	石神井公園区民交流センター	15名
H28. 6. 27	地域で活かそうあなたのチカラ ～成年後見制度と社会貢献型後見人の活動報告・シンポジウム～	福祉部管理課地域福祉係、社会貢献型後見人	練馬区役所アトリウム地下多目的会議室	24名

(イ) 養成研修

今年度は4名の社会貢献型後見人の養成を行い、9月から2月にかけて、延90時間の養成研修を行った。養成研修では、成年後見人等の倫理、対人援助演習、後見業務のケーススタディ等、適切な後見業務を行うために必要な知識や能力をつけるための研修を企画・提供した。養成研修受講者が、それぞれの研修で感じた気づきや疑問点に対して、研修報告書等を通じて



フィードバックを行えるような環境づくりを行い、受講者にとって質の高い研修となるよう努めた。また、研修内容に応じて、区民や民生・児童委員、権利擁護センター運営委員、成年後見制度推進 NPO 法人、練馬区相談情報ひろばのスタッフ等にも研修を案内し、4名の社会貢献型後見人も含め、延べ304名の研修受講があった。今年度研修を受講した4名は、次年度、社会貢献型後見人登録メンバーとなって受任に備える。

研修 (行政施策や対象者理解等)	実習・見学 (福祉作業所・施設)	実務研修
18回	6回	4回

また、既に養成研修を受講した登録メンバーに対しては、フォローアップ研修を2回実施し、円滑な後見活動およびスキルアップのための内容を企画・提供した。フォローアップ研修では、後見受任中の実務の流れなど、今までに登録メンバーから挙げられた疑問や不安に感じることが多かった内容を研修内容として取り上げ、受任に向けたフォローアップ体制の充実を図った。

#### イ. 社会貢献型後見人の受任の推進

##### (ア) 定期面談・懇談会の実施

社会貢献型後見人登録メンバーが不安なく受任できるよう、定期面談を行い、受任の意向を確認するとともに、後見業務に関する疑問や不安、推進機関への要望の聞き取りを行った。また、受任者だけでなく受任予定者と養成研修受講中の4名を交えた懇談会を開催し、受任者・受任予定者と後見監督人との情報共有や後見活動時の課題の把握や意見交換を行い、円滑な事業推進のための取り組みを行った。

##### (イ) 首長申立て

行政が主催する成年後見制度関係者会議(7/19)に参加し、首長申立てのケースで社会貢献型後見人による受任の妥当性について協議するとともに、養成研修受講者の受講状況や受任可能な社会貢献型後見人について情報共有を行った。今年度、首長申立てケースは2件受任した。

##### (ウ) リレー方式(専門職から社会貢献型後見人への引継ぎ)

前年度より調整していた専門職後見人(司法書士)からのケースを1件受任した。このケースは保佐類型での初の受任ケースで、被保佐人は地域福祉権利擁護事業の元利用者で支援した実績があり、専門性が必要な課題も解決したため社会貢献型後見人が引き継ぐこととなった。

#### ウ. 法人後見監督の受任および後見監督業務

##### (ア) 法人後見監督の受任

社会貢献型後見人の受任継続ケース5件および今年度の新規受任の3件について法人後見監督を行った。(平成20年度より受任ケース延べ18件)

継続ケースについては家庭裁判所への継続報告を支援した。うち1件では、被後見人の意向を受けて、親族と相談しながら死後の墓の手配を行った。

新規受任のケースは、被後見人への社会貢献型後見人の引き合わせ、専門職後見人や行政からの管理財産等の引き継ぎ、今後の支援計画の作成と家庭裁判所への初回報告を支援した。新規受任のうち1件は、被後見人の死亡により終了した。終了に伴う手続き等においては、社会貢献型後見人への助言を行い、社会貢献型後見人とキーパーソンとなる親族の調整を行うことで連携体制をとりながら進めることができた。

#### [社会貢献型後見人及び法人後見監督受任状況]

状況	類型	後見人 (養成研修修了期)	申立人	審判	後見監督人	備考
知的障害者	後見	第2期	練馬区長	H20.11	練馬区社協	
認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H25.12	練馬区社協	
認知症高齢者	後見	第7期	練馬区長	H26.2	練馬区社協	
認知症高齢者	後見	第8期	練馬区長	H27.11	練馬区社協	
知的障害者	後見	第7期	本人	H28.1	練馬区社協	
精神障害者	保佐	第8期	練馬区長	H28.6	練馬区社協	
認知症高齢者	後見	第8期	練馬区長	H28.6	練馬区社協	H28.11 被後見人死亡により終了
認知症高齢者	後見	第8期	練馬区長	H28.8	練馬区社協	

(イ) 後見監督業務の整備

社会貢献型後見人が安心して適切な後見業務が行えるように支援するため、顧問弁護士の監修を得て、後見監督業務のマニュアルの改定、更新を行なった。

(5) 法人後見への対応

ア. 成年後見制度推進 NPO 法人等との連携

成年後見制度の推進機関として制度のさらなる利用推進を図って行くため、成年後見制度の普及・啓発を目的として活動している NPO 法人等との定例会を開催した。定例会では、成年後見制度の普及に関わる課題や練馬区における法人後見のあり方等について情報共有、意見交換し検討を行った。

開催日	参加団体	内 容
H28. 6. 24	NPO 法人 成年後見推進ネットこれから NPO 法人 成年後見のぞみ会	各団体の取組み・情報交換
H28. 9. 29	NPO 法人 成年後見推進ネットこれから NPO 法人 成年後見のぞみ会	各団体の取組みと課題・情報交換
H29. 2. 3	NPO 法人 成年後見推進ネットこれから NPO 法人 成年後見のぞみ会 一般社団法人 年金トータルサポート・コスモ	法人後見に向けての整備や課題等

イ. 法人後見あり方検討会

成年後見制度利用推進と社協による法人後見の必要性とそのあり方について、成年後見制度利用促進法における利用促進基本計画の動向と合わせて検討会を開催（4 回実施）した。検討会には、弁護士、司法書士、社会福祉士、学識経験者、行政職員が参加し、様々な立場や視点で検討を行った。

4. 組織運営

(1) 運営委員会の開催

円滑で適正なセンター運営や事業の透明性・公平性確保のため、また、機能拡充を図るための具体的な取り組みについて協議を行った。

開催回数	場 所	内 容
全 5 回	ボランティア・地域福祉推進センター会議室（5 回）	年間事業計画および事業報告、社会貢献型後見人養成事業・後見監督業務報告他、権利擁護センター各事業についての協議・検討

(2) センター会議の実施

隔週で行うセンター会議と毎朝のミーティングで各職員の担当業務および個別ケースの相談や支援の状況について共有、検討を行い、センターとしての業務や支援の質を維持し、より効果的な事業推進を行えるよう体制を整えた。

(3) 生活支援員定例会の実施

定期的な情報交換だけでなく、生活支援員参加型の企画を実施した。今年度は、生活支援員が地域生活支援の視点を持って支援に取り組めるようグループワークを実施した。また、近年、障害のある方からの相談が増加している傾向を踏まえて、計画相談支援と障害者地域生活支援センターについて学ぶ機会を設けた。さらに、城西地区全体の生活支援員の支援力の向上と横のつながりを作ることを目的に、城西ブロック社会福祉協議会で生活支援員合同研修を開催した。活計

開催日	内 容
H28. 5. 19	平成 27 年度事業報告、平成 28 年度事業計画、第 4 次地域福祉活動計画、フリートーク「地域を意識して、日頃行っていること」
H28. 7. 21	グループワーク 「利用者の『自分らしい生活』を地域でどう支えていくか」
H28. 9. 15	生活支援員企画「記録の書き方」 フリートーク（「伝わる記録」にするための工夫、援助実施票の活用方法、表現に迷ったこと等）
H28. 11. 17	講義「計画相談支援ときららの活動について」 講師：豊玉障害者地域生活支援センターきらら 職員

H29. 1. 19	災害時連絡手段について～やってみよう！～ (災害伝言ダイヤル訓練他)
H29. 3. 16	事例検討「知的障害のある兄弟がより豊かな生活を送るために」 グループワーク
H28. 11. 29 城西ブロック 生活支援員合同研修	振り返ってみよう～利用者の尊厳をまもる支援を続けるために～ 講師：ルーテル学院大学名誉教授 福山和女氏 参加：生活支援員 77 名・専門員 15 名

#### (4) 職員の資質向上

東京都社会福祉協議会の主催する区市町村社協職員基礎研修、地域福祉権利擁護事業の専門員研修・生活支援員研修をはじめ、東京都社会福祉保健医療研修センター等の外部研修を積極的に活用し、職員の資質向上に努めた。(外部研修 16 講座 延べ 19 名参加)

## 【練馬障害福祉人材育成・研修センター】

障害福祉サービスを担う人材育成と事業所におけるサービス提供の質の向上を図るために、障害福祉サービスに係る研修体制を整え、事業所における高い専門性を持つ人材育成の支援を行った。

### 1. 練馬障害福祉人材育成・研修センター受託事業

#### (1) 練馬障害福祉人材育成・研修センター登録状況

事業所向けの研修は、当研修センターへの事業所登録後、各種研修が受講できる仕組みになっている。

<平成 28 年度登録状況> (平成 29 年 3 月 31 日現在)

障害福祉サービス区内指定事業所数 319 箇所

練馬障害福祉人材育成・研修センター登録事業所 248 箇所

#### (2) 学習支援

##### ア. 基礎研修

障害福祉サービス提供経験が少ない従事者に向け、障害の特性や支援方法等について知識や技術を習得できるように研修プログラムを提供した。

50 回開催 参加事業所数 118 事業所

研修テーマ	回数
基礎研修①障害の特性	16 回
基礎研修②障害福祉概論	3 回
基礎研修③体験研修	4 回
基礎研修④制度・政策	3 回
基礎研修⑤テーマ別	15 回
基礎研修⑥スキル研修	8 回
基礎研修⑦介護人材育成・研修センター共催研修	1 回

##### イ. 階層別研修

中堅職員、管理者等の階層に応じた研修プログラムを提供し問題解決の向上を図った。

29 回開催 参加事業所数 103 事業所

研修テーマ	回数
専門知識①事例検討	2 回
専門知識②テーマ別研修	19 回
専門知識③スキル研修	5 回
専門知識④職層別研修	3 回

##### ウ. 啓発研修

障害者支援に関心のある区民を対象に障害についての知識や理解を高める研修を 3 回実施した。

開催日時	9 月 10 日(土)14:00~16:00	参加者	53 名
タイトル	誰もが住みよい地域になるために～障害者差別解消法を知る～		
場 所	練馬区立区民・産業プラザ研修室 1		
講 師	尾上浩二氏(D P I 日本会議 副議長)		

開催日時	6 月 30 日(木)13:00~16:30	参加者	12 名
タイトル	マイフレンド講座～障害を知り、地域で共に生きる～		
場 所	練馬区役所本庁舎 20 階交流会場		
講 師	小嶋康裕氏(練馬区立氷川台福祉園 副園長) 練馬区立白百合福祉作業所 6 名 (職員 2 名、利用者 4 名)		

開催日時	10 月 28 日(金)13:00~16:30	参加者	11 名
タイトル	マイフレンド講座～障害を知り、地域で共に生きる～		
場 所	光が丘区民センター洋室 1・2		
講 師	松本真理氏(練馬区立大泉学園町福祉園 副園長) 練馬区立かたくり福祉作業所 6 名 (職員 2 名、利用者 4 名)		

エ. 練馬介護人材育成・研修センターとの連携

練馬介護人材育成・研修センターと協力し、共通するテーマについての研修を共催した。また、企画している研修を相互に乗り入れる相互受講研修を行い、障害福祉、高齢者福祉の分野の垣根のない連携を行った。

(ア) 共催研修実施について

平成 28 年度は 1 回の共催研修を実施した。

開催日時	2 月 20 日(月)10:00~12:00	参加者	37 名 (障害福祉サービス計 9 名、 介護保険サービス計 28 名)
タイトル	多問題家族への支援～障老介護を考える～		
講師：日本福祉大学 教授 綿祐二氏 会場：練馬介護人材育成・研修センター研修室			

(イ) 相互受講研修について

練馬介護人材育成・研修センターと当研修センターでそれぞれ開催している研修に双方の登録事業所が参加できる研修を実施した。

- a. 障害福祉人材育成・研修センター乗り入れ研修 14 回開催 115 名参加
- b. 介護人材育成・研修センター乗り入れ研修 17 回開催 36 名参加

オ. アンケート実施

障害福祉サービス事業所に対し、研修センターのサービス充実の為、各事業所で取り組んでいる職員研修や研修センター事業等についてアンケートを実施し、区内の事業所の実態把握をした。

(ア) 平成 28 年 10 月実施 アンケート回答率 42.2% (348 事業所中 147 事業所)

カ. その他

- (ア) 登録事業所への研修周知(月 2 回メール)
- (イ) 未登録事業所への定期的な登録の呼びかけ(月 2 回 FAX)

**(3) 連携支援**

近隣地域で障害福祉サービス事業所等の集まりを設け、事業所同士が情報交換を通じて課題等を共有し、連携する機会を設けた。

豊玉・練馬近隣地域、西大泉・南大泉近隣地域、石神井近隣地域の 3 地区にて実施し、それぞれの地域で顔の見える関係を作ることができ、共通の課題やテーマについて話し合うことができた。また、各地域で課題に即した研修会や、地域の社会資源の見学会行うなど、より深い連携がつけられた。

**活計**

ア. 豊玉・練馬近隣地域

豊玉障害者地域生活支援センターきららを拠点として情報交換会を年 5 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5 回 (5・7・9・11・1月)	8 事業所 参加事業所：日中系サービス 3 相談支援事業所 1 地域活動支援事業所 1 地域包括支援センター 1 有償家事援助サービス 1 その他 1	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でともに考える場をつくり研修会のテーマ等についても話し合った。

イ. 西大泉・南大泉近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、情報交換会を年 6 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
6 回 (4・6・8・10・12・2月)	9 事業所等 参加事業所：日中系サービス 1 訪問系サービス 2 居住系サービス 2 その他 4	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間で共にともに考える場をつくり話し合った。

ウ. 石神井近隣地域

大泉ボランティア・地域福祉推進コーナーも参加し、石神井障害者地域生活支援センターういんぐを拠点として情報交換会を 5 回実施した。

開催回数	参加事業所数	内容
5回 (6・8・10・12・2月)	14事業所等 参加事業所：日中系サービス6 訪問系サービス2 居住系サービス1 地域活動支援事業所1 児童系サービス1 その他3	各事業所の現状・抱える課題等について事業所間でもともに考える場をつくり、研修についても話し合った。

エ. リーダー養成研修修了者

開催回数	参加人数	内容
4回 (5・7・9・10月)	H26年度研修 修了者9名	・現状・抱える課題等について ・H28年度開催研修の内容について
3回 (5・6・10月)	H27年度研修 修了者6名	・現状・抱える課題等について ・H28年新任職員研修内容について

(4) 情報支援

ア. 専用ホームページ運営

従事者が手軽にアクセスし、障害福祉サービスに関する必要な情報を得られるように専用ホームページを運営した。

(ア) 平成28年4月～平成29年3月までのアクセス件数 11,706件

イ. 情報提供

毎週1回、法令制度、他機関研修、お知らせなど障害福祉サービスに関する情報をホームページにて周知した。

(5) 広報

ア. 研修センターだよりの発行

研修センターだよりの毎月発行し、登録事業所にはメール配信または研修開催時に配布し未登録事業所には研修センターへの登録の促しとともにFAXで配信した。また、練馬区障害福祉サービス事業者連絡会の運営委員会や勉強会でも配布した。ホームページにも随時掲載し研修センター事業の周知に努めた。

イ. Facebookの活用

実施事業について報告等をし、実施事業についての周知するための研修センター専用のFacebookを活用した。

(6) 運営協議会の開催

練馬障害福祉人材育成・研修センターを運営するに当たり、事業所等の意見を反映するため、練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会を設置し3回開催した。

開催回数	場 所	内 容
全3回	・練馬区役所 1902 会議室 (1回) ・区民産業プラザ 研修室1 (1回) ・区民産業プラザ 研修室2 (1回)	センター事業概要について、年間目標・計画について、センター事業取り組み状況報告、事業所アンケートについて、29年度事業計画(案)について等

2. 人材育成の充実に向けた取り組み

(1) 職員研修

業務を通して課題やニーズを認識しながら自らの業務に対する意義を高め、職層別職員に求められる知識・技術・計画力・表現力等を身につけるよう新任職員研修、中堅(前期・後期)職員研修、管理職研修に加え今年度は課題になったテーマをテーマ別研修として企画・実施した。

また、社協全体で取り組むべき共通のテーマであって、業務の種別やハード面等個別具体的に対応することが望ましいテーマに関しては部署別に研修を行った。

ア. 職層別研修

	日程	場所	参加人数	内容
新任研修	前期 H28. 6. 6 ～7. 21 後期 H28. 12. 12 ～H29. 2. 6	練馬区社会福祉協議会 各部署	11人	各部署体験
中堅(前期)職員研修	H28. 10. 27	区民・産業プラザ 研修室2	10人	講義：「練馬区社協における情報セキュリティ」 講師：椿康宏(練馬区社会福祉協議会 経営管理課長)

中堅(後期)職員研修	H28. 11. 17	豊玉障害者地域生活支援センターきらら交流室	11人	講義：「問題の構造学」 講師：石川治江氏(NPO 法人ケアセンターやわらぎ 代表理事 社会福祉法人にんじんの会 理事長 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授)
管理職研修	H29. 2. 24	区民・産業プラザ 研修室2	13人	テーマ「ワークライフバランス支援を定着させるには」 講師：天笠崇氏(代々木病院精神科医、認定産業医)
テーマ別研修	H28. 6. 20	区民・産業プラザ 研修室2	16人	テーマ「ユニバーサルデザイン研修」 グループワーク

#### イ. 部署別研修

部署	日程	場所	参加人数	内容
豊玉障害者地域生活支援センターきらら	H29. 2. 9	豊玉障害者地域生活支援センターきらら交流室	6人	講義：支援における「グレーゾーン」を考える。 講師：東洋大学 教授 高山直樹氏

## (2) 地域に向けた人材育成

地域の福祉サービス提供事業所の連携や、職員の資質向上を図るため情報交換会で出された課題をもとに研修会や見学会を開催した。また、支援に関する情報の共有化、サービス従事者間の連携を高めることを目的とした地域密着型連携事業の実施やリーダー養成研修修了者有志が集まる機会を設け専門職同士のネットワークづくりを行った。

### ア. 豊玉・練馬近隣地域における研修会の実施 (2回)

日程	場所	参加人数	内容
H28. 7. 19	豊玉障害者地域生活支援センターきらら	10人	「豊玉保健相談所の役割について」 講師：豊玉保健相談所 根岸雅美氏
H29. 1. 17	同上	10人	「事例検討」 事例提出者：NPO・ACT ねりま居宅介護支援事業所 松沢邦栄氏

### イ. 石神井近隣地域における研修会の実施 (3回)

日程	場所	参加人数	内容
H28. 8. 24	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ	11人	「白百合福祉作業所の現状・課題について」 講師：高橋辰幸
H28. 10. 20	同上	10人	「石神井障害者地域生活支援センターの現状・課題について」 講師：出口育代、下川ゆき子
H28. 12. 1	同上	13人	「大泉ハイムの現状・課題について」 講師：喜多浩子氏

## 【生活サポートセンター】

複合的な課題を抱え経済的にも困難を抱える方が課題を解決するために、一緒に考え社会保障制度の活用や適切な制度、機関への案内を行うなど、課題解決に向けた道筋を付けられるよう相談支援を行った。また、地域で活動している団体や関係機関とネットワークをつくり、地域で支える仕組みづくりを推進した。

### 1. 相談事業

複合的な生活課題に基づく相談を幅広く受け止め、解決に向け相談者と一緒に課題の整理を行い、関係機関と連携しながら相談支援を行った。また、相談支援の質の担保と向上のために定期的なケース検討や相談経過をセンター全体で確認する機会を設け、多様な相談への対応方法の共有の仕組みを構築した。

#### (1) 相談件数

年度		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
継続相談（過年度相談受付）		—	94 件	93 件
初期相談	新規相談	315 件	663 件	665 件
	他団体からの事業運営に関する問い合わせ	36 件	37 件	33 件
	団体等からの連携に関する相談※1	1 件	6 件	16 件
	計	352 件	800 件	807 件

※1 相談を受けた団体等

警備会社、民間非営利団体、民間福祉事業所、ユースソーシャルワーカー、弁護士事務所、保険会社、家賃債務保証会社団体、TOKYO チャレンジネット（相談機関）等

#### (2) 相談支援方法

年度		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
相談支援方法 （延べ件数）	電話	1,798 件	5,374 件	6,442 件
	来所	282 件	344 件	445 件
	同行・訪問	274 件	1,237 件	1,164 件
	その他 ※	30 件	254 件	335 件
	計	2,384 件	7,209 件	8,386 件

※その他：メール・手紙による相談、支援調整会議、ケースカンファレンス等

電話による相談が最も多い。前年度に比べ電話や来所による相談が増えている。

#### (3) 関係機関との連携

行政	福祉事務所、ハローワーク、保健相談所、高齢者相談センター、国保年金課、税務課、住宅課、子ども家庭支援センター、介護保険課、高齢社会対策課、子育て支援課、区民相談、都税事務所、資源循環センター、苦情調整委員、他区市町村生活保護担当課等
行政以外の関係機関	セカンドハーベスト・ジャパン、レインボーワーク、TOKYO チャレンジネット、東京弁護士会、法テラス、生活サポート基金、若者サポートステーション、医療機関、消費生活センター、練馬ビジネスサポートセンター、シルバー人材センター、他区市町村自立相談支援機関、民間障害福祉事業所、ボランティア団体、裁判所、警察署等
専門職・その他	ケアマネージャー、弁護士、社会保険労務士、税理士、民生・児童委員等



#### (4) 新規相談者の状況

##### ア. 相談者の年代、性別

年代	実人数	構成比
10歳代	4	0.6%
20歳代	51	7.7%
30歳代	100	15.0%
40歳代	110	16.5%
50歳代	116	17.4%
60歳代	65	9.8%
70歳代	41	6.2%
80歳代以上	27	4.1%
不明	151	22.7%
計	665	100%

性別	人数	構成比
男性	358名	53.8%
女性	270名	40.6%
不明・その他	37名	5.6%
計	665名	100%

相談者の年代は30代～50代が最も多い。性別では男性が女性よりも多い。前年度と比べた際の年代・性別の傾向に大きな変化はなかった。

##### イ. 初回の相談経路

構成比 件数	本人			家族	知人	社協		区内部の関係機関		民生・児童委員	民間事業者	ハローワーク	その他*3
	来所	電話	メール			福祉資金	その他*1	福祉事務所(相談係)	その他*2				
665	137	270	5	39	19	20	14	60	36	2	14	4	45
100%	20.6%	40.6%	0.7%	5.9%	2.9%	3.0%	2.1%	9.0%	5.4%	0.3%	2.1%	0.6%	6.8%

\*1 その他 ボランティア・地域福祉推進センター、地域生活支援センター、総務係等

\*2 その他 高齢者相談センター、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー等

\*3 その他 他区市町村自立相談支援機関、病院、レインボーワーク等

初回の相談は本人からの相談が最も多いが、前年度と比べると福祉事務所や行政の関係機関、練馬区社協の他部署から紹介を受け相談につながるが増えた。経済的な課題を含めて、生活費や住まいに関する事など、生活全般に関する相談のため、福祉事務所等他相談機関と連携を取りながら支援を行っている。

##### ウ. 相談内容（相談者 665 名）※複数回答

病気・健康・障害	住まい	収入・生活費	家賃・ローンの支払い	税金・公共料金等の支払い	債務	仕事探し・就職	仕事上の不安・トラブル	地域との関係	家族関係・人間関係	子育て	介護	引きこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	その他
148	185	446	205	83	81	209	41	8	97	14	26	30	10	18	130

※新規相談者 1人当たりの相談内容件数：2.6件

相談内容は収入・生活費に関するものが最も多いが、併せて離職後の仕事探しや家賃・ローンの支払いの相談も含まれることがある。生活困難に陥る背景に病気や障害のある場合もあり、複合的な課題を抱えた相談者が多い。

#### (5) 課題が改善された事例（一例）

ア. 住居確保給付金を受給しながらハローワークと連携して支援することで就職に結びついた。

イ. 多重債務により住民税を滞納していた方が区の担当課から当センターを紹介され、家計の収支や債務を一緒に確認した。家計表を作成し収支を見直したことで、債務については弁護士との相談が進み生活再建の見通しがついた。当センターでの定期的な家計の確認を通して、住民税は分割納付を計画的に行うことができるようになった。

ウ. 体調を崩し離職した方に傷病手当金の申請の案内や助言を行い、傷病手当金の受給につながった。

エ. 長年働いていなかった方の生活について相談を受け、地域の福祉施設と連携して就労体験の機会を提供した。自立意欲の向上につながり、就労に向けた継続的な支援を行っている。

## 2. 広報周知

民生児童委員協議会での事業説明や区の広報物や当センターのチラシ、練馬区社協の広報物を活用して当センター事業の周知を行った。また、福祉事務所や生活困窮者自立支援法に関連する事業者との情報交換会を定期的に実施した。関係者同士の相互理解が深まり、当センターの役割が一定程度周知され、対象者を適切に紹介・案内されることが増えた。**活計**

## 3. 生活困窮者自立支援法に基づく事業〔練馬区からの受託事業〕

平成28年度は自立相談支援事業と住居確保給付金に関する相談支援事業、任意事業である家計相談支援事業を受託し、生活困窮者への包括的な相談支援を行った。

### (1) 自立相談支援事業

経済的だけでなく複合的な課題を持つ生活困難な方に対し、抱えている課題とニーズの把握などのアセスメントの実施や、自立に向けたプランの作成等の支援を行い、継続的な相談支援を実施した。福祉事務所とも定期的な情報交換を行い、連携して相談者への支援を行った。

また、自立相談支援事業の実施に当たって、支援調整会議を開催し、プラン内容や支援方針が適切なものかを協議するとともに、支援の継続や終結についてプランに基づいて行った支援の評価を行った。支援調整会議に個々のプランに関わる関係機関へ参加を積極的に呼びかけ、支援の方向性について共通認識を持ち、役割分担を明確にしながら協働して支援する体制作りに取り組んだ。

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
支援調整会議	8回	12回	28回
プラン策定	8件	54件	112件

※プラン策定件数は同じ相談者の2回目以降の再プラン策定件数を含む。

※参加した関係機関：福祉事務所、ハローワーク、明日葉ステーション（生活困窮者自立支援法就労準備支援事業受託機関）、保健相談所、高齢者相談センター、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー、ケアマネージャー、レインボーワーク、練馬区社協他部署

### (2) 「住居確保給付金」に関する相談支援事業

離職により住宅を失った又はそのおそれが高い生活困窮者であって、収入等が一定水準以下の就職を目指す方に対して、期間を定め「住居確保給付金」に関する相談、申請受付、就労支援を行った。就労支援に関してはハローワーク個別相談担当と連携しながら取り組んだ。また、就職活動中の生活資金を必要としており、貸付を行うことにより早期の就職と自立が見込まれる世帯に対しては、総合支援資金貸付の活用を案内し、総務係貸付担当と連携して支援した。**活計**

住居確保給付金受給者	延べ支援件数
24名(内平成28年度申請者18名)	971件

### (3) 家計相談支援事業

平成28年度より家計相談支援事業を受託した。相談を受ける中で債務問題や収支のバランスに課題を抱える方には、家計表と一緒に作成し、家計の現状把握から支出費目の優先順位やライフイベントに伴う収支の変化等の見通しのつけ方について、定期的な面談等を通して段階を踏んで確認・助言を行った。相談者本人が自ら家計のやりくりができる力をつけられるよう継続的に関わるとともに、必要に応じて公的制度や地域資源の利用支援、税金等滞納についての相談同行、債務問題について弁護士相談へつなぐ等、生活の建て直しが図れるように支援した。

家計相談支援事業利用者	延べ支援件数
28名	1,814件

## 4. 地域のネットワークづくり

### (1) 運営委員会の開催

生活困難を抱える住民の支援を行っている様々な分野の関係者で委員会を構成し、事業や運営方法の検討、事例検討等を通じて事業実施によって明らかになった地域課題の共有・情報交換を行い、生活困難を抱える住民を支える地域づくりについて話し合った。

	開催日時	内容
第1回	平成28年6月8日 14時～16時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談実績報告</li> <li>・事例から見えてきた課題</li> <li>・地域のネットワークづくり</li> <li>・社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた取り組み</li> <li>・平成29年度事業計画</li> <li>・意見交換等</li> </ul>
第2回	平成28年9月14日 14時～16時	
第3回	平成28年12月6日 14時～16時	
第4回	平成29年3月8日 15時～17時	

## (2) 社会福祉法人等のネットワークの構築

「社会福祉法人等の社会貢献事業におけるネットワークづくりに向けた連絡会」を総務係とともに担当し、モデル地区である大泉地区「大泉法人ネット」において、連携方法の仕組みづくりや具体的な地域課題について検討を行った。また、自立相談支援の相談者の中で、就労体験の必要な人を、「大泉法人ネット」で検討し、就労体験につなぐことができた。 活計

## 5. 組織運営

### (1) 「センター会議」「ケース会議」の実施

センター会議を月2回、ケース会議を月1回開催し、各職員の担当業務及び個別ケースの相談や支援の状況について共有・検討を行い、当センターとしての業務や相談支援の質を担保し、より効果的な事業推進を行えるよう体制を整えた。

### (2) 職員の資質向上を目的とした研修の実施・参加

相談者の思いを尊重し、その思いに寄り添った相談対応ができるよう職員の専門性を高め資質向上を図るための研修を企画・実施した。

また、国が定める養成研修や東京都、生活困窮者自立支援関連団体、他機関で実施される研修等にも参加した。

ア. 生活サポートセンターが企画した研修

社会保障制度についてをテーマに、他の部署にも参加を呼びかけ実施した。

イ. 国が定める養成研修

相談支援員、就労支援員、家計相談支援事業従事者養成研修に参加した。

ウ. 事業に関連した研修

東京都、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、生活困窮者自立支援全国ネットワーク、日本社会福祉士会等が主催する研修に参加した。

【資料】 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

理事 (任期 : H28. 2. 7 から H29. 6. 22 まで)

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
大江 義宏	会長、学識経験	小林 元子	学識経験	仲居 康雄	学識経験
篠 利雄	副会長、産業経済	阿部 財智	産業経済	田中 敏	民生児童委員
山浦 成子	副会長、ボランティア	土田 秀行	福祉施設	加藤 和雄	民生児童委員
木内 幹雄	副会長、産業経済	明星 マサ	福祉施設	福島 敏彦	行政職員
渡邊 雍重	町会関係	本橋 正壽	学識経験	室地 隆彦	練馬区社協常務理事

監事 (任期 : H28. 2. 7 から H29. 6. 22 まで)

中川 剛 (学識経験)	三橋 道子 (学識経験)
-------------	--------------

評議員 (任期 : H28. 12. 19 から H29. 3. 31 まで)

氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野	氏名	選出分野
矢島 芳一	民生児童委員	瀧澤 幸恵	民生児童委員	重田 栄	福祉団体	見米 元秀	学識経験
今井 武久	民生児童委員	栗原 秀雄	民生児童委員	三宅 陽子	福祉団体	山根 由美子	行政職員
悴田 茂雄	民生児童委員	本橋健吉郎	民生児童委員	古川 重子	福祉団体	吉岡 直子	行政職員
古屋 日出子	民生児童委員	尾崎 勝美	民生児童委員	森山 瑞江	福祉団体	北沢 武宏	行政職員
石田 芳子	民生児童委員	小柳 ヒロ江	民生児童委員	高橋 八映	福祉施設	武熊 雅郎	行政職員
川島 藤行	民生児童委員	関根 正子	民生児童委員	林田 俊弘	福祉施設	小原 敦子	行政職員
長谷川 和雄	民生児童委員	嵯峨 慶子	民生児童委員	勝又 勝	福祉施設	内野 ひろみ	行政職員
芹澤 考子	民生児童委員	高橋 竹男	民生児童委員	山本 雄一	ボランティア		
上原 義道	民生児童委員	加藤 政春	町会関係	布施 美智子	報道関係		
齋藤 幸雄	民生児童委員	川島 一夫	福祉団体	秋山 勉	産業経済		

評議員選任・解任委員会 (任期 : H29. 2. 1 から H33. 6 の定時評議員会まで)

氏名	選出分野・現職等	氏名	選出分野・現職等
神山 裕美	外部委員/大正大学人間学部社会福祉学科教授	三橋 道子	練馬区社協監事
杉浦 剛	外部委員/ 元練馬区民生児童委員協議会代表副会長	椿 康宏	事務局員/練馬区社協経営管理課長
中川 剛	練馬区社協監事		

地域福祉活動計画策定・推進評価委員会委員 (任期 : H27. 4. 1 から H30. 3. 31)

氏名	現職等	氏名	現職等
山浦 成子	委員長 / 練馬区社協副会長 ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長	林田 道子	しあわせ福祉ネット・関代表
明星 マサ	副委員長 / つくりっこの家クラブハウス理事 豊玉障害者地域生活支援センターきらら運営委員会委員長	木内 幹雄	練馬区社協副会長、東京商工会議所練馬支部副会長
坂元 信幸	知的障害者通所授産施設 山彦作業所所長	玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員
飯村 史恵	立教大学准教授	森 純一	東京都社会福祉協議会
河本 道雄	光が丘地区民生・児童委員協力員	福島 敏彦	練馬区福祉部長
山本 雄一	練馬区社協評議員、 NPO 法人シニアふれあい練馬代表	室地 隆彦	練馬区社協常務理事

苦情解決第三者委員会委員 (任期 : 27. 11. 27 から 29. 11. 26 まで)

岩本 康一郎 (弁護士)	坂元 信幸 (学識経験)	辻 昌子 (民生児童委員) ~H28. 11. 30	芹澤 考子 (民生児童委員) H28. 12. 1~
--------------	--------------	-------------------------------	-------------------------------

生活福祉資金調査委員会委員 (任期 : 27. 4. 1 から 29. 3. 31 まで)

氏名	現職等	氏名	現職等
富永 愛子	委員長 / 民生児童委員	上山 浩司	司法書士
平野 文男	副委員長 / 民生児童委員	内田 哲男	民生児童委員
古賀 貢	練馬区商店街連合会	横山 敏子	民生児童委員
鈴木 満里子	障害者福祉関係者	下郡山 琢	練馬区健康福祉事業本部大泉総合福祉事務所長

ねりま歳末たすけあい運動推進委員会委員（任期：27.11.28から29.6.2まで）

東京都共同募金会練馬地区協力会 練馬地区配分推せん委員会委員（任期：27.6.3から29.6.2まで）

氏名	現職等	氏名	現職等
小美濃 千鶴子	委員長／元民生児童委員	関口 和雄	練馬区障害者就労促進協会理事長
関口 嗣男	副委員長／元民生児童委員	山浦 成子	ボランティア・地域福祉推進センター運営委員長、練馬区社協理事
田口 博一 （～H28.11）	民生児童委員協議会代表副会長、練馬区社協理事	近藤 優美	東京都社会福祉協議会
田中 敏 （H28.11～）	民生児童委員協議会代表会長、練馬区社協評議員	山根 由美子	練馬区福祉部経営課長、練馬区社協評議員
渡邊 雍重	練馬区町会連合会会長、練馬区社協理事	室地 隆彦	練馬区社協常務理事

練馬区立白百合福祉作業所運営協議会委員（任期：28.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
工藤 智美	白百合福祉作業所利用者	
千葉 愛樹	白百合福祉作業所利用者	
石橋 道子	白百合福祉作業所家族会	
栗原 佐吉	白百合福祉作業所家族会	
鈴江 育代	白百合福祉作業所家族会	
古川 正子	白百合福祉作業所家族会	
棚橋 義一	地域住民・ボランティア	
加藤 眞一	地域住民・ボランティア	
吉岡 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長	
板倉 篤子	練馬区福祉部障害者施策推進課就労支援係長	副委員長
椿 康宏	練馬区社協経営管理課長	
大垣 喜久江	白百合福祉作業所長	委員長
竹内 直美	白百合福祉作業所職員	

練馬区立かたくり福祉作業所運営協議会委員（任期：28.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
三戸 英一	大泉町3丁目町会長	
渡辺 芳江	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
喜友名 正美	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
塚本 みゆき	かたくり福祉作業所家族会	副委員長
安藤 陽香	かたくり福祉作業所利用者	
増田 未来	かたくり福祉作業所利用者	
池田 康次郎	かたくり福祉作業所利用者	
吉野 紀代子	地域住民・ボランティア	
齊藤 輝子	地域住民・ボランティア	
渡瀬 穰介	練馬区立大泉第一小学校校長	
金子 陽介	練馬区立大泉町福祉園施設長	
吉岡 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長	
板倉 篤子	練馬区福祉部障害者施策推進課就労支援係長	
菊池 貴代子	かたくり福祉作業所長	委員長
山岡 多恵	かたくり福祉作業所職員	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら運営委員会委員（任期：27.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
明星 マサ	つくりっこの家クラブハウス理事	委員長
木内 知己	町会商店会関係	
国島 良臣	ボランティア	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
高梨 文雄	東京都精神障害者団体連合会代表	副委員長
田辺 安之	大泉病院連携企画室室長	
橋本 邦子	家族	
山田 直毅	町会商店会関係	
山崎 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長（～H28.3.31）	
吉岡 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長（H28.4.1～）	
椿 康宏	練馬区社協経営管理課長	
岩田 敏洋	豊玉障害者地域生活支援センターきらら所長	

豊玉障害者地域生活支援センターきらら 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員  
（任期：28.4.1から31.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
森山 瑞江	練馬手をつなぐ親の会会長	
田中 康子	練馬肢体不自由児者父母の会副会長	
北川 及貫	練馬区身体障害者福祉協会会長	
澤 幸広	ケアサービス伊東介護事業部長	
佐藤 英明	NPO 法人練馬精神障害者家族会副理事長	
柴田 秀治	社会福祉法人江古田明和会えごのみ施設長	
田辺 安之	大泉病院連携企画室室長	
小嶋 康裕	練馬区立氷川台福祉園副園長	
飯島 佳代子	豊玉保健相談所地域保健係次席	
山田 伸介	練馬総合福祉事務所地域包括支援係長/練馬包括支援センター長	
酒井 英子	練馬総合福祉事務所地域包括支援係副係長/練馬包括支援センター副係長	
疋野 栄	中村橋福祉ケアセンター中途障害者通所事業管理者	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ運営委員会委員（任期：27.4.1から29.3.31まで）

氏名	所属等	役割等
長澤 泉	区内在住当事者	副委員長
松沢 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会理事長	
伊藤 郁子	茶道ボランティア（きらら・ういんぐ）	
佐藤 真須美	石神町会婦人部会員	
藤田 庄子	NPO 法人 NPO 福祉サロン代表	
鈴木 英典	NPO 法人ほっとすぺーす ほっとすぺーす練馬所長	委員長
山本 雄一	練馬区社会福祉協議会評議員、NPO 法人シニアふれあい練馬代表	
亀山 千恵子	練馬区立男女共同参画センターえーる所長	
別司 新奈	NPO 法人サニーサイド ケアサポートサニーサイド	
山崎 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長（～H28.3.31）	
吉岡 直子	練馬区福祉部障害者施策推進課長（H28.4.1～）	
椿 康宏	練馬区社協経営管理課長	
出口 育代	石神井障害者地域生活支援センターういんぐ所長	

石神井障害者地域生活支援センターういんぐ 練馬区障害者地域自立支援協議会専門部会委員  
(任期：28.4.1から30.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
金杉 和夫	一般社団法人練馬区医師会理事	
鈴木 英典	NPO 法人ほっとすぺーす ほっとすぺーす練馬所長	
松沢 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会理事長	
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	
村塚 正平	都立大泉特別支援学校	
山形 晋也	池袋公共職業安定所	
熊谷 彰人	陽和病院相談室	
平田 香枝	中部総合精神保健福祉センター地域体制整備担当係長	
越野 清二	中部総合精神保健福祉センター援助担当	
古山 恵治	大泉福祉作業所 大泉つつじ荘	
相良 宏司	練馬障害者支援ホーム	
伊藤 典子	石神井総合福祉事務所保護第2係長	
佐藤 麻子	石神井保健相談所地域保健係	

ボランティア・地域福祉推進センター運営委員会委員 (任期：28.4.1から30.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
伊藤 郁子	ボランティアグループなしのみ代表、ママヘルプ代表	
河本 道雄	光が丘地区民生・児童委員協力員	
森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部教授	副委員長
山浦 成子	練馬区社会福祉協議会理事、ねりま子育てネットワーク代表	委員長
永野 攝子	NPO 法人むすび理事長	
玉井 弘子	大泉学園まちづくりネット、主任児童委員	
須藤 朔宏	しあわせ福祉ネット・関	
小林 ひろみ	練馬区練馬高齢者相談センター練馬区役所支所	
山根 由美子	練馬区福祉部管理課長	
河島 京美	練馬区社協地域福祉課長	

権利擁護センターほっとサポートねりま運営委員会委員 (任期：28.4.1から30.3.31まで)

氏名	所属等	役割等
飯村 史恵	立教大学准教授	副委員長
上山 浩司	社団法人成年後見センター「リーガルサポート」東京支部	
松澤 勝	NPO 法人練馬精神障害者家族会 理事長	
土肥 尚子	東京弁護士会高齢者・障害者総合支援センター「オアシス」	委員長
中島 加代子	認知症の人を支える家族の会「木瓜の花」代表	
中村 妙子	社団法人東京社会福祉士会権利擁護センター「ばあとなあ東京」	
長谷川 和子	区立福祉園父母の会連絡会副代表	
小泉 晴子	NPO 法人成年後見推進ネットこれから理事長	
山根 由美子	練馬区福祉部管理課長	
河島 京美	練馬区社協地域福祉課長	

練馬障害福祉人材育成・研修センター運営協議会委員（任期：27.4.1 から 29.3.31 まで）

氏名	所属等	役割等
高山 直樹	東洋大学社会学部社会福祉学科教授	委員長
中島 修	文京学院大学人間学部人間福祉学科准教授	副委員長
柴山 耕史	社会福祉法人未来・ねりま ねりま高松事業所 ねりまグループホーム高松主任	※障事連
鈴木 英典	NPO 法人ほっとすぺーす ほっとすぺーす練馬所長	※障事連
渡辺 智生	練馬山彦福祉会やまびこ三原荘サービス管理責任者・世話人	※障事連
的野 碩郎	練馬区視覚障害者福祉協会会長、練馬区障害者団体連合会会長	※※障団連
市川 明臣	練馬区聴覚障害者協会会長、練馬区障害者団体連合会副会長	※※障団連
竹治 正人	大泉クリニック居宅介護支援事業所	※※※事連協
鴨治 慎吾	区内在住当事者	
長澤 泉	区内在住当事者	
日比野 敏子	当事者家族	
河野 敦子	練馬区社会福祉事業団サービス向上担当課課長 練馬介護人材育成・研修センター所長	練馬介護人材育成・研修センター
吉岡 直子	練馬区福祉部障害者サービス調整担当課長	行政
河島 京美	練馬区社協地域福祉課長	

※練馬区障害福祉サービス事業者連絡会

※※練馬区障害者団体連合会

※※※練馬区介護サービス事業者連絡協議会

生活サポートセンター運営委員会委員（任期：28.4.1 から 30.3.31 まで）

氏名	所属等	役割等
今井 伸	田園調布学園大学准教授	
藤田 孝典	NPO 法人ほっとプラス代表理事	
山本 悠一	弁護士	
井口 正樹	民生児童委員・保護司	委員長
佐藤 多佳子	主任児童委員	
山浦 成子	練馬区社協理事、ねりま子育てネットワーク代表	副委員長
佐藤 礼子	ねりま若者サポートステーション所長	
中迫 誠	社会福祉法人練馬区社会福祉事業団大泉特別養護老人ホーム施設長	
青木 伸吾	有限会社アオキトゥーワン代表取締役	
宮原 恵子	練馬子ども家庭支援センター所長	
山田 達也	練馬区練馬総合福祉事務所長（～H29.1.09）	
北沢 武宏	練馬区練馬総合福祉事務所長（H29.1.10～）	
河島 京美	練馬区社協地域福祉課長	

職員の配置状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

	経営管理課						地域福祉課				合計
	総務係	白百合	かたりB型	かたり移行	きらら	ういんぐ	ボラセン	ほっと	研修センター	生活SC	
事務局長	1										1
課長	1						1				2
所長	1	1	1		1	1	1	1	1	1	9
主査	2										2
事務	常勤職員	7	1	1			8	5	1	5	28
	非常勤職員	6					7	3	2	1	19
支援員	常勤職員		5	10	2	5	5				27
	非常勤職員		4	4	1	2	2				13
看護師		1	1								2
栄養士			1								1
嘱託医		1	1								2
生活支援員（非常勤）								36			36
臨時職員	8	1	1		3	3	1	1			18
計	26	14	20	3	11	11	18	46	4	7	160

\*表の構成上、事務局長と経営管理課長は経営管理課総務係で、地域福祉課長はボランティア・地域福祉推進センターで人数をカウントしている。なお、育児休暇等、休職中の職員は含まれない。